

令和4年度 宮崎市男女共同参画に関する市民意識調査
＜結果報告書＞

令和4年12月
宮崎市

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法	1
3. 調査の内容	1
4. 調査の期間	1
5. 調査票の回収率	1
6. 留意事項	1
7. 回答者の属性	2
II 調査結果の分析	7
1. 男女共同参画社会に関する意識について	7
1-1 分野別男女共同参画に関する意識	7
1-2 男女共同参画に関する言葉の認知度	11
1-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方	14
1-4 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する賛成理由	16
1-5 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する反対理由	17
1-6 「男の子らしく、女の子らしく」育てるという考え方	18
1-7 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと	19
1-8 「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」の認知度・利用状況	21
1-9 自由記述の内容	21
2. 女性の活躍推進について	22
2-1 女性が職業をもつことについて	22
2-2 各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの	24
2-3 女性の昇進に対するイメージ	25
2-4 自由記述の内容	26
3. ハラスメントについて	27
3-1 職場でハラスメントを受けた経験	27
3-2 職場でハラスメントを受けたときの相談の有無、相談先	29
3-3 職場でのハラスメントを相談しなかった理由	30
3-4 自由記述の内容	30
4. ワーク・ライフ・バランスに関する意識について	31
4-1 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における「希望」の優先度	31
4-2 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における「現実」の優先度	33
4-3 自由記述の内容	33

5. 新型コロナウイルスの影響について	34
5-1 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の変化	34
5-2 自由記述の内容	37
6. 多様な性を尊重する社会づくりについて	38
6-1 自認している性別	38
6-2 恋愛感情を持つ相手の性別	39
6-3 現在、性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか	40
6-4 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う理由	42
6-5 性的少数者(LGBTQ等)が生活しやすくなるために行政がすべきこと	44
6-6 自由記述の内容	45
7. 配偶者などからの暴力(DV)について	46
7-1 結婚の状況	46
7-2 配偶者などから暴力等を受けた経験	47
7-3 配偶者などから暴力等を受けたときの相談の有無、相談先	49
7-4 配偶者などから暴力等を受けたときに相談しなかった理由	51
7-5 配偶者などから暴力等を受けたときの対応	52
7-6 配偶者などと別れなかった理由	53
7-7 子供のことを考えて別れなかった理由	55
7-8 配偶者などから暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験	56
7-9 自由記述の内容	56
8. 交際中の二人の間で起こる暴力(デートDV)について	57
8-1 交際相手がいた経験	57
8-2 交際相手から暴力等を受けた経験	57
8-3 暴力等をふるってきた交際相手の性別	58
8-4 交際相手から暴力等を受けたときの相談の有無、相談先	59
8-5 交際相手から暴力等を受けたときに相談しなかった理由	60
8-6 交際相手から暴力等を受けたときの対応	61
8-7 交際相手と別れなかった理由	61
8-8 交際相手から暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験	62
8-9 自由記述の内容	62
III 自由回答	63
IV 調査票	80

I 調査の概要

1. 調査の目的

「第三次宮崎市男女共同参画基本計画」策定の基礎資料とする。

2. 調査の方法

(1) 調査対象者の抽出方法

宮崎市の住民基本台帳に記載されている18歳から79歳の方2,000人(男女各1,000人)を無作為抽出。

(2) 調査票の配布、回収方法

調査票の配布は郵送方式。回収は郵送方式またはWEB方式。

3. 調査の内容

- (1) 男女共同参画社会に関する意識について
- (2) 女性の活躍推進について
- (3) ハラスメントについて
- (4) ワーク・ライフ・バランスに関する意識について
- (5) 新型コロナウイルスの影響について
- (6) 多様な性を尊重する社会づくりについて
- (7) 配偶者などからの暴力(DV)について
- (8) 交際中の二人の間で起こる暴力(デートDV)について

4. 調査の期間

令和4年6月17日～令和4年7月19日

5. 調査票の回収率

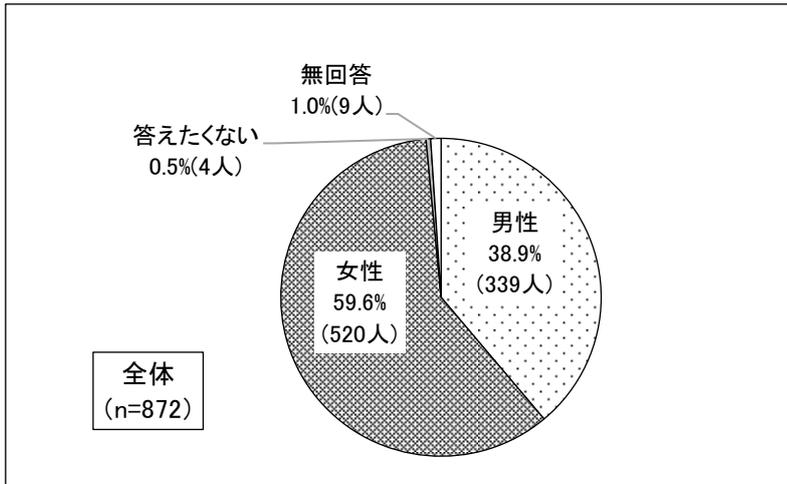
配布数	有効回答数	有効回答率
2,000 件	872 件 (郵送:626 件、WEB:246 件)	43.6%

6. 留意事項

- ・百分率は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位までを示しているため、単一回答の回答比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問は、回答比率の合計が100.0%を超える。
- ・各設問の集計母数(回答者数)は「n=」で示す。

7. 回答者の属性

(1) 戸籍上の性別(問1)



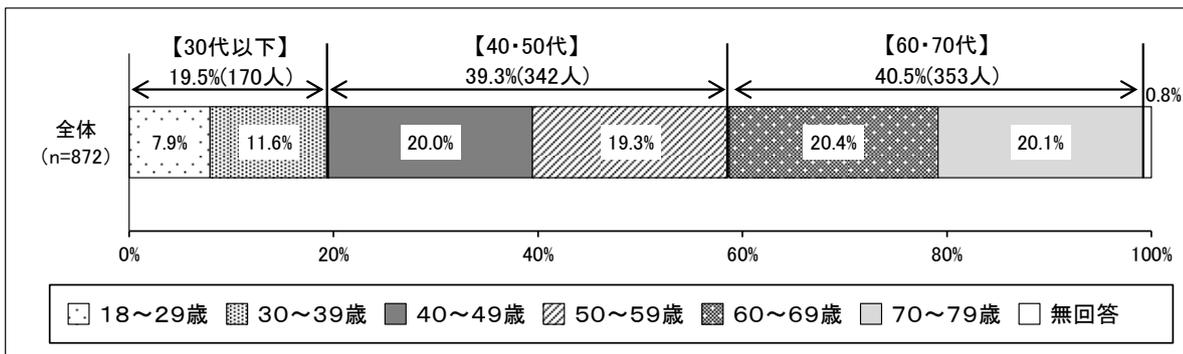
※調査対象者は、男女とも各1,000人(計2,000人)

※全体の分析は、「答えたくない」と回答された4人、「無回答」の9人を含めて行う。

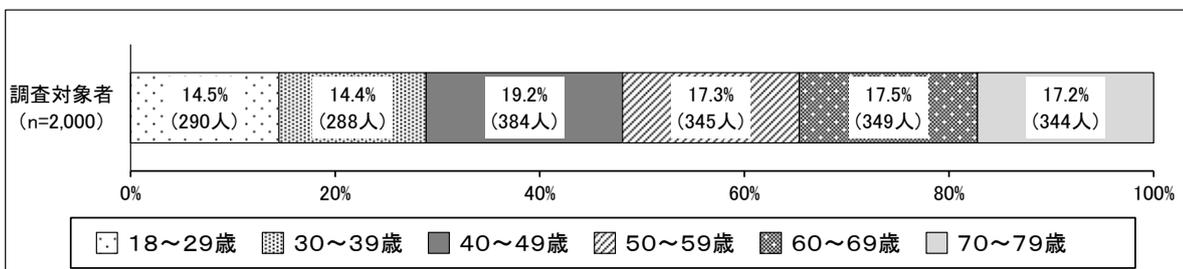
男女別の分析は、「男性」339人、「女性」520人で行う。

(2) 年齢(問2)

<全体>

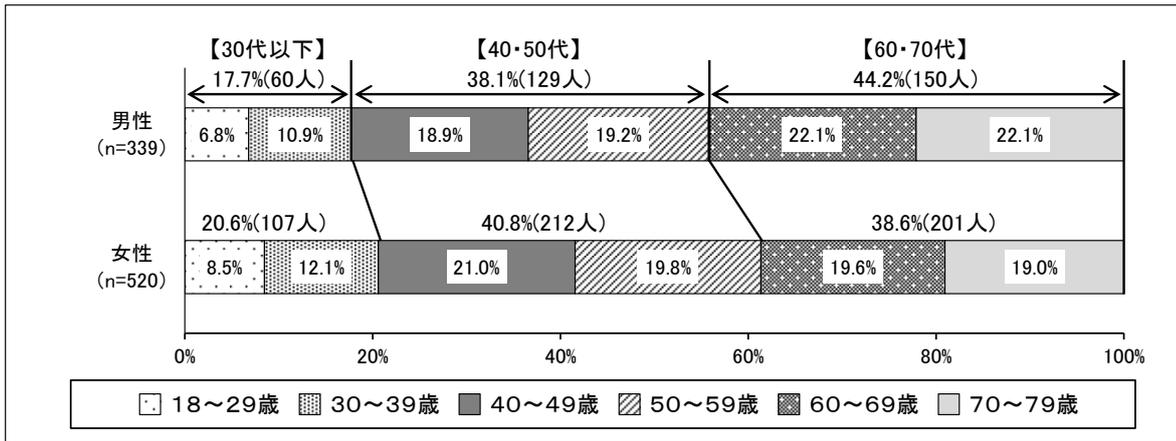


【参考】調査対象者(2,000人)の年齢構成比

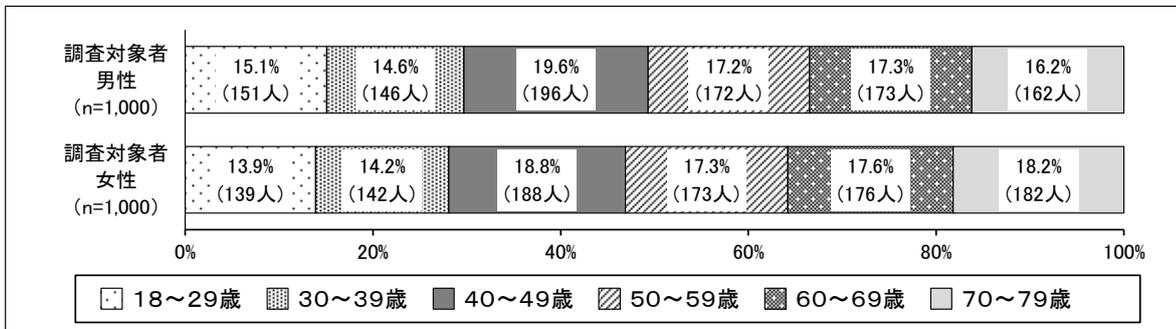


※住基人口(令和4年4月1日時点)の年齢別割合に応じて、対象者の抽出を行った。

<男女別>

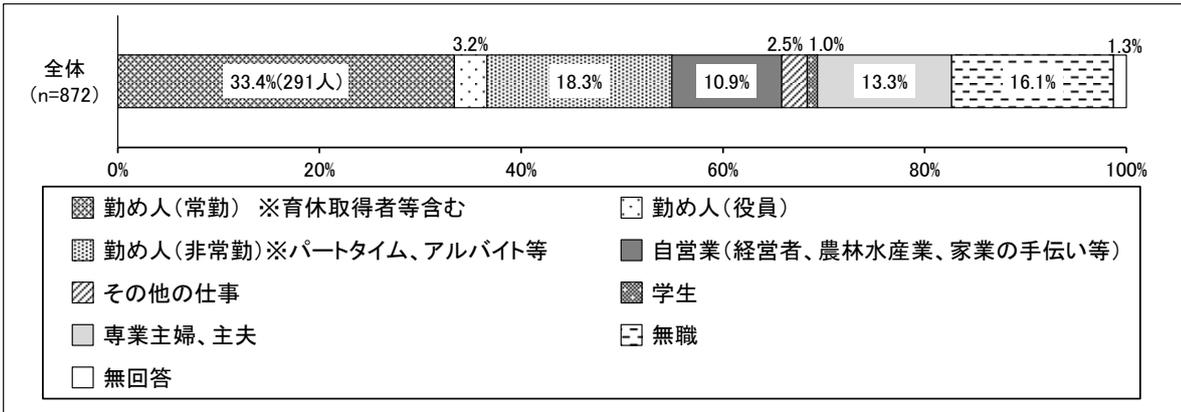


【参考】調査対象者(男性:1,000人、女性:1,000人)の年齢構成比

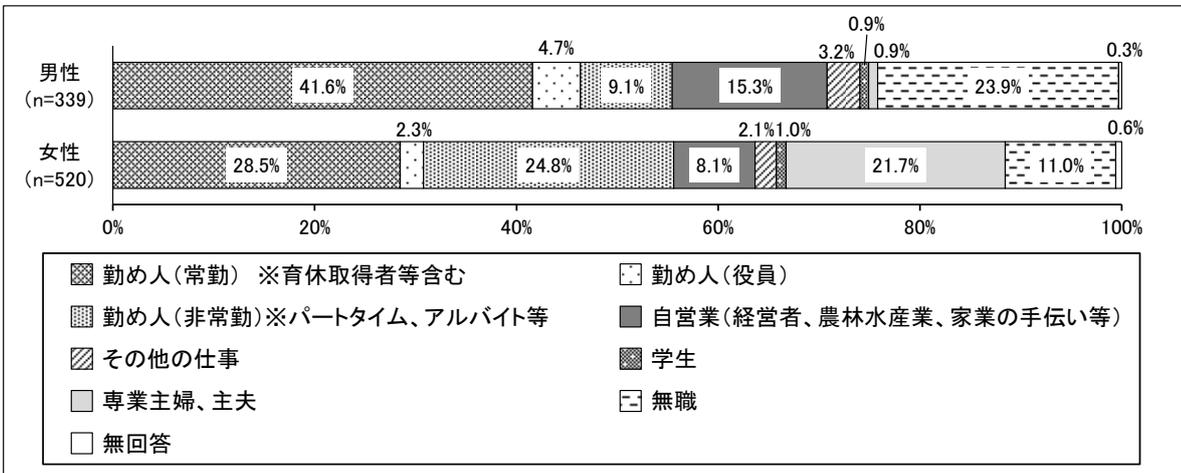


(3) 職業(問3)

<全体>

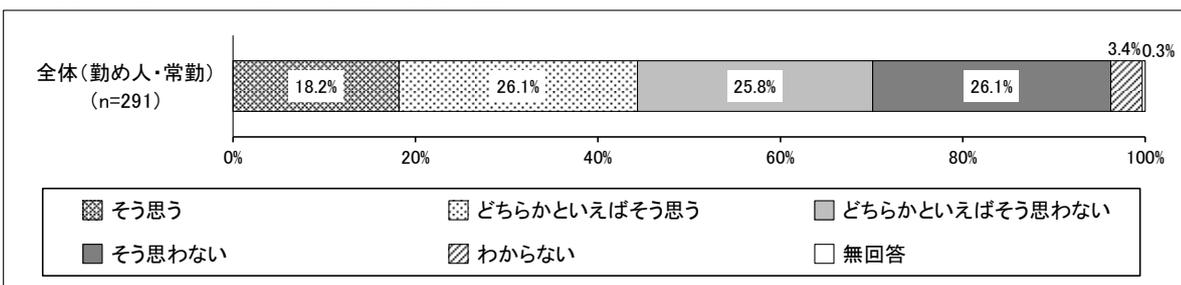


<男女別>

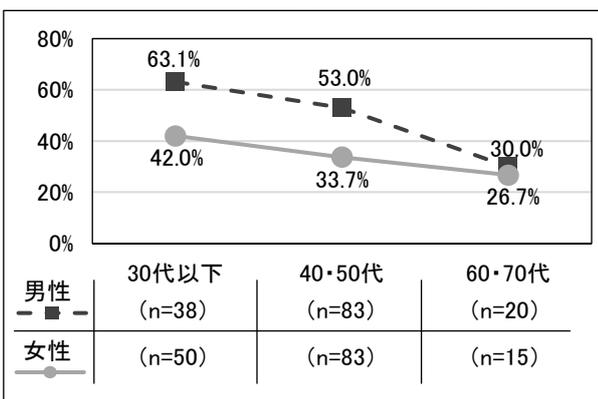


(4) 現在働いている会社での昇進の意向(問4) ※昇進したいと思うか

<全体> (勤め人・常勤) ※育休取得者等含む

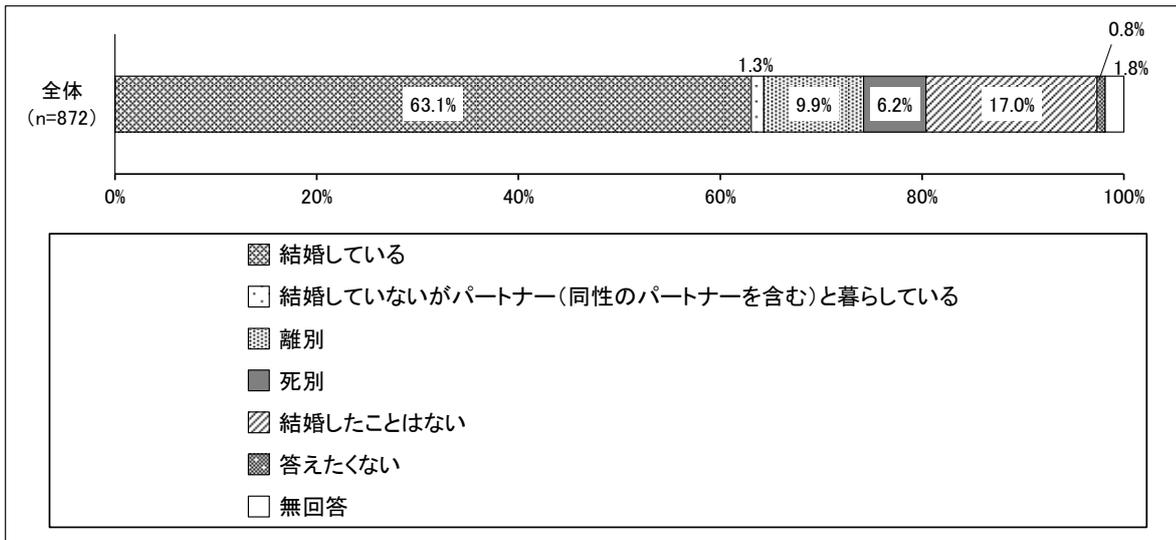


<現在働いている会社で昇進したいと「思う」人> (「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計)

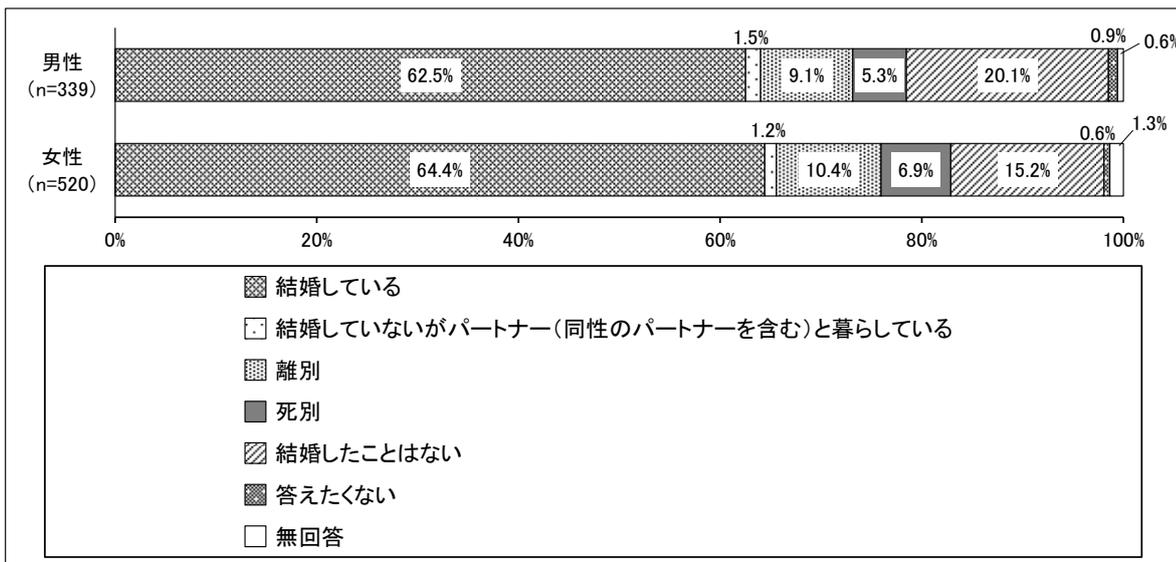


(5) 結婚の状況(問5)

<全体>

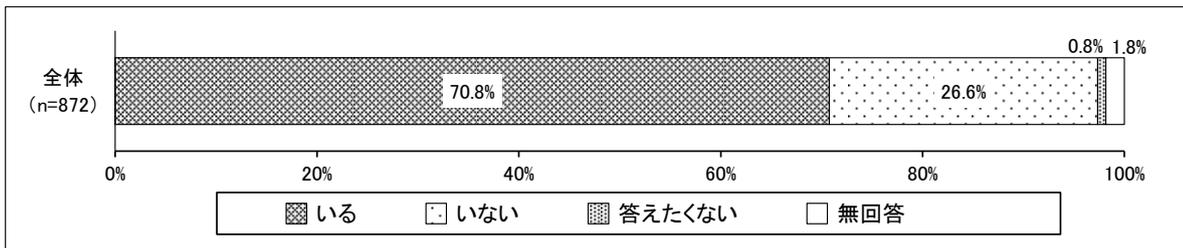


<男女別>

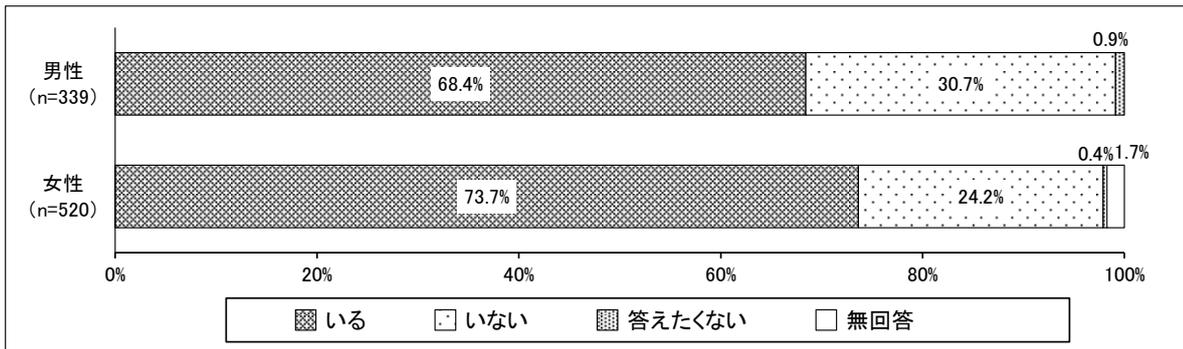


(6)子どもの有無(問6) ※子どもの年齢(年代)は不問

<全体>



<男女別>



II 調査結果の分析

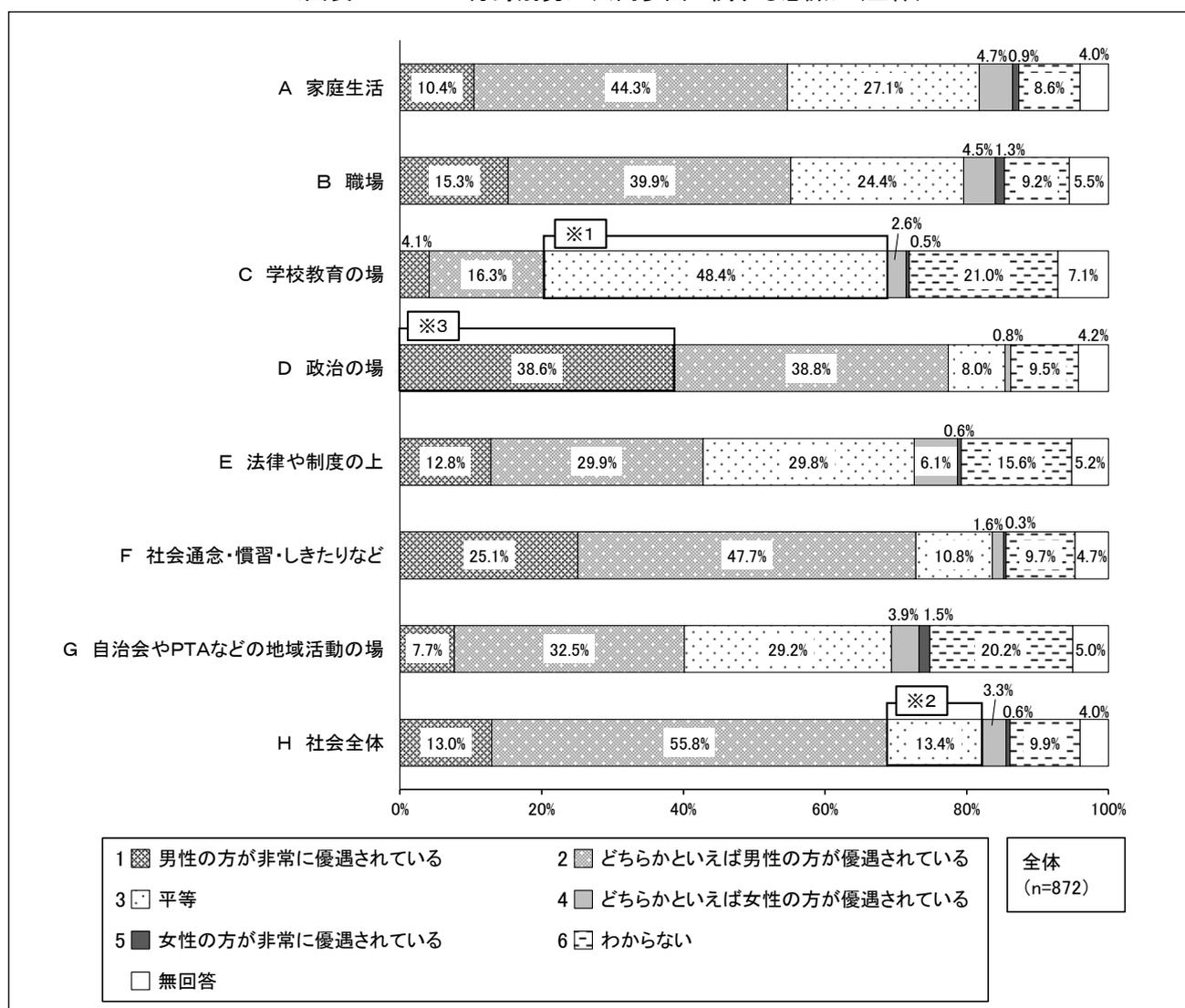
1. 男女共同参画社会に関する意識について

1-1 分野別男女共同参画に関する意識

- ◇平等と感じている割合は、「学校教育の場」が最も高く約5割、「社会全体」では約1割
- ◇特に「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」では、男性が非常に優遇されていると感じている
- ◇全ての分野において、女性が優遇されていると感じている割合は低い傾向にある

問7 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
「1」～「6」の中からあなたの気持ちに最も近い番号1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

<図表1-1-1 分野別男女共同参画に関する意識> (全体)

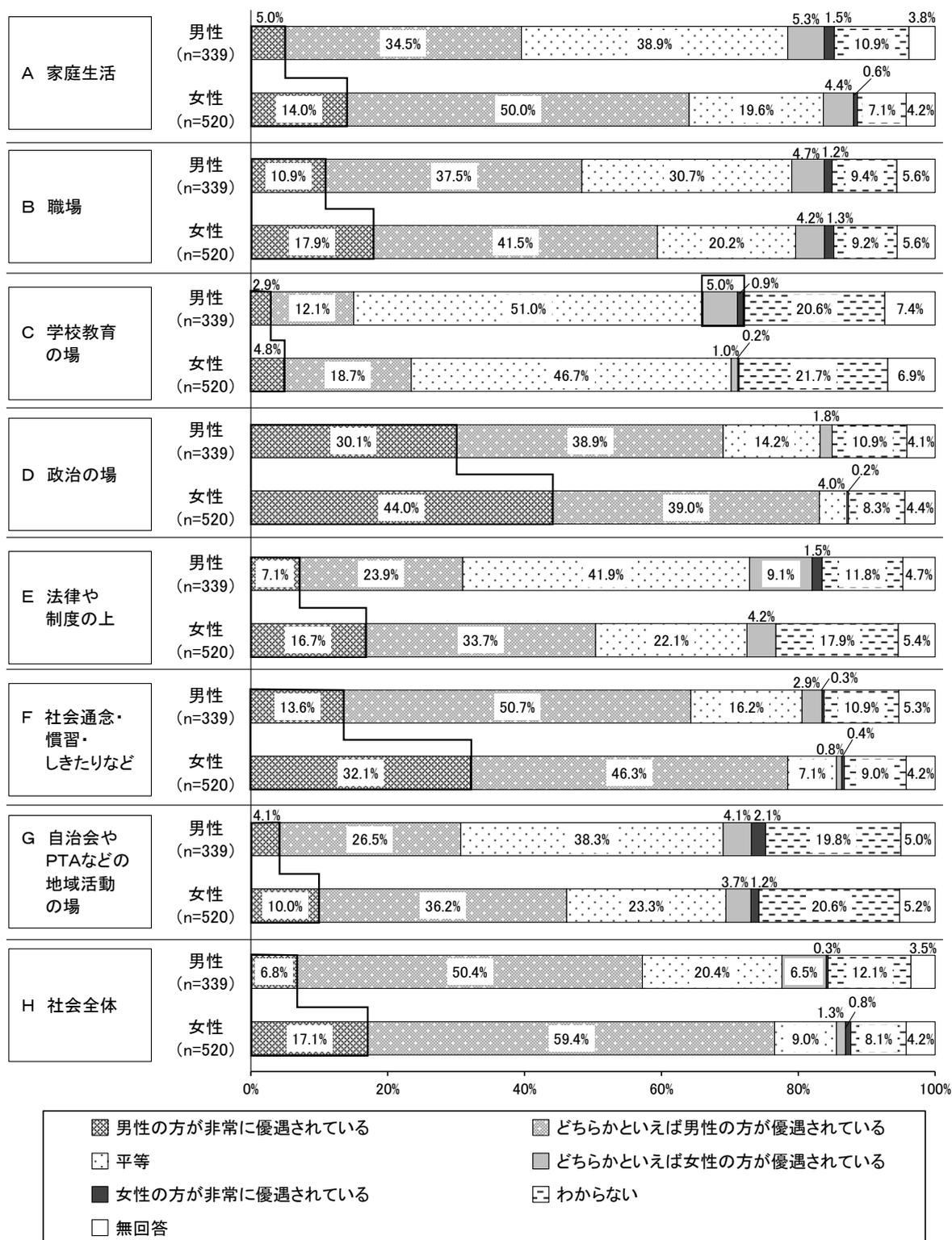


「平等」と回答した割合は「C 学校教育の場」が約半数(48.4%)で最も高く(※1)、それ以外の分野は3割未満となっている。また、「H 社会全体」について「平等」と回答した割合は13.4%(※2)にとどまっている。

「男性が非常に優遇されている」と回答した割合は、「D 政治の場」が約4割(38.6%)で最も高く(※3)、次いで「F 社会通念・慣習・しきたりなど」(25.1%)となっている。

また、全ての分野において、「女性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と回答した割合は低い。

<図表1-1-2 分野別男女共同参画に関する意識> (男女別)

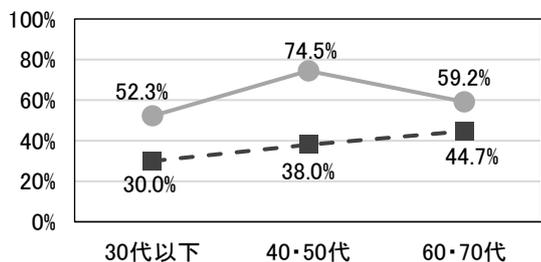


「男性の方が非常に優遇されている」と回答した割合は、全ての分野において女性が男性を上回っている。一方で、全ての分野において「平等」と回答した割合は、男性が女性を上回っている。また、男性は「平等」と感じている分野でも、女性は「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合が高い。

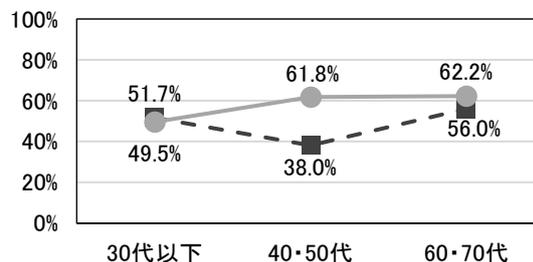
<図表1-1-3 分野別男女共同参画に関する意識> (年代別)

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合の計

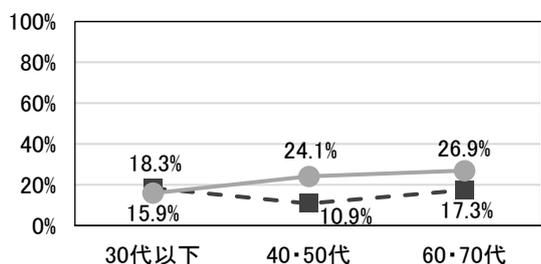
○A 家庭生活



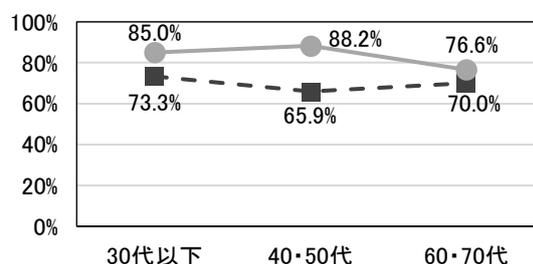
○B 職場



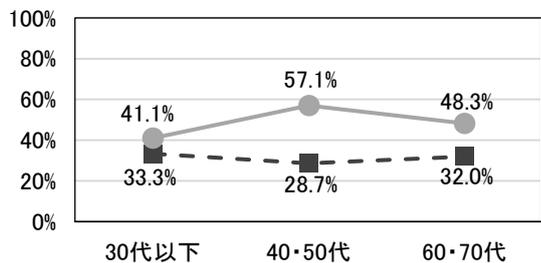
○C 学校教育の場



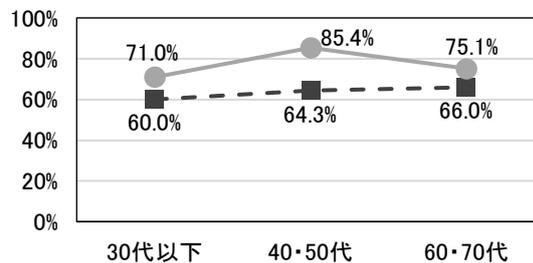
○D 政治の場



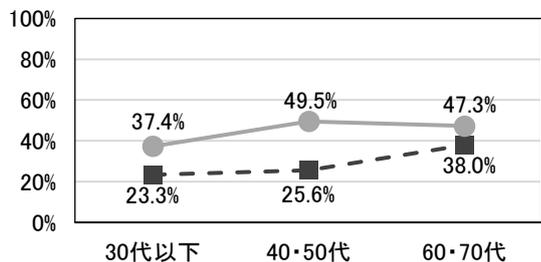
○E 法律や制度の上



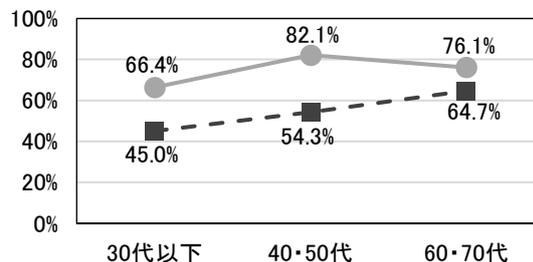
○F 社会通念・慣習・しきたりなど



○G 自治会やPTAなどの地域活動の場



○H 社会全体

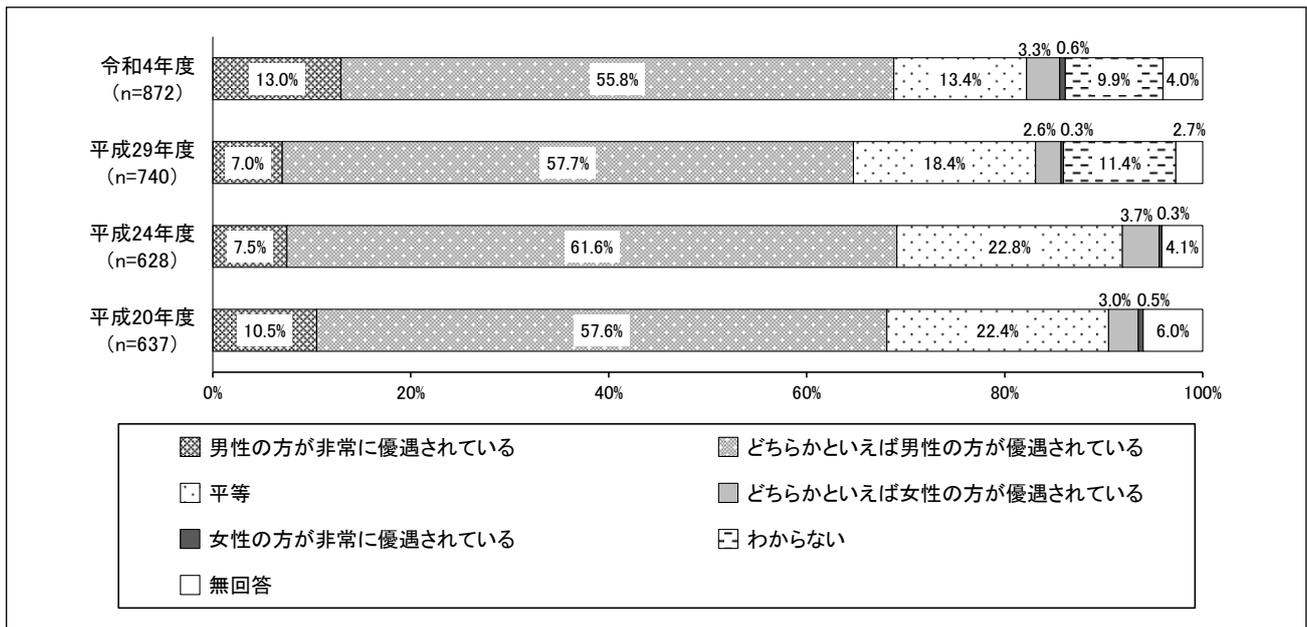


	30代以下	40・50代	60・70代
男性 - ■ -	(n=60)	(n=129)	(n=150)
女性 - ● -	(n=107)	(n=212)	(n=201)

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合の計は、ほとんどの分野で40・50代女性が高くなっている。

<図表1-1-4 分野別男女共同参画に関する意識> (過去調査との比較)

「H 社会全体」



※平成24年度と平成20年度の調査では、「わからない」という選択肢はない。

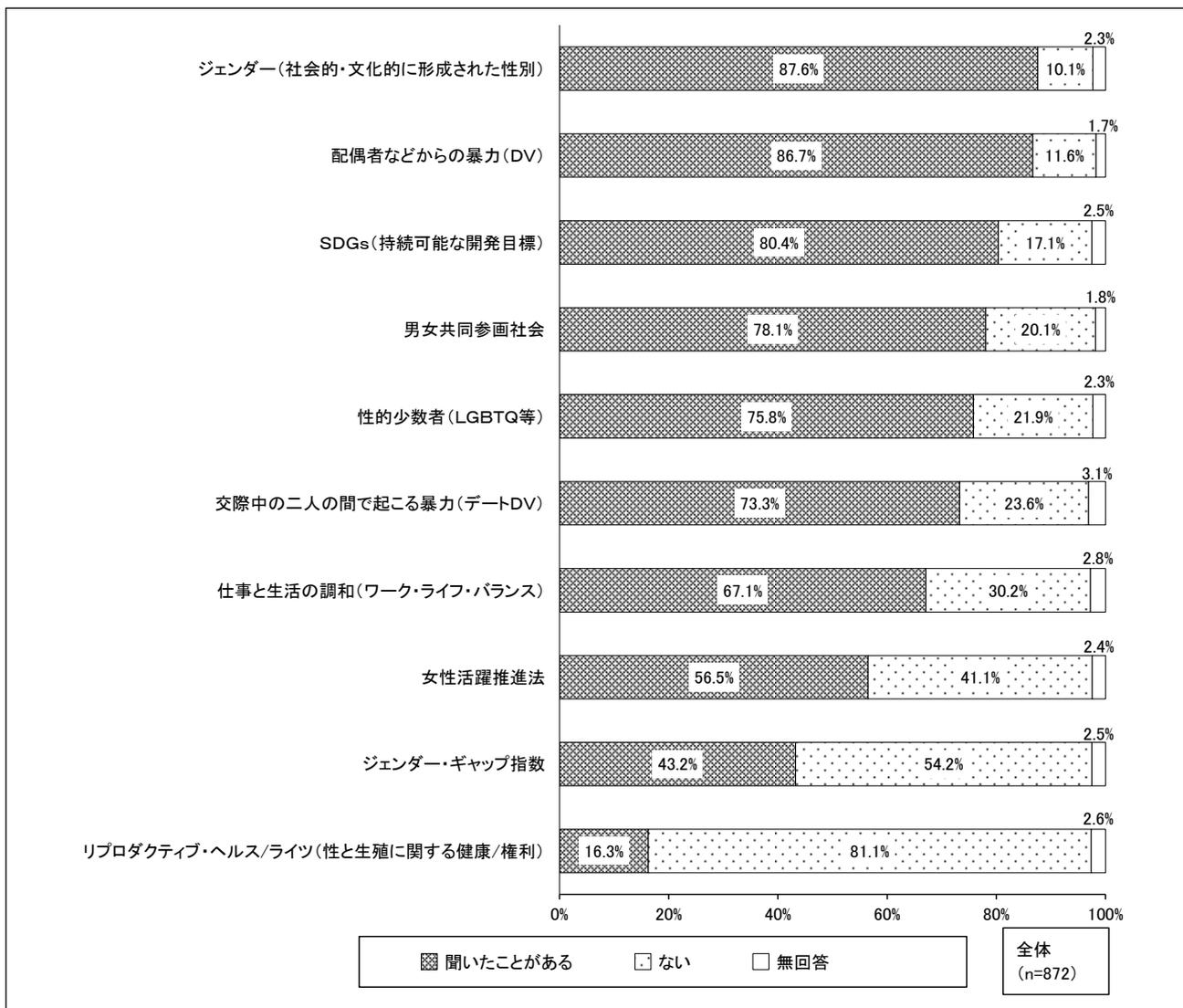
過去の調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した割合の計は、約6割で推移している。また、「平等」と回答した割合は減少傾向であるが、直近2回の調査では「わからない」という選択肢を追加している。

1-2 男女共同参画に関する言葉の認知度

◇「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」、「配偶者などからの暴力(DV)」、「SDGs(持続可能な開発目標)」という言葉の認知度は8割以上

問8 これらの言葉について、あなたは見たり聞いたりしたことがありますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

<図表1-2-1 男女共同参画に関する言葉の認知度>(全体)



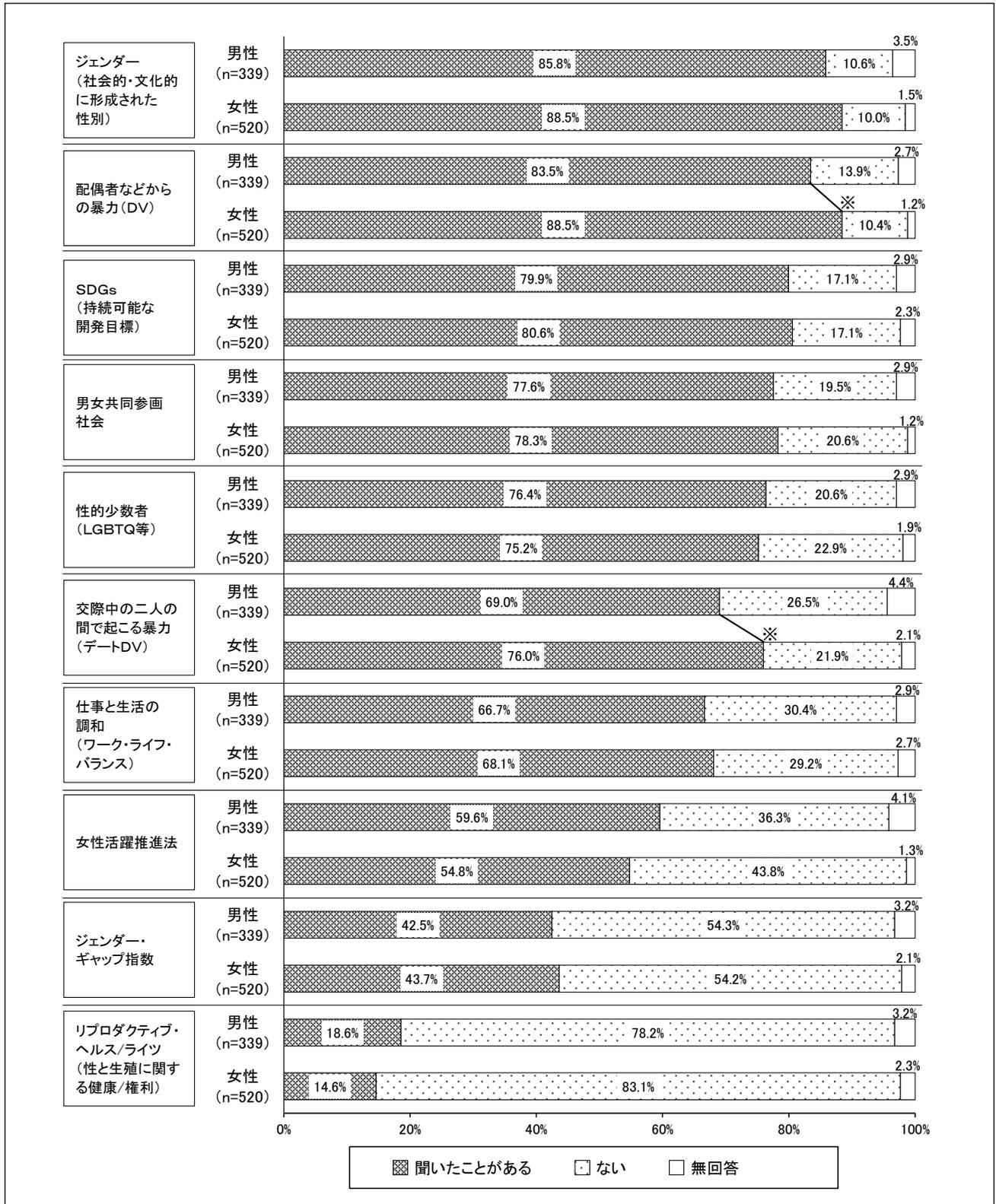
「ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)」(87.6%)、「配偶者などからの暴力(DV)」(86.7%)、「SDGs(持続可能な開発目標)」(80.4%)という言葉の認知度は8割以上である。

一方、「ジェンダー・ギャップ指数」(43.2%)、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)」(16.3%)という言葉については、聞いたことがある割合が5割を下回っており、認知度は低い状況にある。

なお、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」(67.1%)については、国の調査(※)では43.1%となっている。

※内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年9月)より

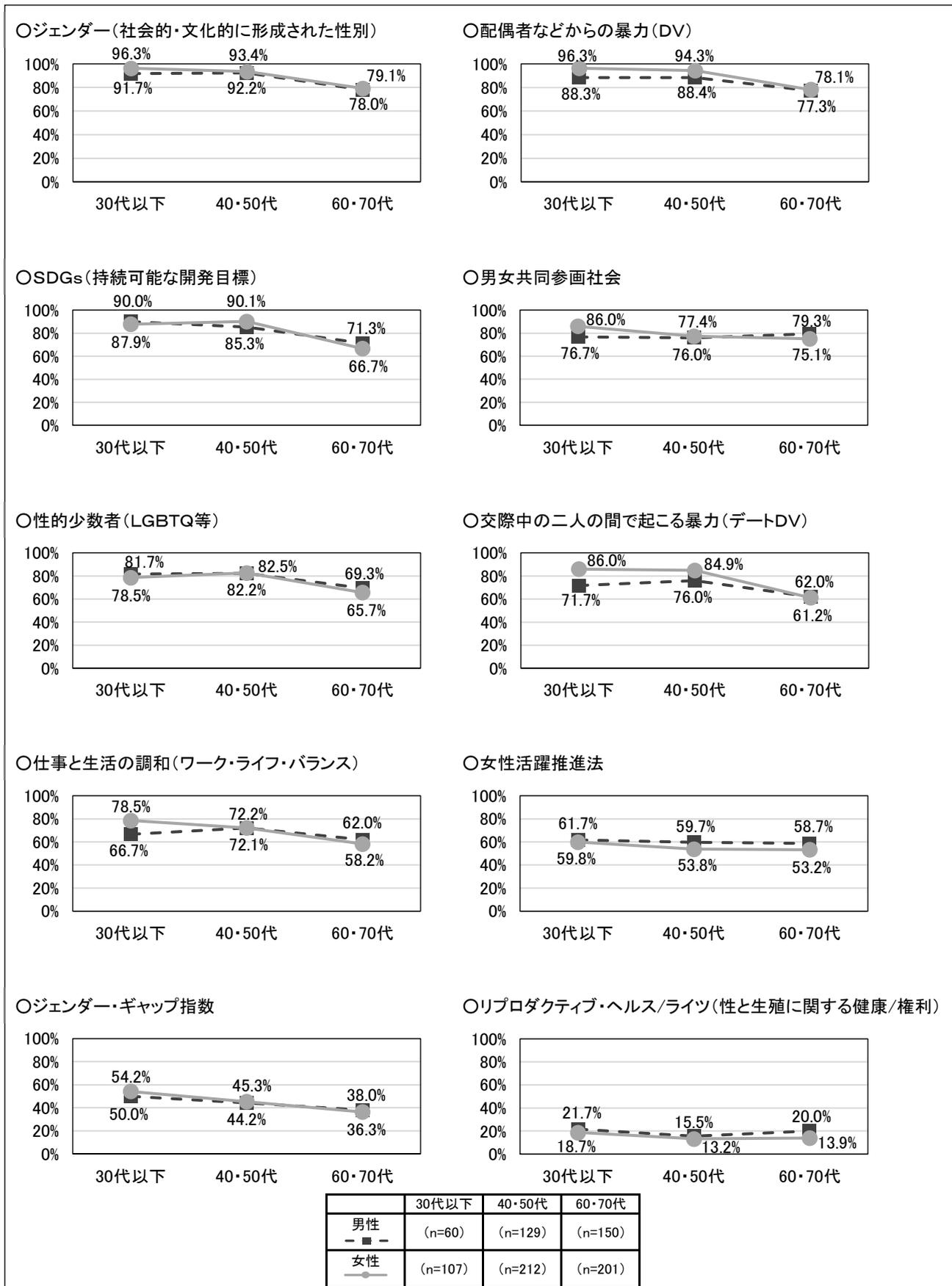
<図表1-2-2 男女共同参画に関する言葉の認知度> (男女別)



男女とも全体と同じ傾向である。その中で、「配偶者などからの暴力(DV)」、「交際の二人の間で起こる暴力(デートDV)」という言葉の認知度は、女性の方が若干高くなっている(※)。

<図表1-2-3 男女共同参画に関する言葉の認知度> (年代別)

「見たり聞いたりしたことがある」と回答した割合



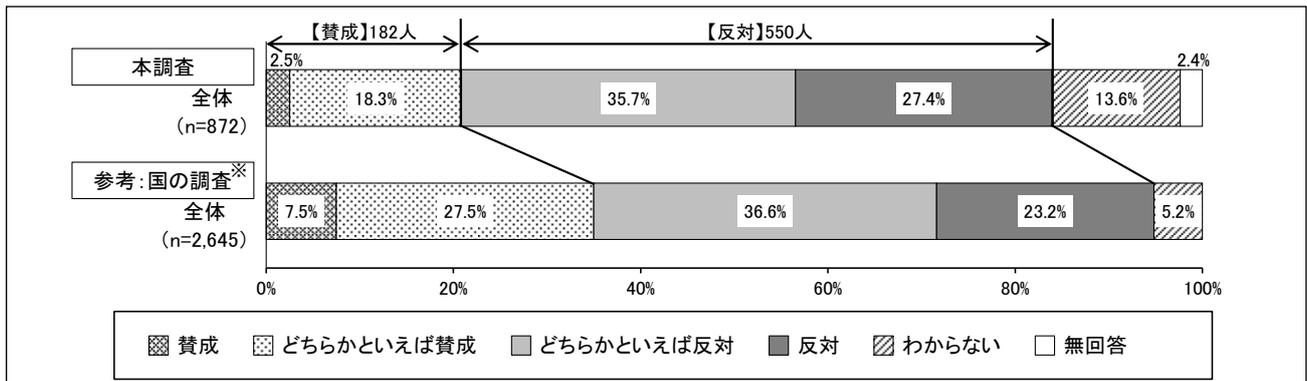
いずれの項目においても、60・70代における男女共同参画に関する言葉の認知度は、やや低い。

1-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方

◇【反対】(「反対」と「どちらかといえば反対」の計)は約6割、【賛成】(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計)は約2割

問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

＜図表1-3-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方＞(全体)

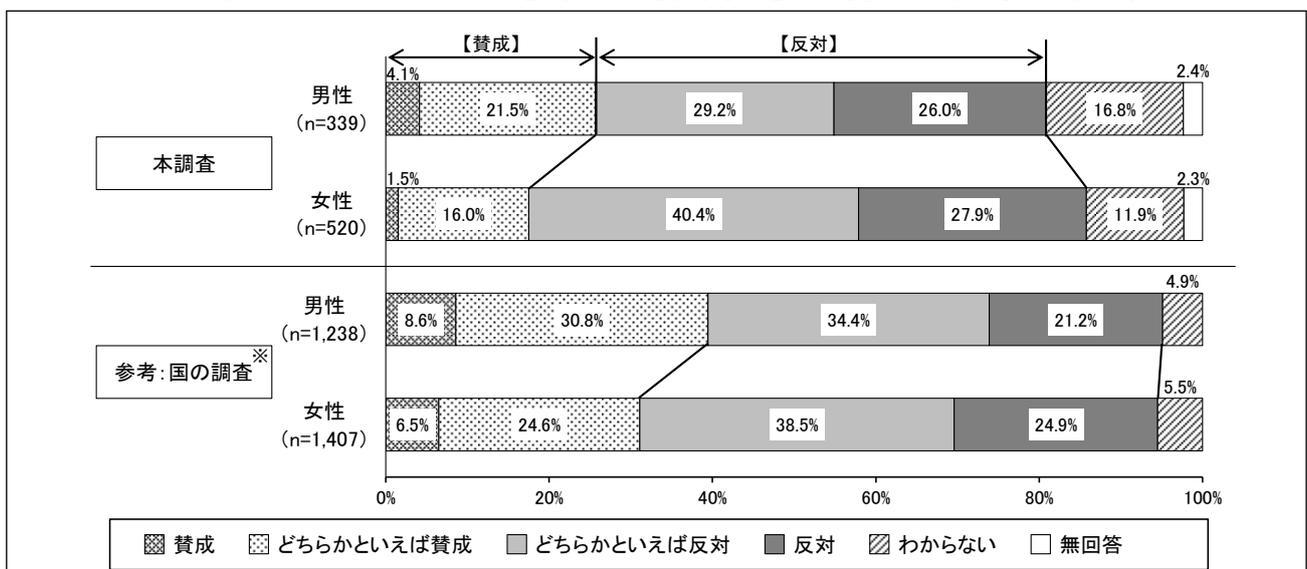


※内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年9月)より

固定的な性別役割分担の意識に対して、【反対】(「反対」と「どちらかといえば反対」の計:以下同じ)と回答した割合は約6割(63.1%)で、【賛成】(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の計:以下同じ)と回答した割合は約2割(20.8%)となっている。

国の調査では、【反対】と回答した割合は約6割(59.8%)、【賛成】と回答した割合は約4割(35.0%)となっている。

＜図表1-3-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方＞(男女別)



【賛成】…男性は87人、女性は91人

【反対】…男性は187人、女性は355人

※内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年9月)より

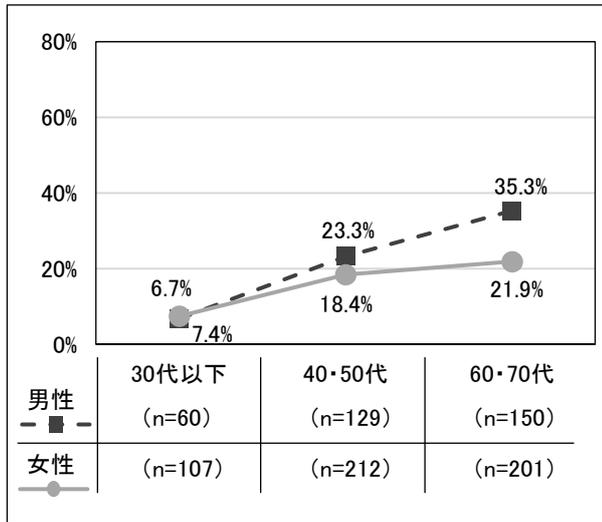
【反対】と回答した割合は、男性が約6割(55.2%)、女性が約7割(68.3%)となっている。【賛成】と回答した割合は、男性が約3割(25.6%)、女性が約2割(17.5%)となっている。

国の調査では、【反対】と回答した割合は、男女とも約6割(男性:55.6%、女性:63.4%)となっている。【賛成】と回答した割合は、男性が約4割(39.4%)、女性が約3割(31.1%)となっている。

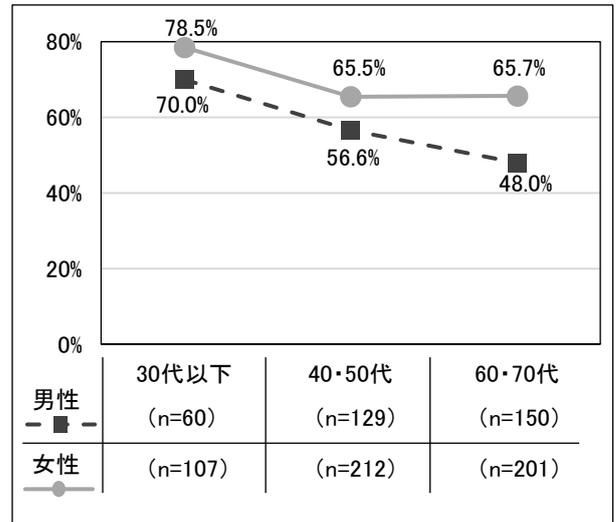
<図表1-3-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方> (年代別)

本調査

【賛成】



【反対】



固定的な性別役割分担の意識に【反対】と回答した割合は、各年代を男女で比較すると、いずれも女性が男性を上回っており、60・70代の男女間では他の年代より大きな差が見られる。

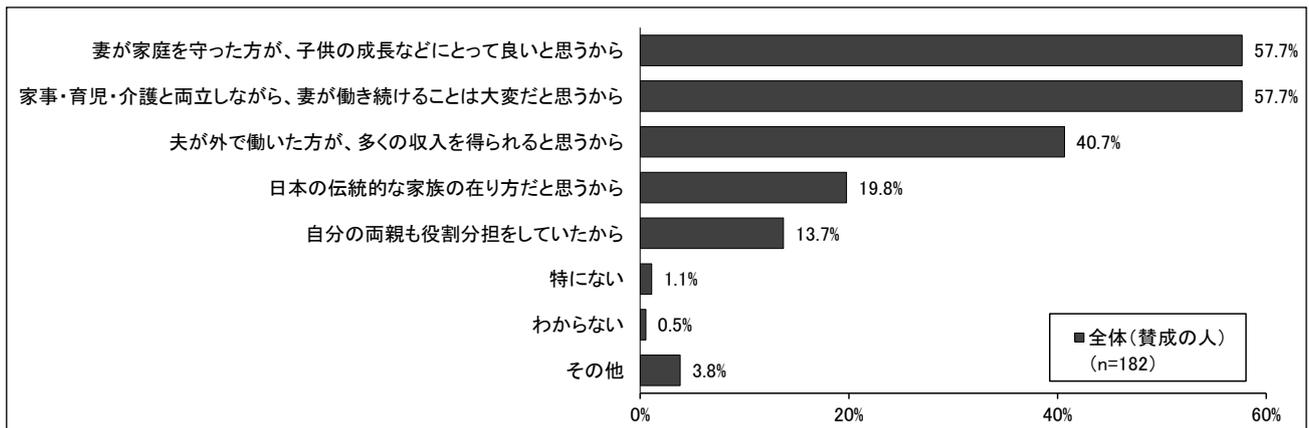
1-4 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する賛成理由

◇子供の成長のため、両立の大変さという賛成理由が約6割

◇女性は、両立の大変さ、収入の得やすさを、男性は伝統、両親がしていたからという理由を回答した割合が高い

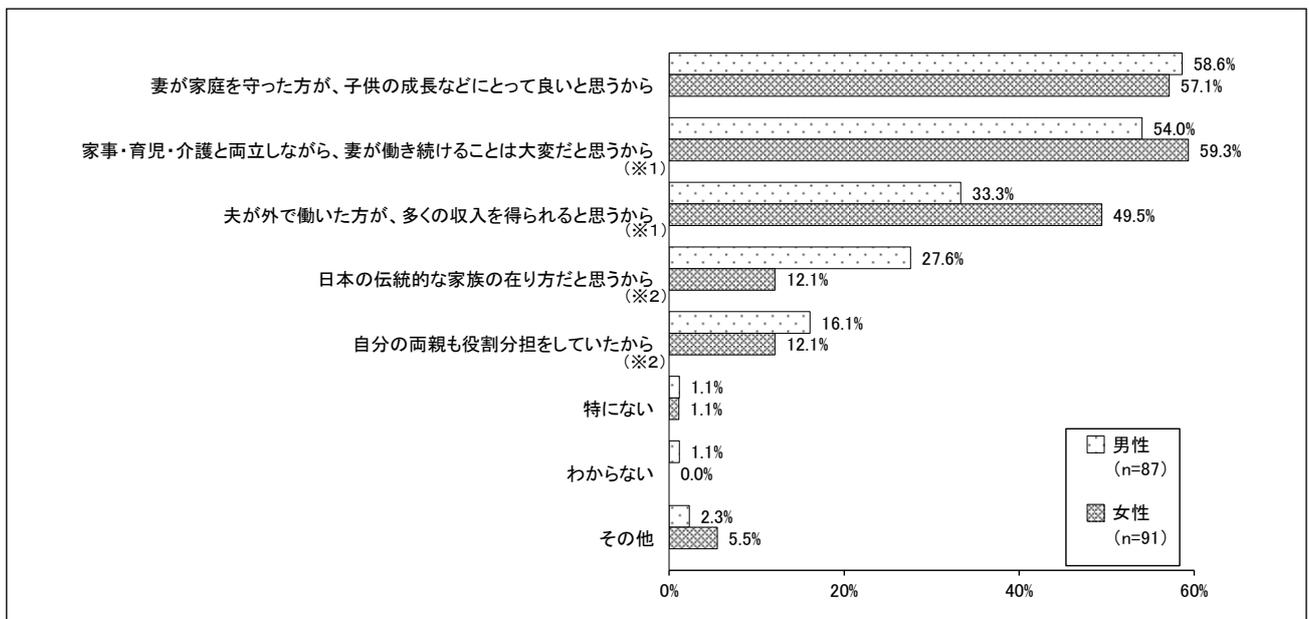
問9-1 問9で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。それはなぜですか。
(○はいくつでも)

＜図表1-4-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する賛成理由＞(全体・要件該当者)



「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」と回答した割合が約6割(ともに57.7%)となっている。

＜図表1-4-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する賛成理由＞(男女別)



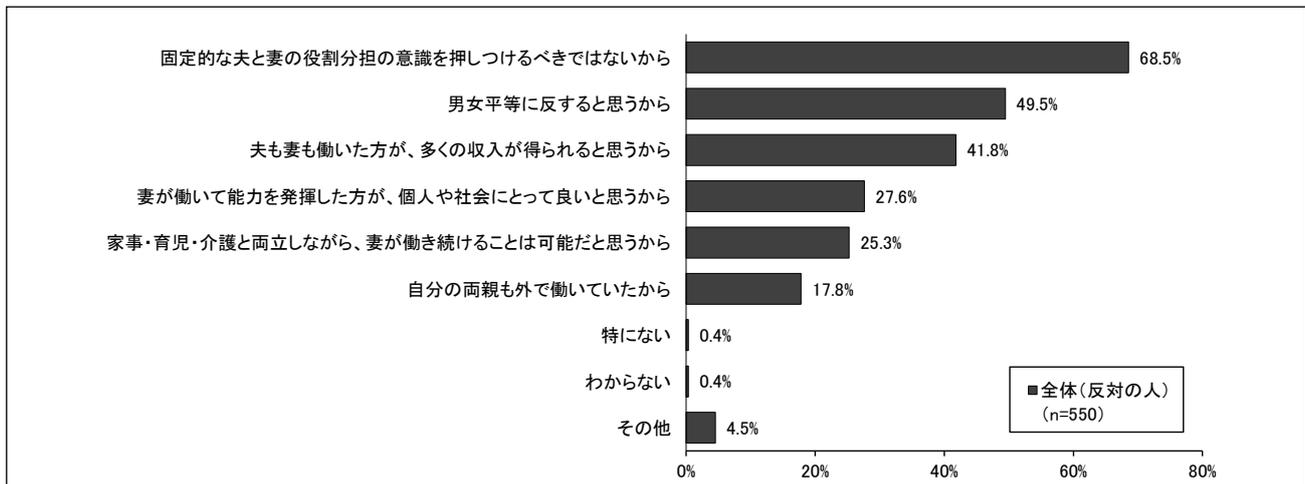
男女とも全体と同じ傾向となっている。中でも、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(※1)という理由は、女性の割合が高くなっている。また、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」、「自分の両親も役割分担をしていたから」(※2)という理由は、男性の割合が高くなっている。

1-5 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する反対理由

◇「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」という反対理由が約7割

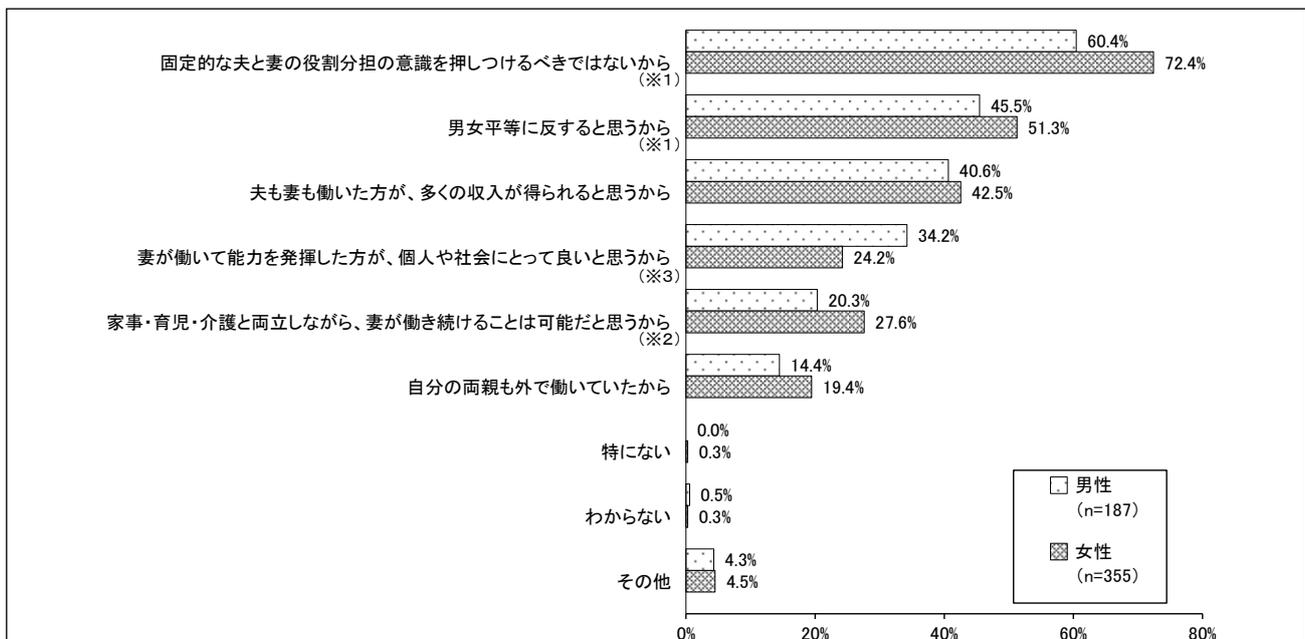
問9-2 問9で「どちらかといえば反対」、「反対」と答えた方におたずねします。それはなぜですか。
(○はいくつでも)

<図表1-5-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する反対理由> (全体・要件該当者)



「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」と回答した割合は約7割(68.5%)で最も高く、次いで「男女平等に反すると思うから」(49.5%)、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」(41.8%)となっている。

<図表1-5-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」に対する反対理由> (男女別)



男女とも全体と同じ傾向となっている。その中でも、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」、「男女平等に反すると思うから」(※1)や「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」(※2)と回答した割合は、男性よりも女性が高くなっている。

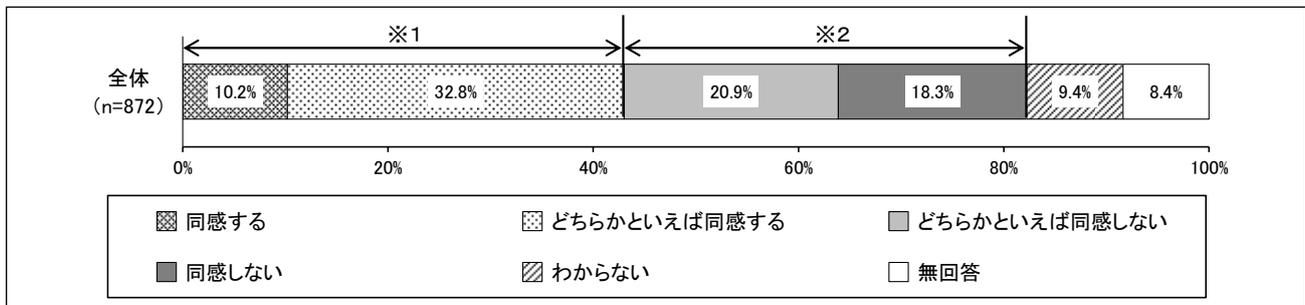
また、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」(※3)と回答した割合は、女性よりも男性が高くなっている。

1-6 「男の子らしく、女の子らしく」育てるという考え方

◇「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答した割合の計と、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」と回答した割合の計は、ともに約4割

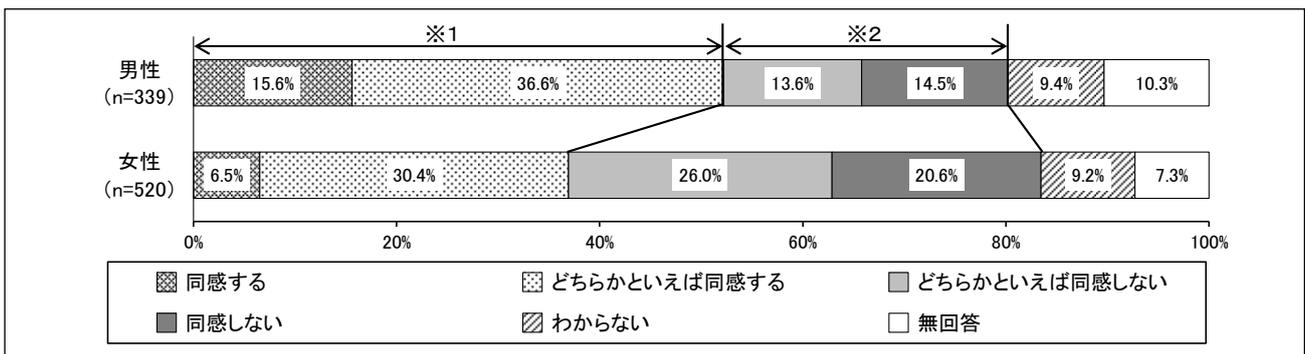
問10 「男の子は、男の子らしく」、「女の子は、女の子らしく」育てるといふ考え方について、「あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

＜図表1-6-1 「男の子らしく、女の子らしく」育てるといふ考え方＞(全体)



「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答した割合の計(※1)は43.0%、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」と回答した割合の計(※2)は39.2%で、ともに約4割となっている。

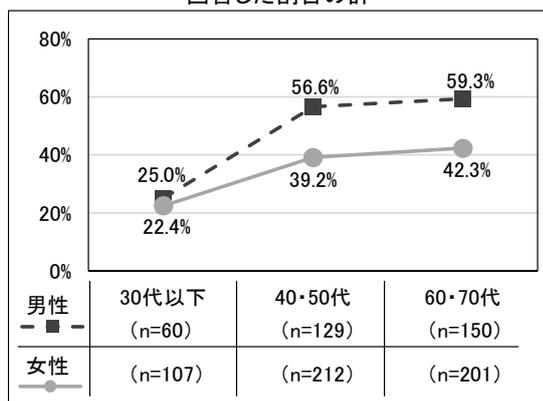
＜図表1-6-2 「男の子らしく、女の子らしく」育てるといふ考え方＞(男女別)



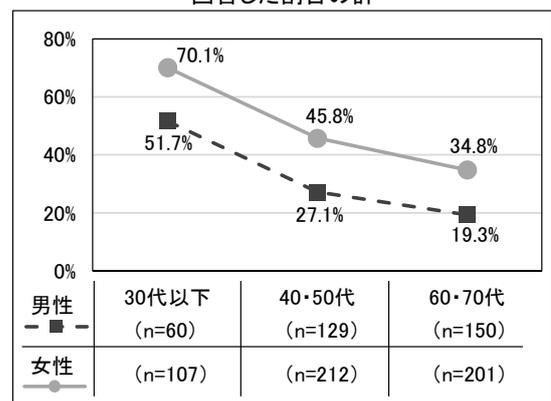
「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答した割合の計(※1)は、男性が女性を上回っている(男性:52.2%、女性36.9%)。また、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」と回答した割合の計(※2)は、女性が男性を上回っている(女性:46.6%、男性28.1%)。

＜図表1-6-3 「男の子らしく、女の子らしく」育てるといふ考え方＞(年代別)

「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答した割合の計



「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」と回答した割合の計



男女とも若い年代ほど「同感する」と「どちらかといえば同感する」と回答した割合の計は低く、年代が上がるにつれて、その割合は高くなっている。

男女とも若い年代ほど「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」と回答した割合の計は高く、年代が上がるにつれて、その割合は低くなっている。

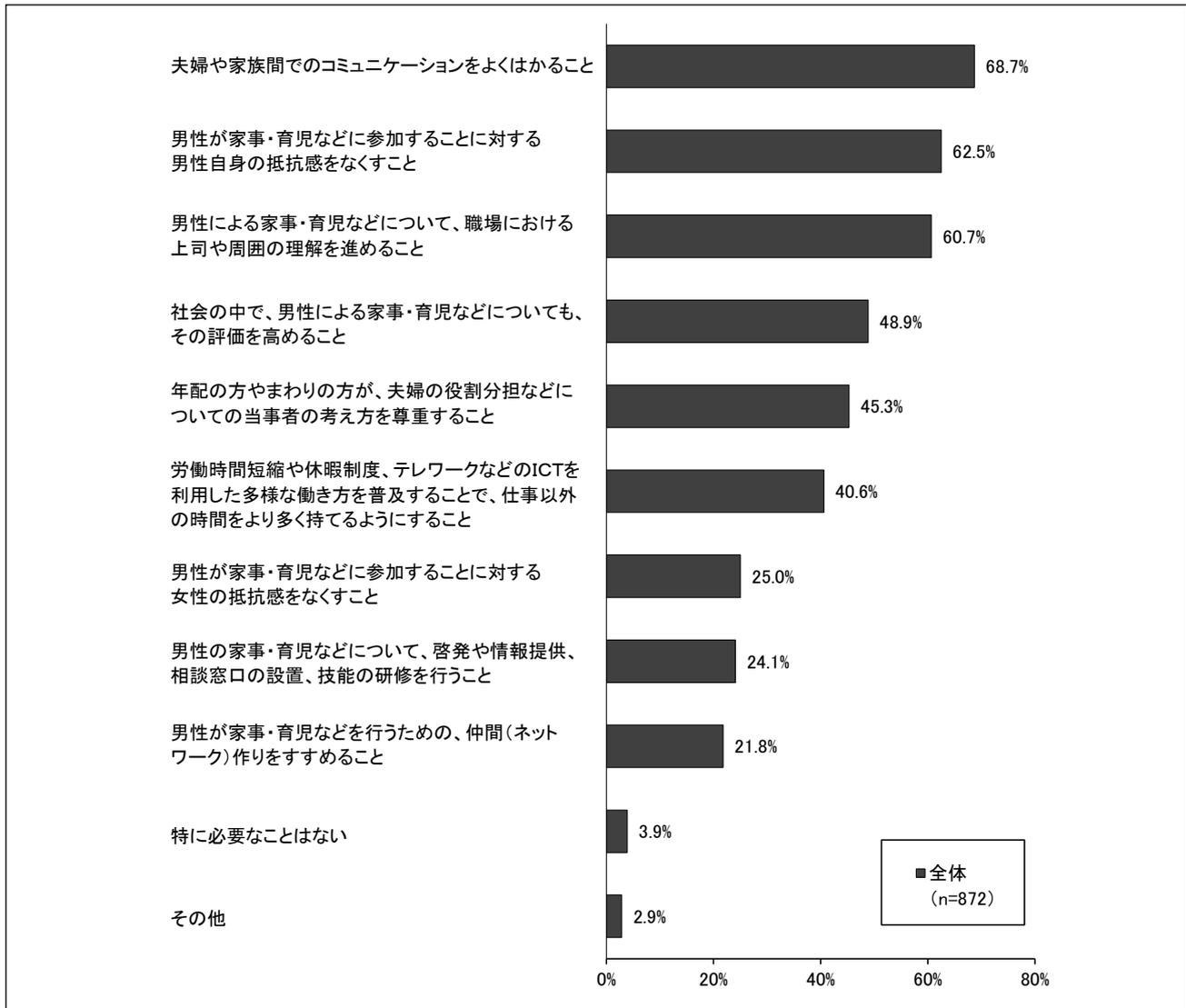
1-7 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと

◇男女とも約7割が「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と回答

◇次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、
「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」

問11 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加し、主体的に関わっていくためには、
どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

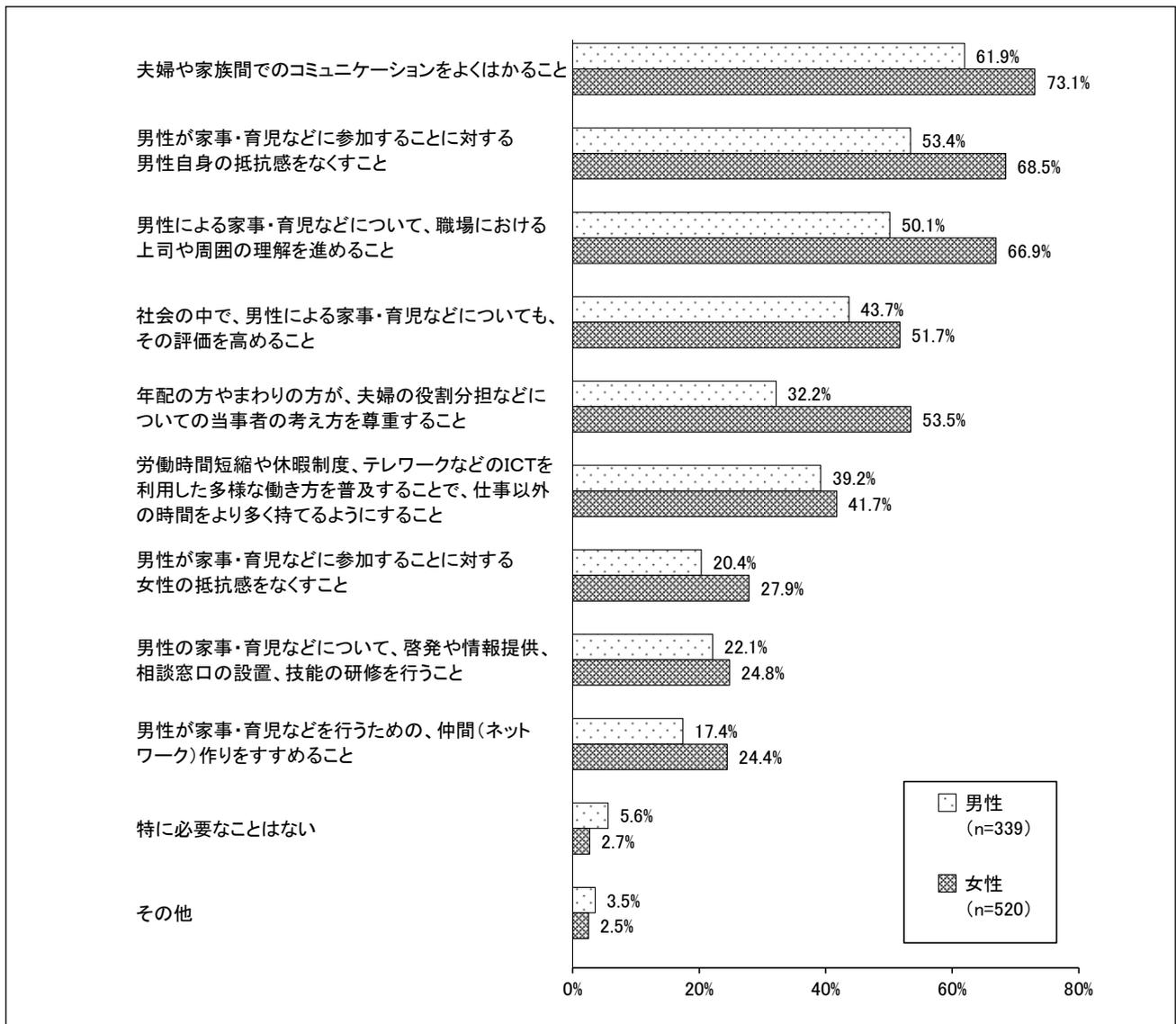
<図表1-7-1 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと>(全体)



「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と回答した割合が約7割(68.7%)で最も高く、家庭で十分なコミュニケーションをはかる時間が確保される必要がある。

次いで「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」、「社会の中で、男性による家事・育児などについても、その評価を高めること」となっている。

＜図表1-7-2 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加するために必要なこと＞（男女別）



「特に必要なことはない」、「その他」以外の全ての項目について、女性の割合が高くなっている。

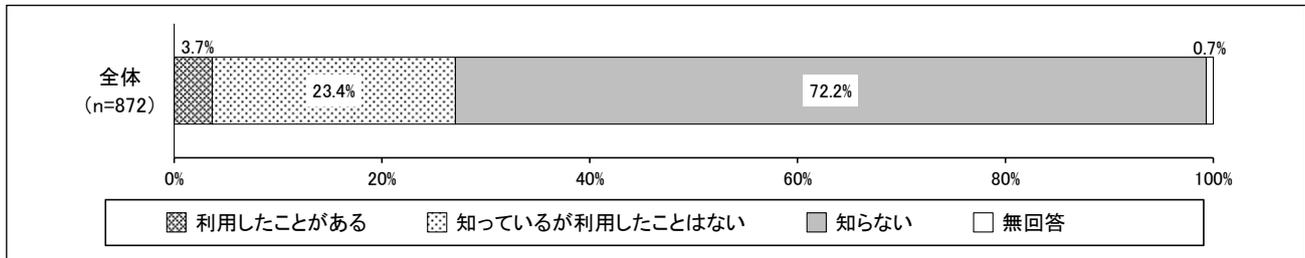
1-8 「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」の認知度・利用状況

◇約7割が「知らない」と回答

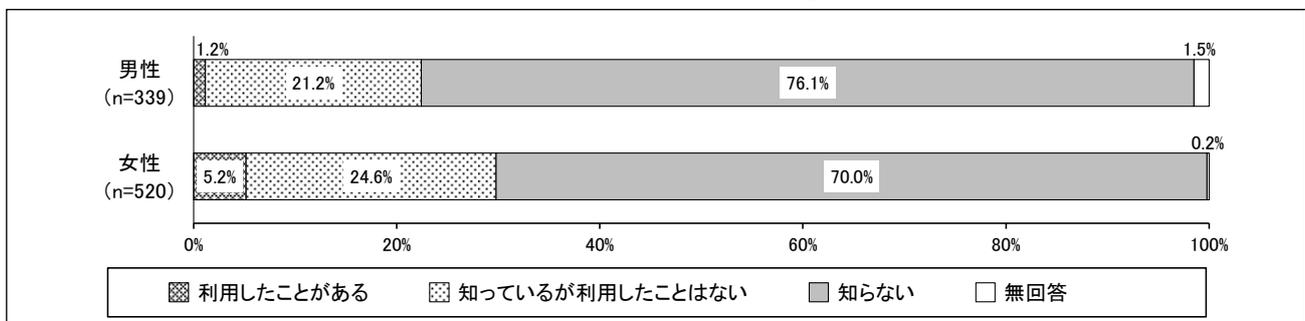
◇「利用したことがある」人は、女性は約20人に1人、男性はほとんどいない

問12 宮崎市の男女共同参画社会の形成に関する拠点施設「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」を利用したことがありますか。(○は1つ)

＜図表1-8-1 「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」の認知度・利用状況＞(全体)

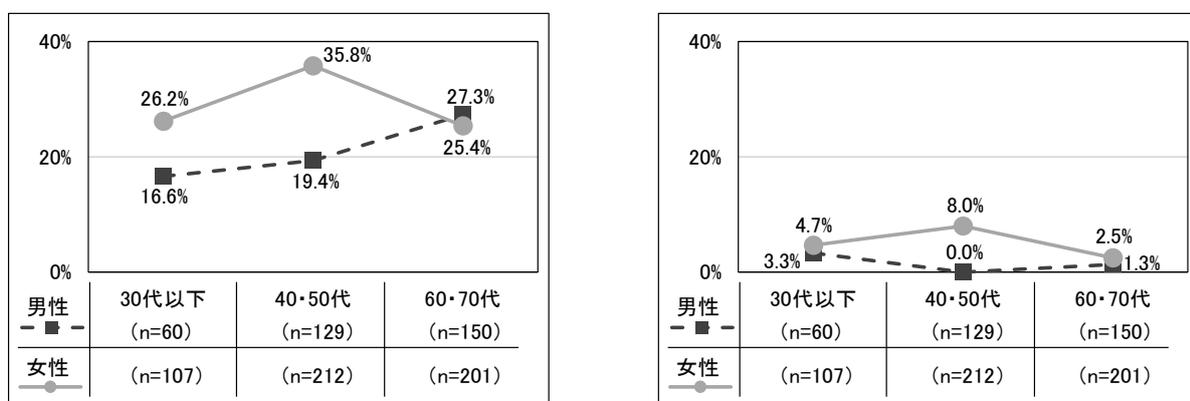


＜図表1-8-2 「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」の認知度・利用状況＞(男女別)



「知っている」(「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」の計:以下同じ)割合は、全体的に低い、女性の方が高い。また、利用状況は、男性は約100人に1人(1.2%)でほとんどおらず、女性は約20人に1人(5.2%)となっている。

＜図表1-8-3 「宮崎市男女共同参画センター(パレット)」の認知度・利用状況＞(年代別)



認知度、利用状況ともに、40・50代女性の割合が最も高くなっている。

1-9 自由記述の内容

問13 「男女共同参画社会に関する意識」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.63～65に掲載

2. 女性の活躍推進について

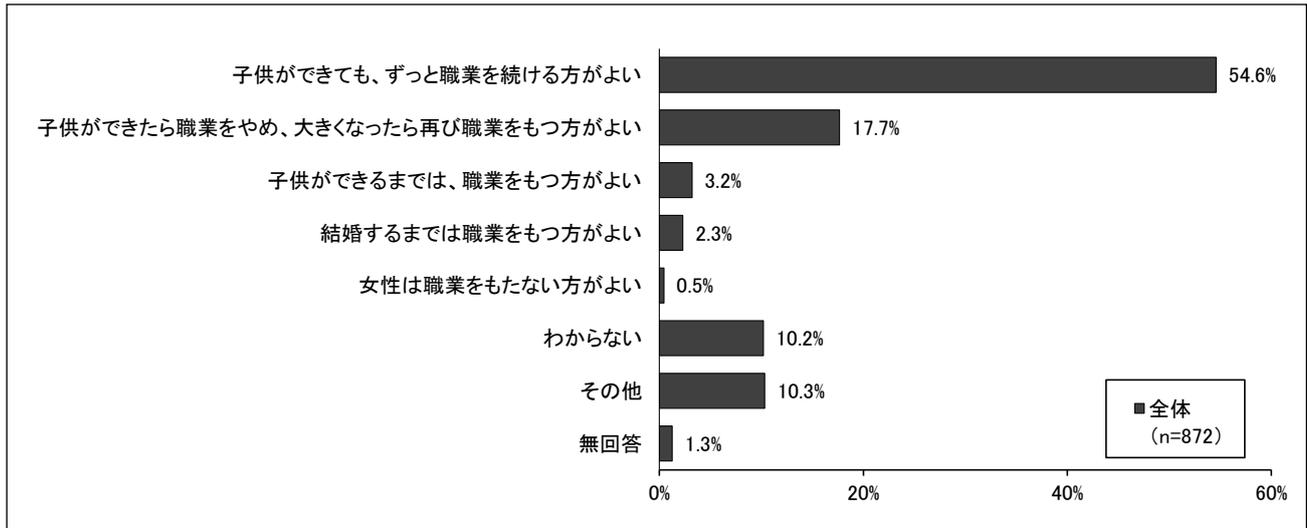
2-1 女性が職業をもつことについて

◇約半数が「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答

◇男女別、年代別とも同じ傾向

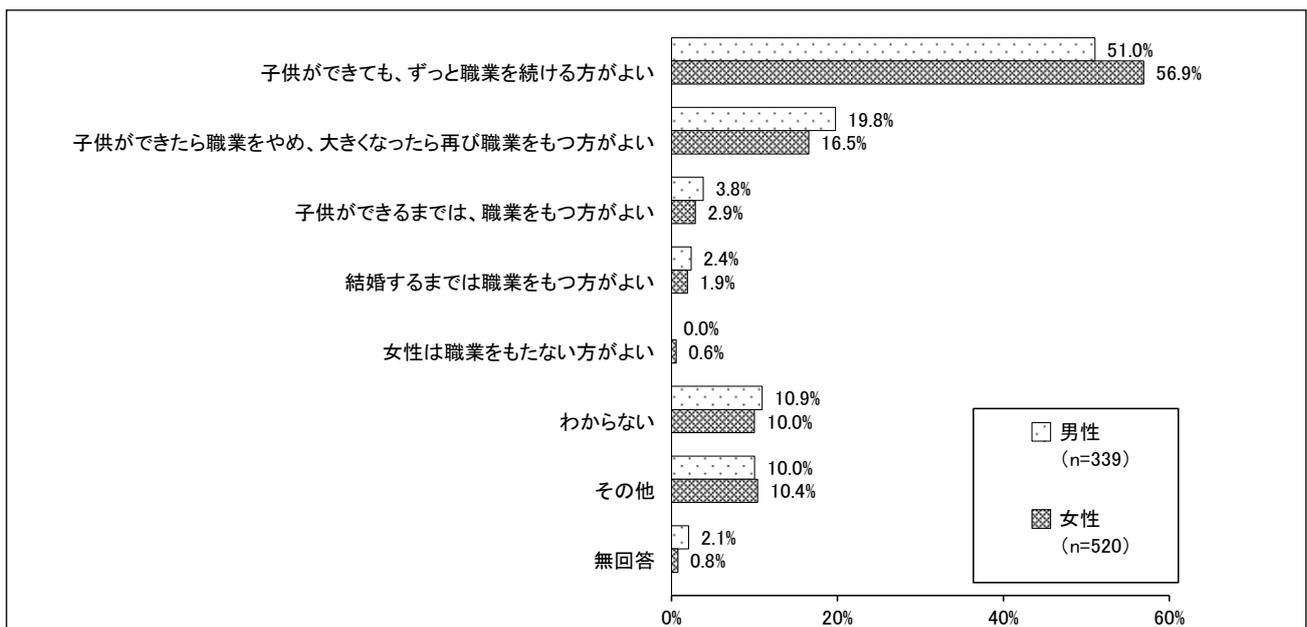
問14 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

<図表2-1-1 女性が職業をもつことについて> (全体)



「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が約半数(54.6%)で最も高くなっており、他の項目を大きく上回っている。なお、「子供ができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した割合は前述の1/3程度(17.7%)となっている。

<図表2-1-2 女性が職業をもつことについて> (男女別)



男女とも全体と同じ傾向となっている。

<図表2-1-3 女性が職業をもつことについて>(年代別)

	男性 (n=339)	女性			女性 (n=520)	女性		
		30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)		30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)
子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい	51.0%	50.0%	58.9%	44.7%	56.9%	52.3%	63.7%	52.2%
子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	19.8%	15.0%	16.3%	24.7%	16.5%	10.3%	11.8%	24.9%
子供ができるまでは、職業をもつ方がよい	3.8%	0.0%	0.8%	8.0%	2.9%	3.7%	1.9%	3.5%
結婚するまでは職業をもつ方がよい	2.4%	0.0%	0.8%	4.7%	1.9%	0.9%	0.0%	4.5%
女性は職業をもたない方がよい	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	1.4%	0.0%
わからない	10.9%	16.7%	12.4%	7.3%	10.0%	16.8%	9.9%	6.5%
その他	10.0%	18.3%	10.1%	6.7%	10.4%	15.0%	11.3%	7.0%
無回答	2.1%	0.0%	0.8%	4.0%	0.8%	0.9%	0.0%	1.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各年代とも全体と同じ傾向となっている。

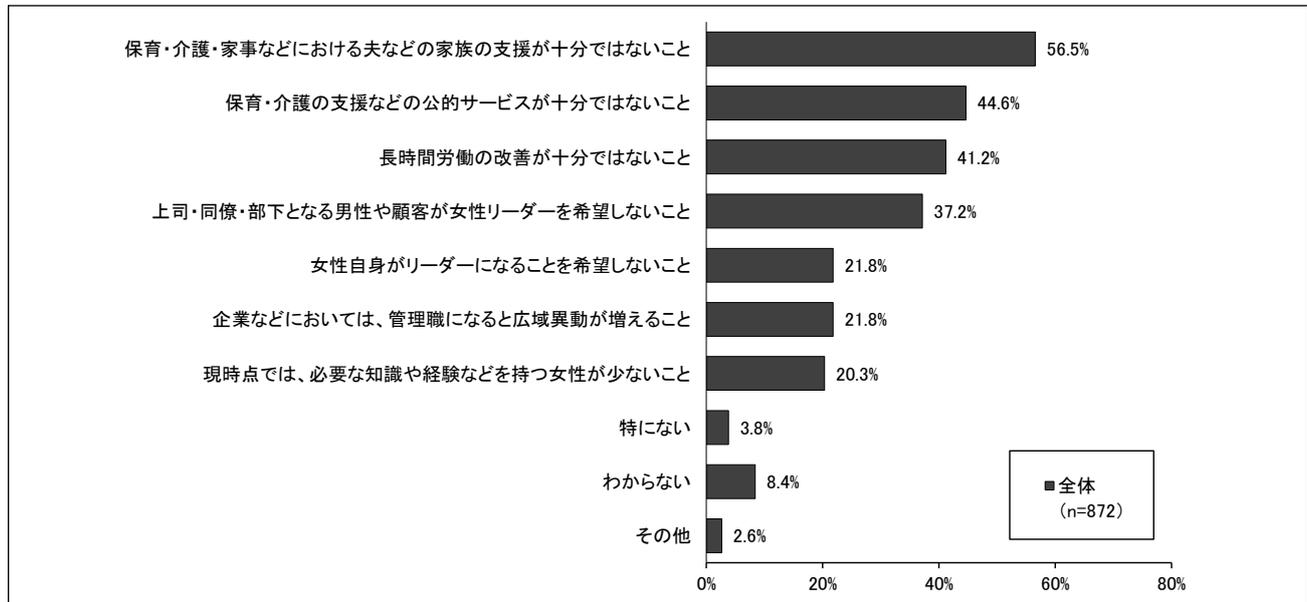
2-2 各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの

◇約6割が「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」と回答

◇男女とも同じ傾向

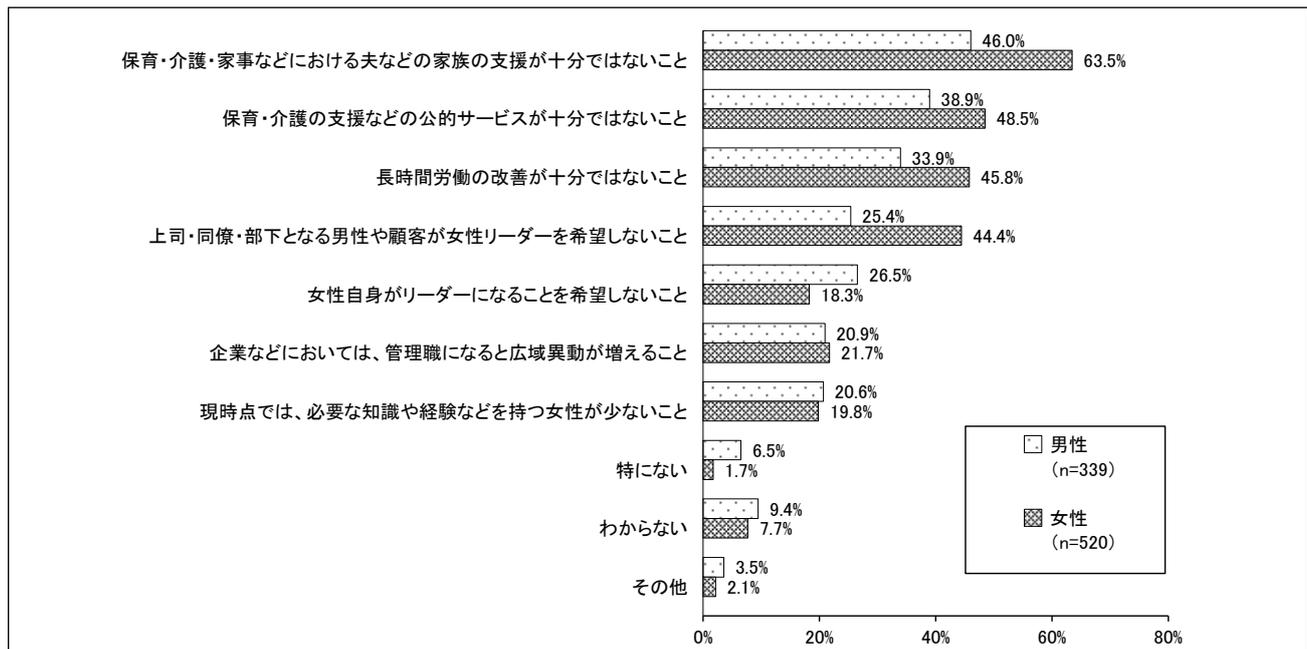
問15 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

<図表2-2-1 女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの>(全体)



「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」と回答した割合が約6割(56.5%)で最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」、「長時間労働の改善が十分ではないこと」、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」となっている。

<図表2-2-2 女性のリーダーを増やすときに妨げとなるもの>(男女別)



男女とも同じ傾向にあるが、ほとんどの項目で当事者である女性の割合が男性よりも高くなっている。しかし、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」については、男性が女性を上回っている。

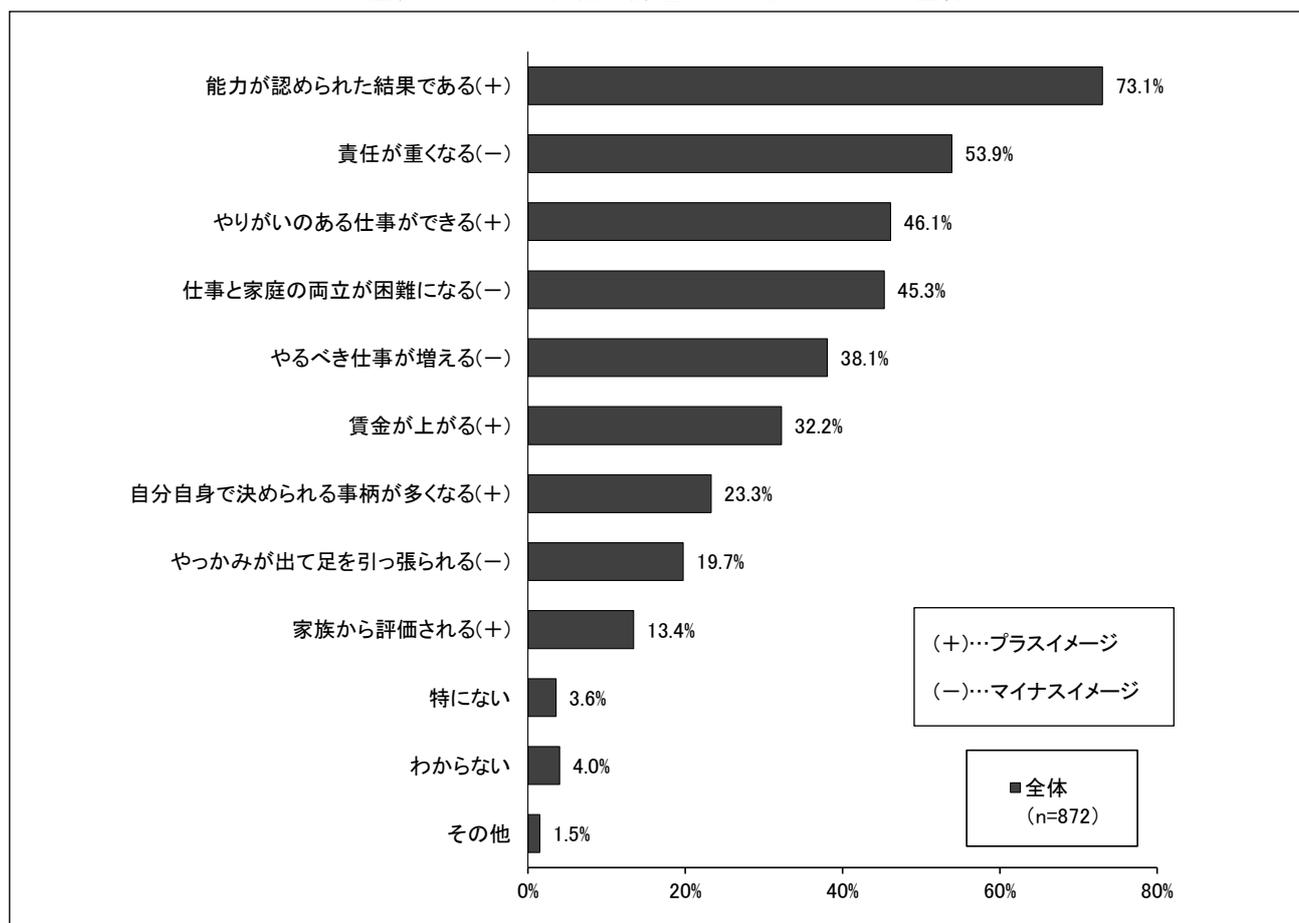
2-3 女性の昇進に対するイメージ

◇約7割が「能力が認められた結果である」と回答

◇プラスイメージとマイナスイメージが混在

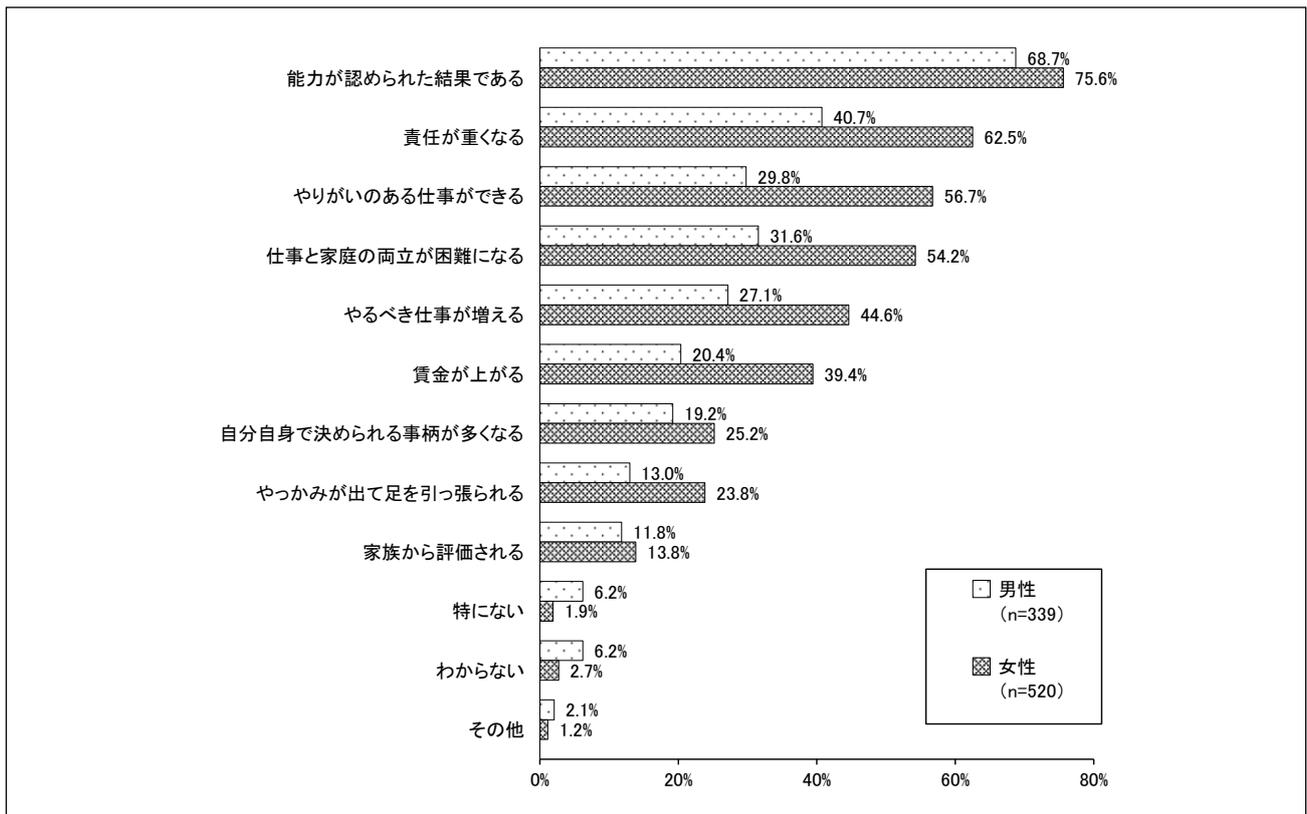
問16 あなたは、女性が管理職以上に昇進することについて、どのようなイメージを持っていますか。
(〇はいくつでも)

<図表2-3-1 女性の昇進に対するイメージ>(全体)



「能力が認められた結果である」と回答した割合が約7割(73.1%)となっており、最も高い。また、女性の昇進に対するイメージは、プラスイメージとマイナスイメージが混在している。

<図表2-3-2 女性の昇進に対するイメージ>(男女別)



「特にない」、「わからない」以外の全ての項目で、女性の割合が男性を上回っており、その傾向は男女ともほぼ一致している。

<図表2-3-3 女性の昇進に対するイメージ>(年代別)

	男性 (n=339)	女性 (n=520)		
		30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)
能力が認められた結果である	68.7%	63.3%	69.8%	70.0%
責任が重くなる	40.7%	36.7%	41.1%	42.0%
やりがいのある仕事ができる	29.8%	30.0%	29.5%	30.0%
仕事と家庭の両立が困難になる	31.6%	26.7%	27.1%	37.3%
やるべき仕事が増える	27.1%	23.3%	29.5%	26.7%
賃金が上がる	20.4%	28.3%	27.1%	11.3%
自分自身で決められる事柄が多くなる	19.2%	23.3%	18.6%	18.0%
やっかみが出て足を引っ張られる	13.0%	10.0%	14.7%	12.7%
家族から評価される	11.8%	15.0%	13.2%	9.3%
特にない	6.2%	15.0%	3.9%	4.7%
わからない	6.2%	10.0%	5.4%	5.3%
その他	2.1%	3.3%	1.6%	2.0%

各年代とも全体と同じ傾向となっている。

2-4 自由記述の内容

問17 「女性の活躍推進」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.66～68に掲載

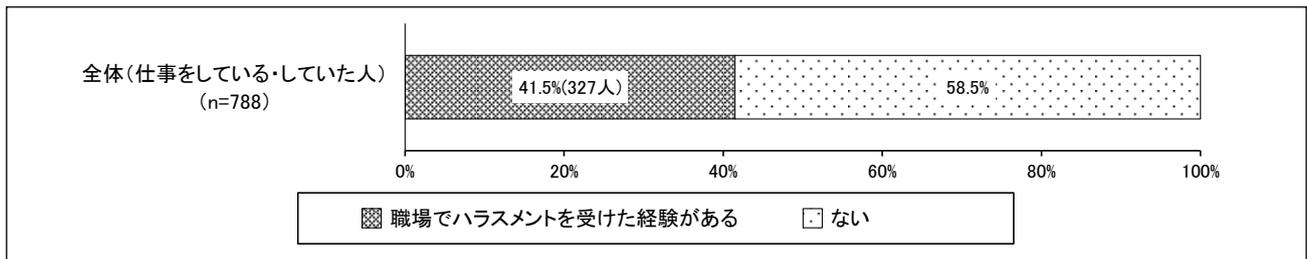
3. ハラスメントについて

3-1 職場でハラスメントを受けた経験

- ◇約4割が職場でハラスメントを受けた経験あり
- ◇職場でハラスメントを受けた経験がある人は40・50代が多く、男性よりも女性が多い
- ◇約9割が「パワーハラスメント」

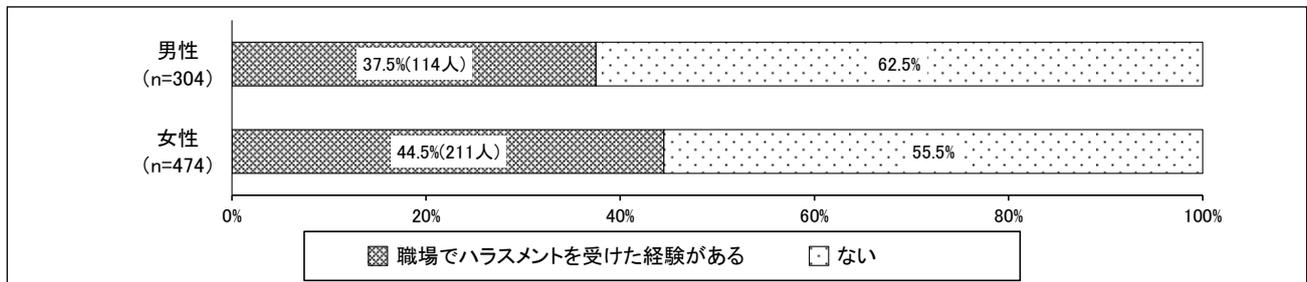
問18 お仕事をされている方(または以前されていた方)におたずねします。
 あなたは、職場において、次にあげるようなハラスメントを受けたことがありますか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

<図表3-1-1 職場でハラスメントを受けた経験>(全体・要件該当者)



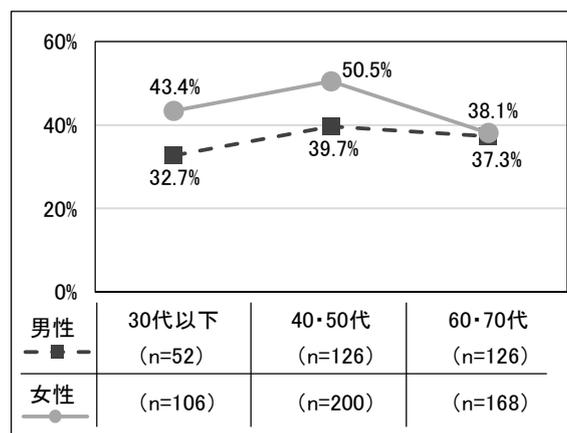
「職場でハラスメントを受けた経験がある」と回答した割合は約4割(41.5%)となっている。

<図表3-1-2 職場でハラスメントを受けた経験>(男女別)



「職場でハラスメントを受けた経験がある」と回答した割合は、女性が男性より多い(女性:44.5%、男性:37.5%)。

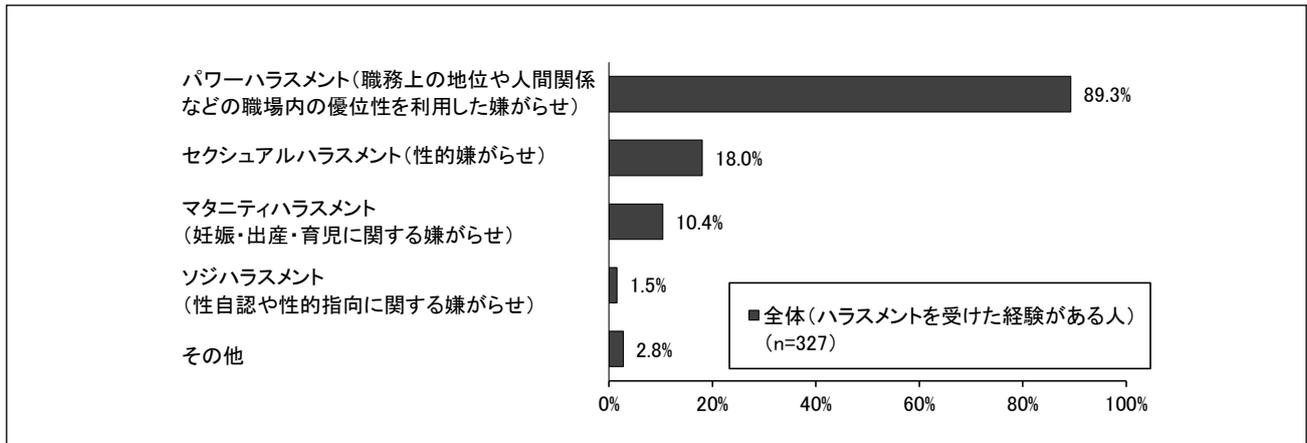
<図表3-1-3 職場でハラスメントを受けた経験>(年代別)



「職場でハラスメントを受けた経験がある」と回答した割合は、男女とも40・50代で高くなっている。

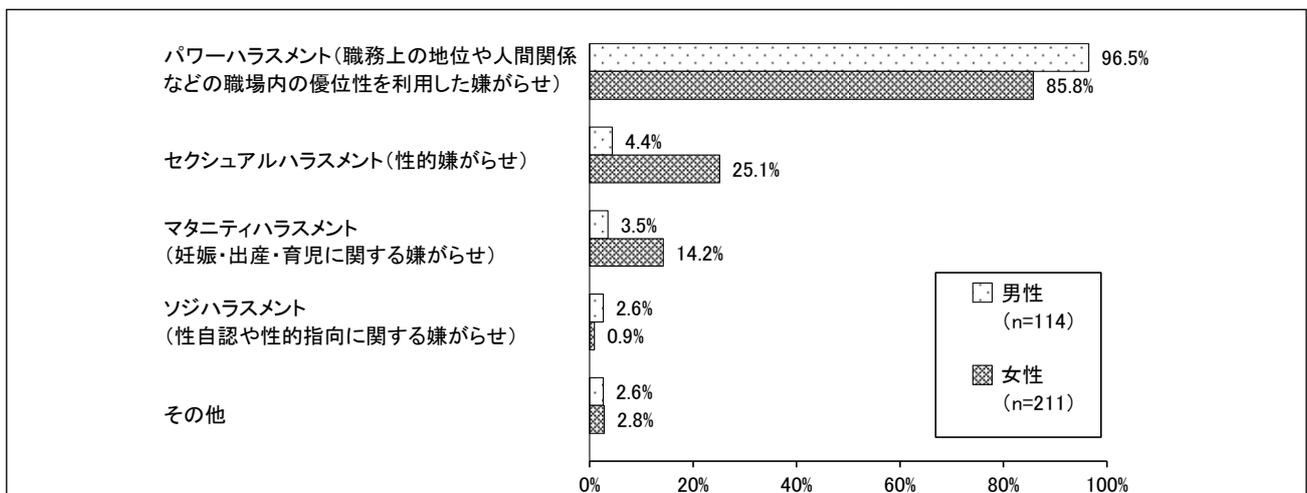
○受けたハラスメントの内容

＜図表3-1-4 受けたハラスメントの内容＞（全体・要件該当者）



「パワーハラスメント(職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を利用した嫌がらせ)」と回答した割合が約9割(89.3%)で突出している。

＜図表3-1-5 受けたハラスメントの内容＞（男女別）



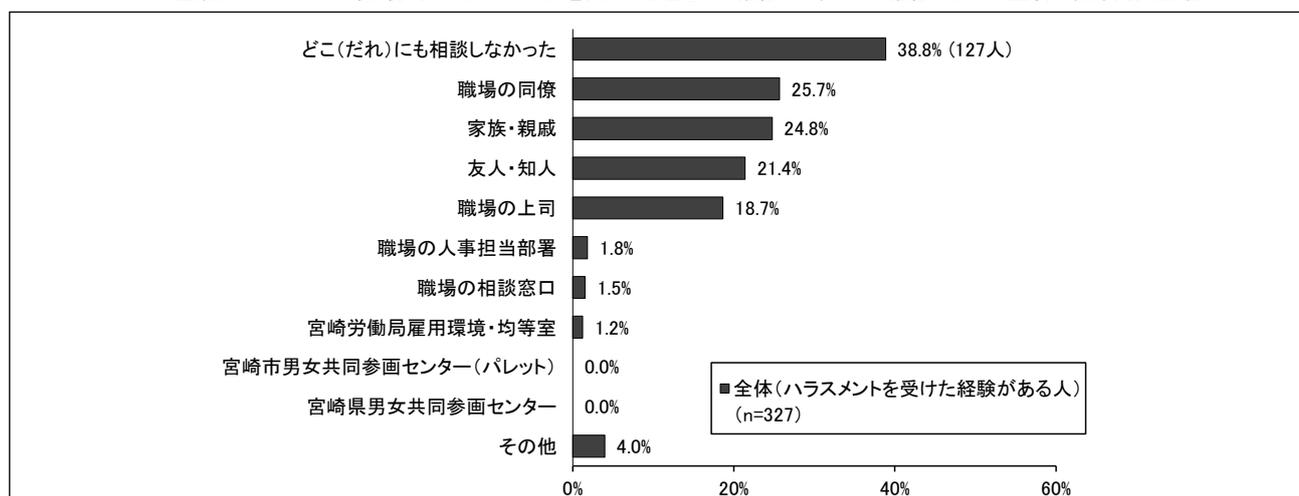
男女とも「パワーハラスメント(職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を利用した嫌がらせ)」と回答した割合が最も高くなっている(男性:96.5%、女性:85.8%)。男性は圧倒的に「パワーハラスメント(職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を利用した嫌がらせ)」が多いのに対し、女性は「セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)」、「マタニティハラスメント(妊娠・出産・育児に関する嫌がらせ)」に分散している。

3-2 職場でハラスメントを受けたときの相談の有無、相談先

- ◇男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が最多で約4割
- ◇相談先は4人に1人が「職場の同僚」、「家族・親戚」など身近な人
- ◇女性の方が周囲に相談した割合が高い

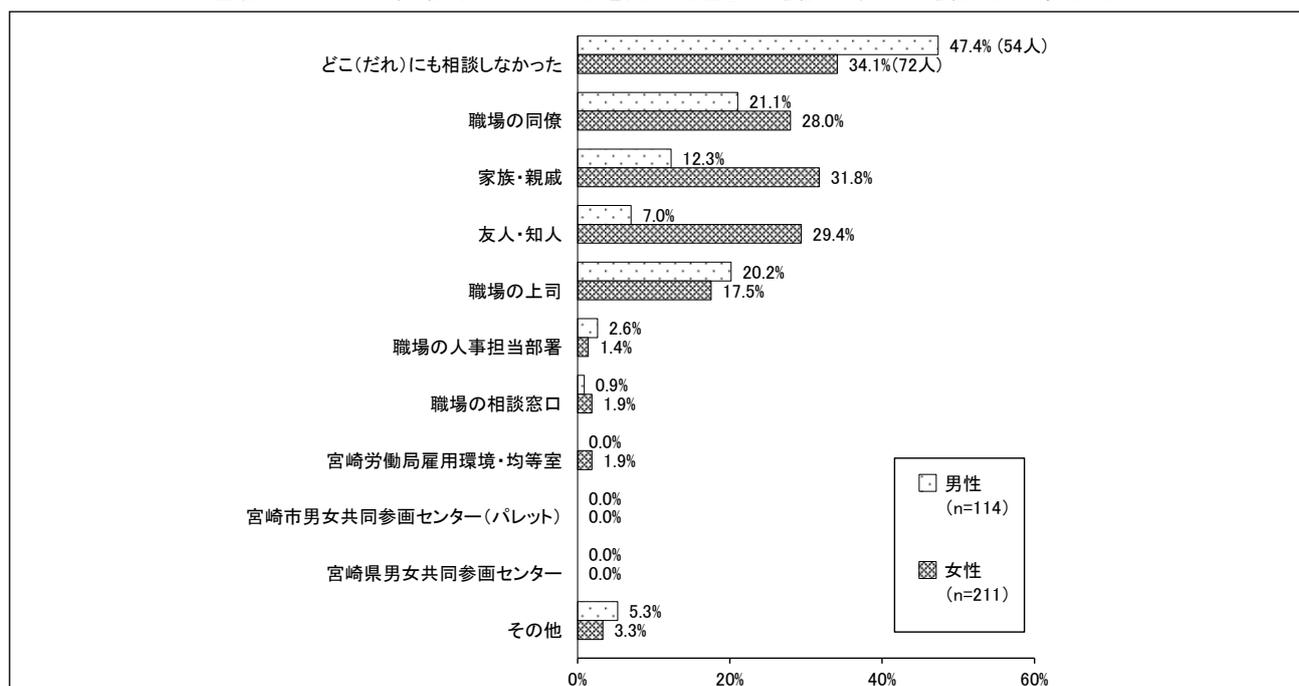
問18-1 問18で「2」～「6」と答えた方におたずねします。
あなたは、そのときどこ(だれ)かに相談しましたか。(○はい/×いいえ)

＜図表3-2-1 職場でハラスメントを受けたときの相談の有無、相談先＞(全体・要件該当者)



「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が約4割(38.8%)で最も高くなっている。このような中で、相談先は4人に1人が「職場の同僚」(25.7%)、「家族・親戚」(24.8%)など身近な人となっている。職場の相談窓口や公的機関に相談した割合は、全体的に低い。

＜図表3-2-2 職場でハラスメントを受けたときの相談の有無、相談先＞(男女別)



男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が最も高くなっている(男性:47.7%、女性:34.1%)。なお、相談先は、男性では「職場の同僚」(21.1%)、「職場の上司」(20.2%)、女性では「家族・親戚」(31.8%)、「友人・知人」(29.4%)となっている。

3-3 職場でのハラスメントを相談しなかった理由

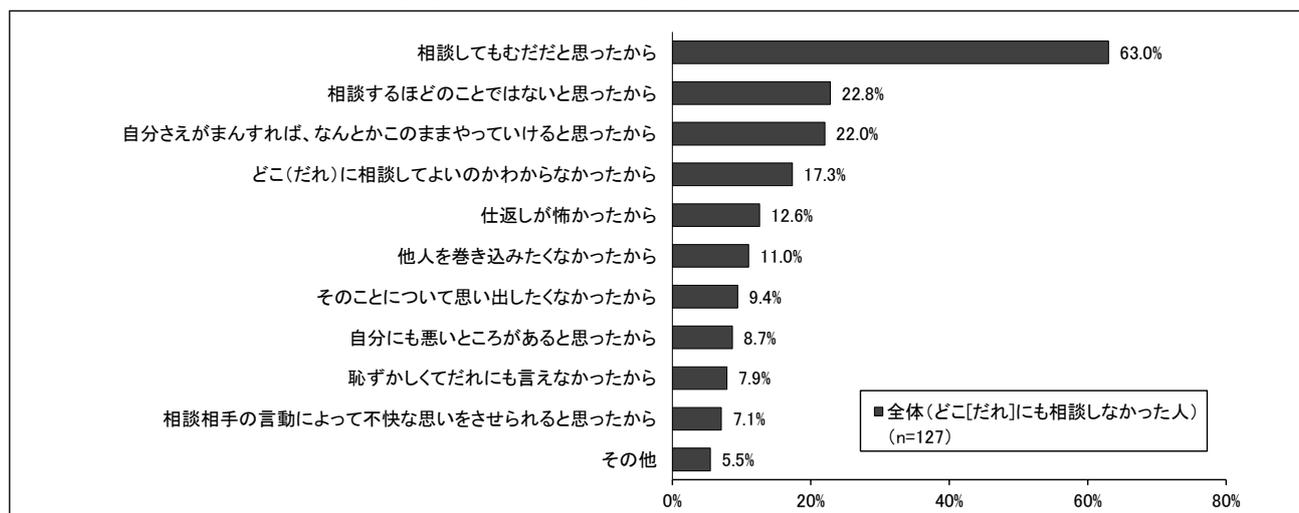
◇約6割が「相談してもむだだと思ったから」と回答

◇次いで「相談するほどのことではないと思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」

◇男女とも同じ傾向

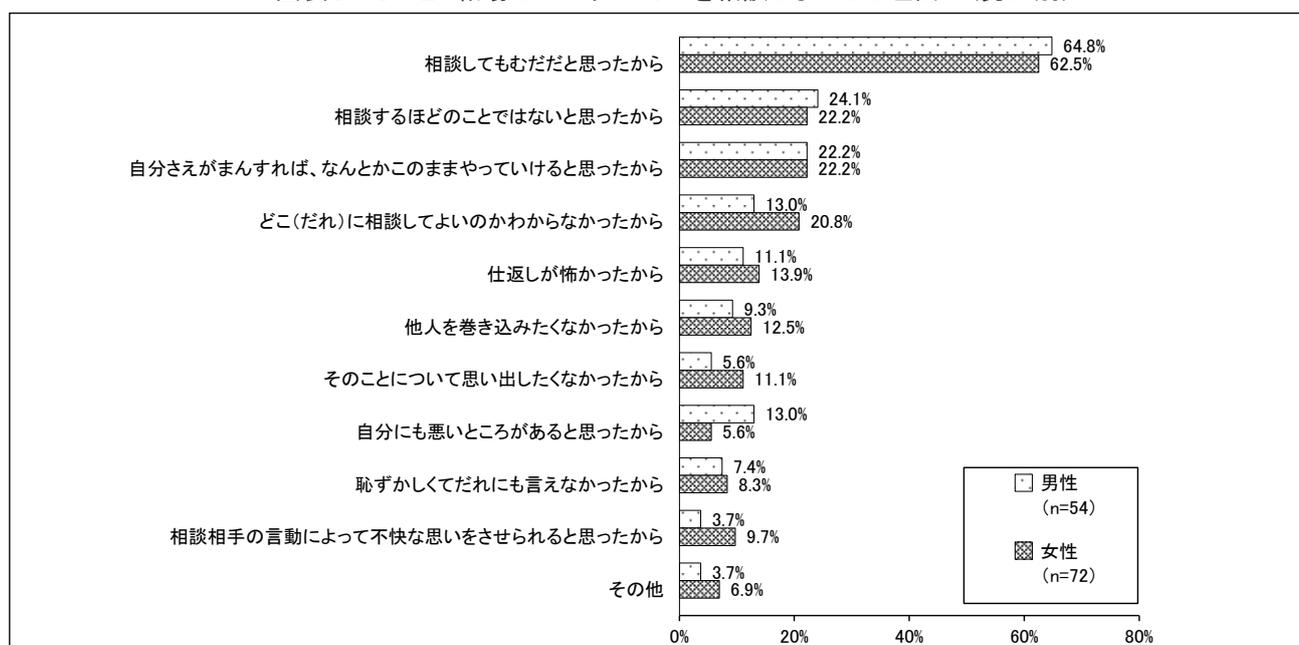
問18-2 問18-1で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。
それはなぜですか。(〇はいくつでも)

＜図表3-3-1 職場でのハラスメントを相談しなかった理由＞(全体・要件該当者)



「相談してもむだだと思ったから」と回答した割合が約6割(63.0%)で最も高くなっており、他の項目を大きく上回っている。次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(22.8%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(22.0%)となっている。

＜図表3-3-2 職場でのハラスメントを相談しなかった理由＞(男女別)



男女とも全体と同じ傾向となっている。

3-4 自由記述の内容

問19 「ハラスメント」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.69～71に掲載

4. ワーク・ライフ・バランスに関する意識について

4-1 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における「希望」の優先度

◇男女とも1/3以上が「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答

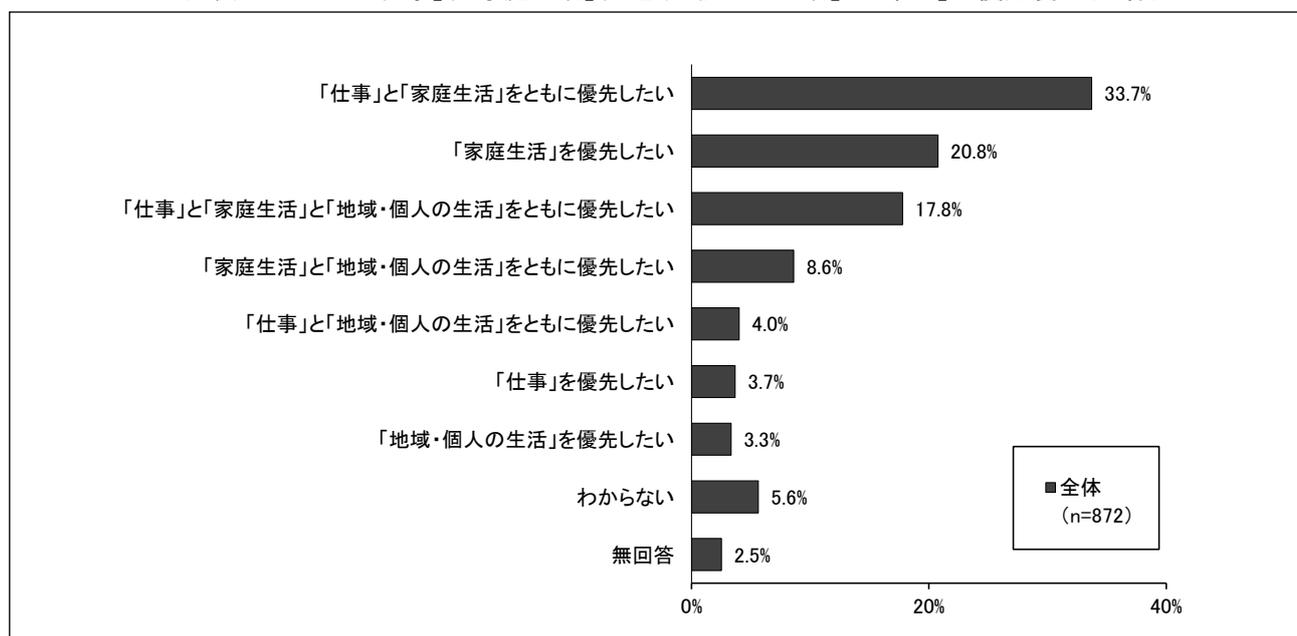
◇「仕事を優先したい」という希望は約4%で低く、男女とも若い世代ほどそう思わない傾向

◇「家庭生活を優先したい」と回答した割合は女性が高く、「仕事を優先したい」と回答した割合は男性が高い

生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。

問20 あなたの「希望」に最も近い番号に○をつけてください。(○は1つ)

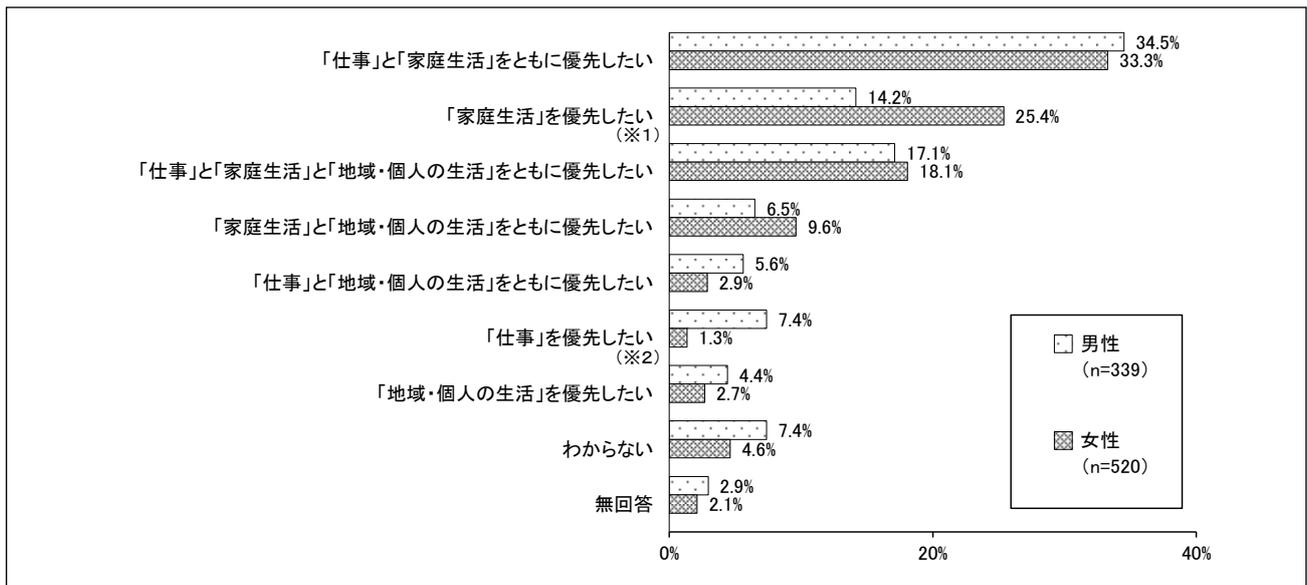
<図表4-1-1 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の「希望」の優先度> (全体)



「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答した割合が1/3以上(33.7%)で最も高く、次いで「家庭生活を優先したい」(20.8%)となっている。

「地域・個人の生活を優先したい」と回答した割合は3.3%で最も低くなっている。

＜図表4-1-2 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の「希望」の優先度＞（男女別）



男女とも「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答した割合が最も高くなっている(男性:34.5%、女性:33.3%)。次いで、男性は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」、女性は「家庭生活を優先したい」となっている。 「家庭生活を優先したい」と回答した割合(※1)は、女性が男性より高く(女性:25.4%、男性:14.2%)、「仕事を優先したい」と回答した割合(※2)は、男性が女性より高くなっている(男性:7.4%、女性:1.3%)。

＜図表4-1-3 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の「希望」の優先度＞（年代別）

	男性 (n=339)			女性 (n=520)		
	30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)	30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)
「仕事」を優先したい ※2	7.4%	0.0%	7.8%	1.3%	0.9%	1.5%
「家庭生活」を優先したい	14.2%	15.0%	17.1%	25.4%	27.1%	25.9%
「地域・個人の生活」を優先したい	4.4%	5.0%	3.1%	2.7%	3.7%	3.5%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい ※1	34.5%	31.7%	41.1%	33.3%	37.4%	26.4%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	5.6%	5.0%	4.7%	2.9%	3.7%	2.0%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	6.5%	15.0%	5.4%	9.6%	10.3%	12.4%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	17.1%	21.7%	16.3%	18.1%	20.3%	18.4%
わからない	7.4%	5.0%	3.9%	4.6%	5.2%	4.5%
無回答	2.9%	1.7%	0.8%	2.1%	0.0%	5.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

各年代とも「仕事と家庭生活をともに優先したい」と回答した割合が最も高くなっている(※1)。「仕事を優先したい」と回答した割合は、若い年代ほど低く、30代以下では男女ともほぼ0%となっている(※2)。

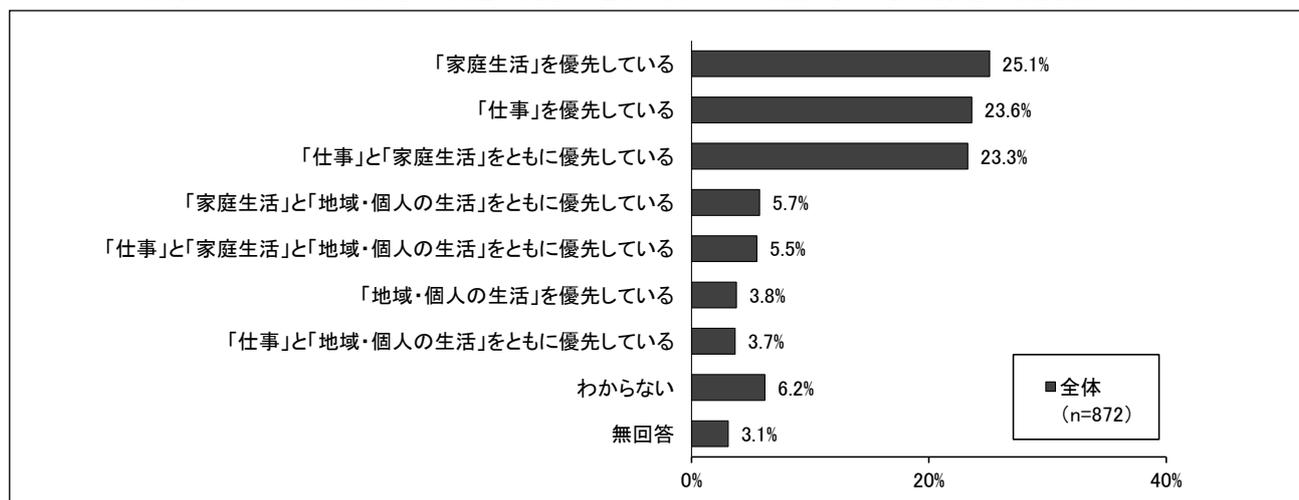
4-2 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における「現実」の優先度

◇「仕事を優先している」と回答した割合は、「現実」と「希望」に大きな差が見られる

◇男性は「仕事を優先している」、女性は「家庭生活を優先している」と回答した割合が最多(ともに3割)

問20-1 あなたの「現実・現状」に最も近い番号に○をつけてください。(○は1つ)

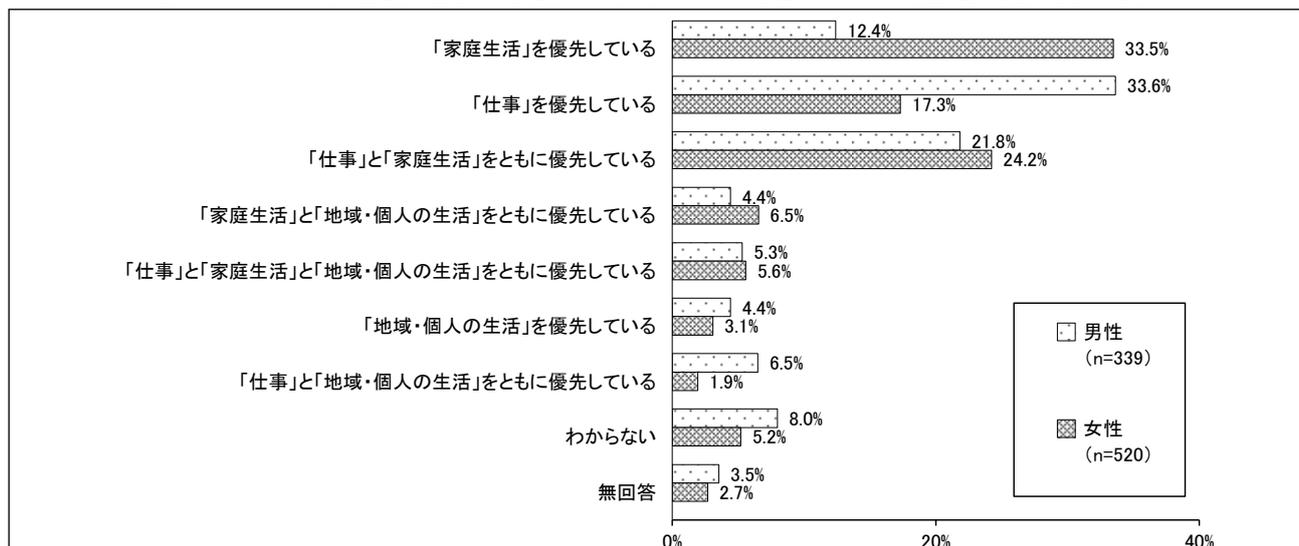
＜図表4-2-1 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における「現実」の優先度＞(全体)



「家庭生活を優先している」(25.1%)、「仕事を優先している」(23.6%)、「仕事と家庭生活をともに優先している」(23.3%)は、いずれも約2割となっている。問20で「仕事を優先したい」(P.31)と回答した割合は3.7%であり、「仕事優先」は「現実」と「希望」の間に大きな差が見られる。

また、「仕事と地域・個人の生活をともに優先している」と回答した割合が最も低くなっている(3.7%)。

＜図表4-2-2 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」における「現実」の優先度＞(男女別)



「家庭生活を優先している」と回答した割合は、女性が約3割(33.5%)で最も高く、「仕事を優先している」と回答した割合は、男性が約3割(33.6%)で最も高くなっている。

4-3 自由記述の内容

問21 問20と問20-1の回答が異なる理由(ワーク・ライフ・バランスの希望と現実・現状に差がある理由)や、「ワーク・ライフ・バランス」についてご意見等ありましたらご記入ください。

・P.72~74に掲載

5. 新型コロナウイルスの影響について

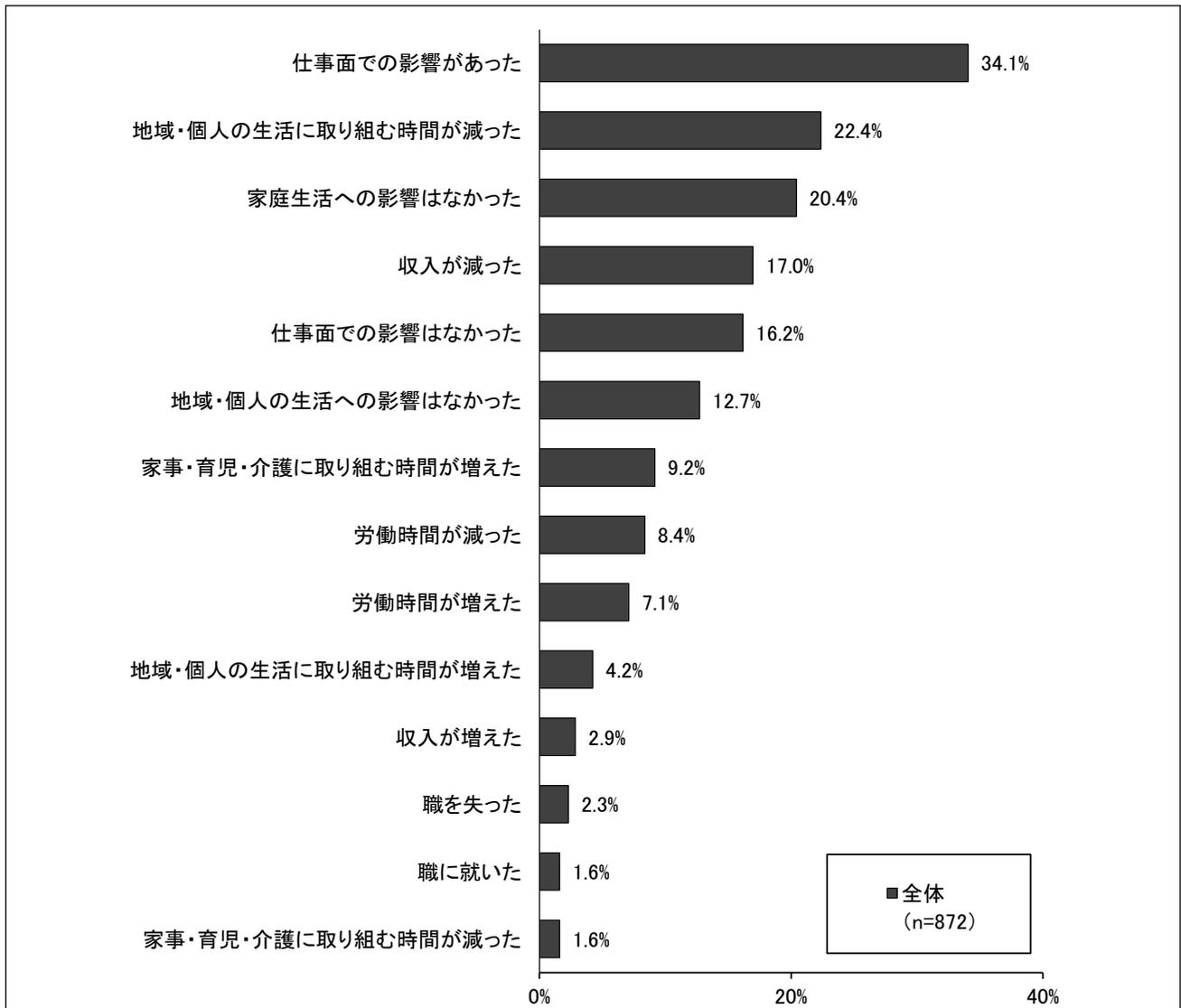
5-1 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の変化

◇約3割が「仕事面での影響があった」と回答

◇50代以下の女性は、家事・育児・介護に取り組む時間が増加

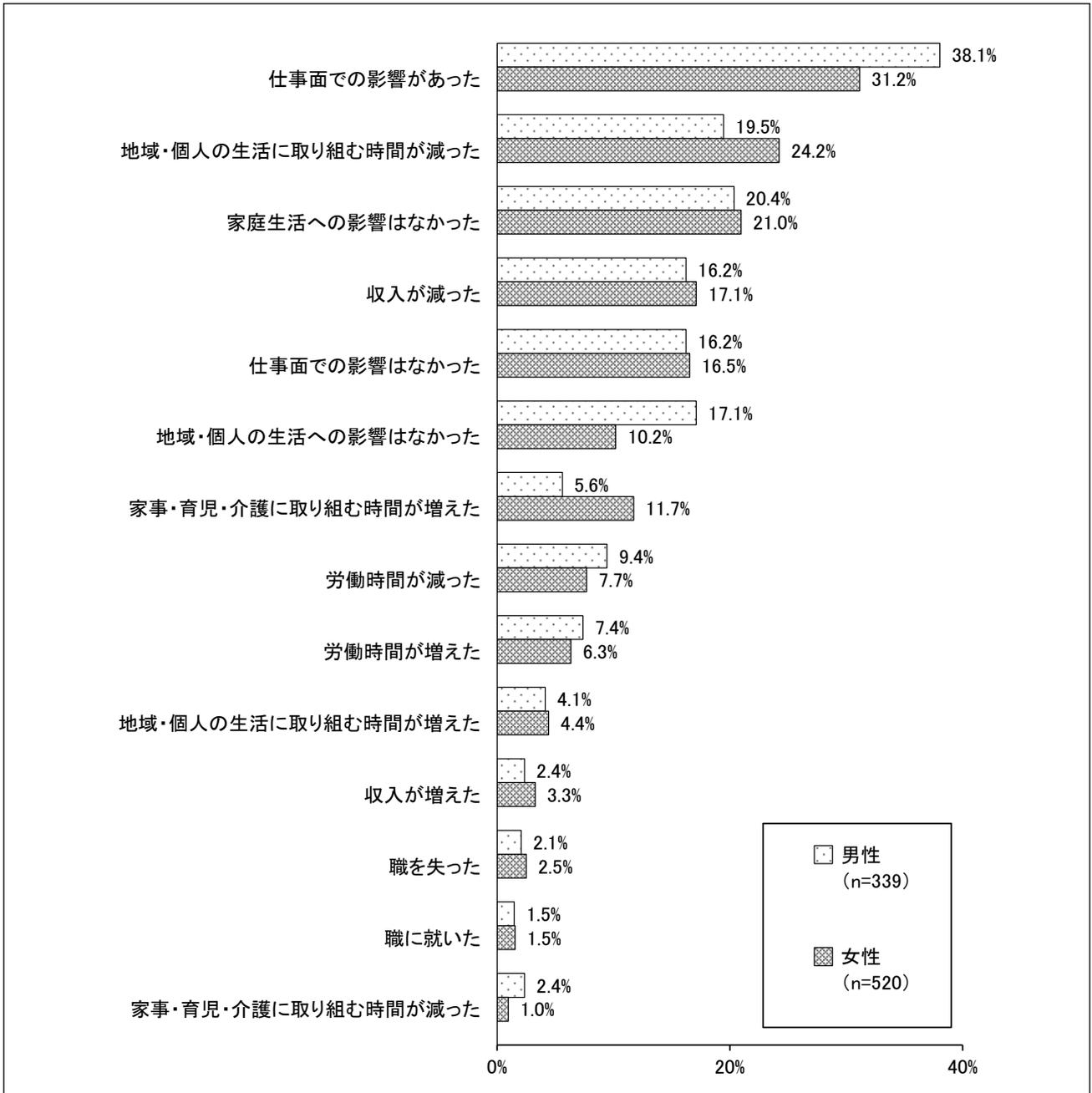
問22 新型コロナウイルス感染拡大前と比べて、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」に変化はありましたか。(〇はいくつでも)

<図表5-1-1 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた変化>(全体)



「仕事面での影響があった」と回答した割合が約3割(34.1%)で最も高く、次いで「地域・個人の生活に取り組む時間が減った」(22.4%)、「家庭生活への影響はなかった」(20.4%)となっている。

<図表5-1-2 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた変化> (男女別)



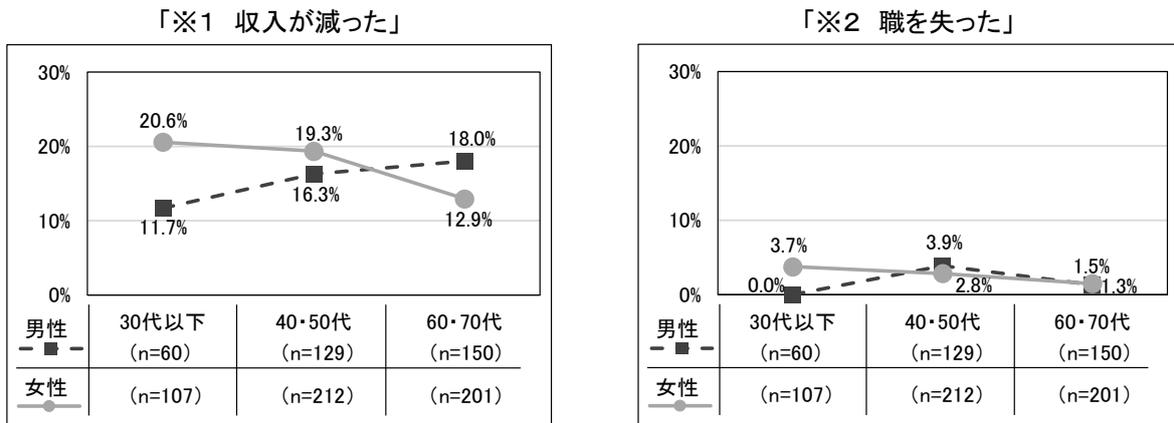
回答した割合の高い3項目は、男女とも全体と同じ傾向となっている。

＜図表5-1-3 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた変化＞（年代別）

	男性 (n=339)			女性 (n=520)		
	30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)	30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)
仕事面での影響があった	38.1%	50.4%	30.0%	31.2%	38.2%	19.9%
地域・個人の生活に取り組む時間が減った	19.5%	14.7%	24.0%	24.2%	21.2%	29.9%
家庭生活への影響はなかった	20.4%	19.4%	20.0%	21.0%	15.1%	28.4%
収入が減った ※1	16.2%	16.3%	18.0%	17.1%	19.3%	12.9%
仕事面での影響はなかった	16.2%	17.8%	10.7%	16.5%	19.3%	12.9%
地域・個人の生活への影響はなかった	17.1%	16.3%	19.3%	10.2%	12.7%	7.5%
家事・育児・介護に取り組む時間が増えた ※3	5.6%	6.2%	5.3%	11.7%	14.6%	6.5%
労働時間が減った	9.4%	7.8%	10.7%	7.7%	8.5%	6.5%
労働時間が増えた	7.4%	10.1%	2.0%	6.3%	8.5%	3.0%
地域・個人の生活に取り組む時間が増えた	4.1%	3.9%	5.3%	4.4%	5.7%	4.0%
収入が増えた	2.4%	3.1%	0.0%	3.3%	2.8%	0.5%
職を失った ※2	2.1%	3.9%	1.3%	2.5%	2.8%	1.5%
職に就いた	1.5%	0.8%	0.7%	1.5%	1.9%	0.0%
家事・育児・介護に取り組む時間が減った	2.4%	3.1%	0.0%	1.0%	1.9%	0.0%

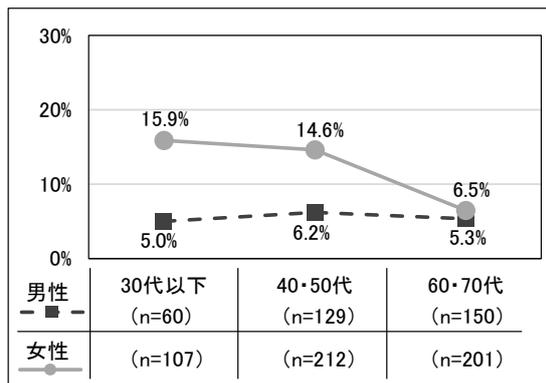
ほとんどの年代で「仕事面での影響があった」と回答した割合が最も高くなっている。

＜図表5-1-4 新型コロナウイルス感染拡大前と比べた変化のうち、特徴的な項目＞（年代別）



「収入が減った」、「職を失った」といった経済的な影響を、男性は年代が高いほど受けており、女性は年代が若いほど受けている。

「※3 家事・育児・介護に取り組む時間が増えた」



家事・育児・介護に取り組む時間の増加については、男性は年代による差はほとんど見られなかったが、女性は50代以下で高い傾向にある。

5-2 自由記述の内容

問23 「新型コロナウイルスの影響」について、ご意見等ありましたらご記入ください。
(コロナ禍で男女共同参画について気付いたこと等)

・P.75、76に掲載

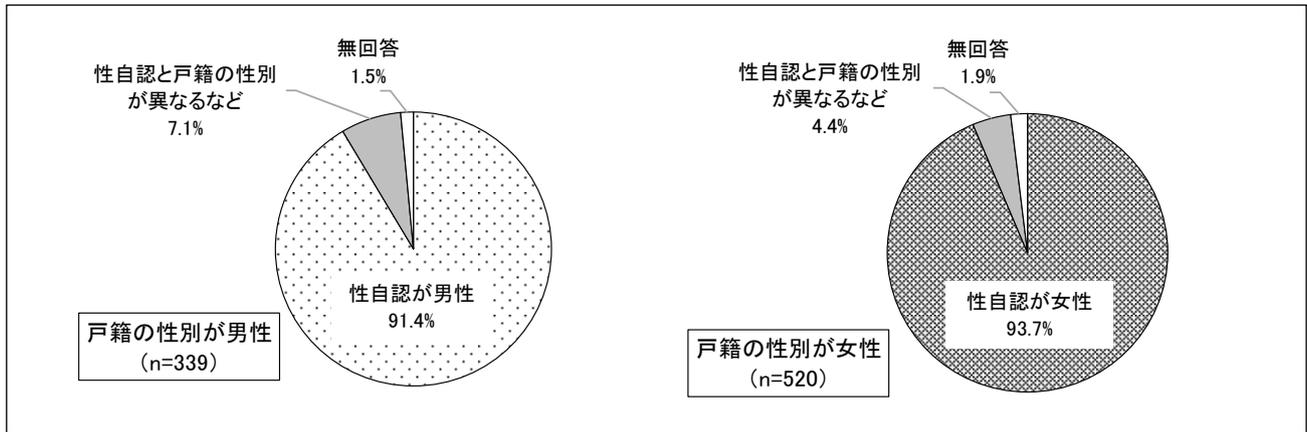
6. 多様な性を尊重する社会づくりについて

6-1 自認している性別

◇「自認している性別と戸籍の性別が異なっている」、「どちらともある・どちらともない」、「わからない」、「決めたくない」、「答えたくない」と回答した合計は、約20人に1人

問24 現在、あなた自身が認識している性別(性自認)を教えてください。(○は1つ)

<図表6-1-1 自認している性別>(全体)



「性自認と戸籍の性別が異なる」、「どちらともある・どちらともない」、「わからない」、「決めたくない」、「答えたくない」と回答した割合の合計は、約20人に1人となっている。

<図表6-1-2 自認している性別>(年代別)

	全体 (n=872)	男性 (n=339)	男性			女性 (n=520)	女性		
			30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)		30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)
性自認が男性	36.5%	91.4%	96.7%	95.3%	86.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.5%
性自認が女性	56.9%	1.5%	0.0%	2.3%	1.3%	93.7%	97.2%	94.8%	90.5%
どちらともある・どちらともない	1.1%	0.9%	1.7%	0.0%	1.3%	1.2%	2.8%	0.5%	1.0%
わからない	2.6%	3.5%	0.0%	1.6%	6.7%	2.1%	0.0%	2.4%	3.0%
決めたくない	0.6%	0.6%	0.0%	0.8%	0.7%	0.6%	0.0%	0.9%	0.5%
答えたくない	0.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.2%	0.3%	1.7%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.5%	0.0%
無回答	1.8%	1.5%	0.0%	0.0%	3.3%	1.9%	0.0%	0.5%	4.5%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

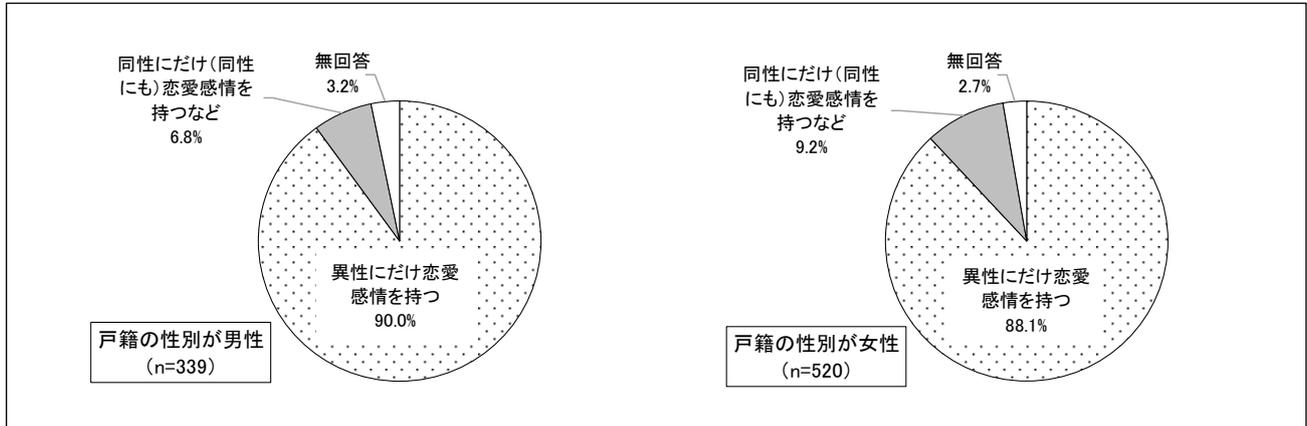
年代間での大きな差は見られない。

6-2 恋愛感情を持つ相手の性別

◇「同性にだけ(同性にも)恋愛感情を持つ」、「わからない」、「決めたくない」、「恋愛したいと思わない」と回答した合計は、約10人に1人

問25 あなたが恋愛感情を持つ相手の性別を教えてください。(○は1つ)

＜図表6-2-1 恋愛感情を持つ相手の性別＞(全体)



「同性にだけ(同性にも)恋愛感情を持つ」、「わからない」、「決めたくない」、「恋愛したいと思わない」と回答した割合の合計は、約10人に1人となっている。

＜図表6-2-2 恋愛感情を持つ相手の性別＞(年代別)

	男性 (n=339)				女性 (n=520)			
	30代以下 (n=60)	40・50代 (n=129)	60・70代 (n=150)	30代以下 (n=107)	40・50代 (n=212)	60・70代 (n=201)		
男性	1.8%	0.0%	3.1%	88.1%	89.7%	83.1%		
女性	90.0%	91.7%	86.7%	0.8%	0.9%	1.0%		
男性・女性(どちらにも恋愛感情を持つ)	0.9%	1.7%	0.7%	1.5%	1.9%	0.5%		
わからない	1.8%	0.0%	3.3%	1.3%	1.4%	1.0%		
決めたくない	0.3%	0.8%	0.0%	1.0%	0.9%	0.0%		
恋愛したいと思わない	1.5%	2.3%	0.7%	4.4%	2.8%	7.5%		
その他	0.6%	0.0%	0.7%	0.2%	0.0%	0.5%		
無回答	3.2%	0.0%	6.7%	2.7%	0.5%	6.5%		
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		

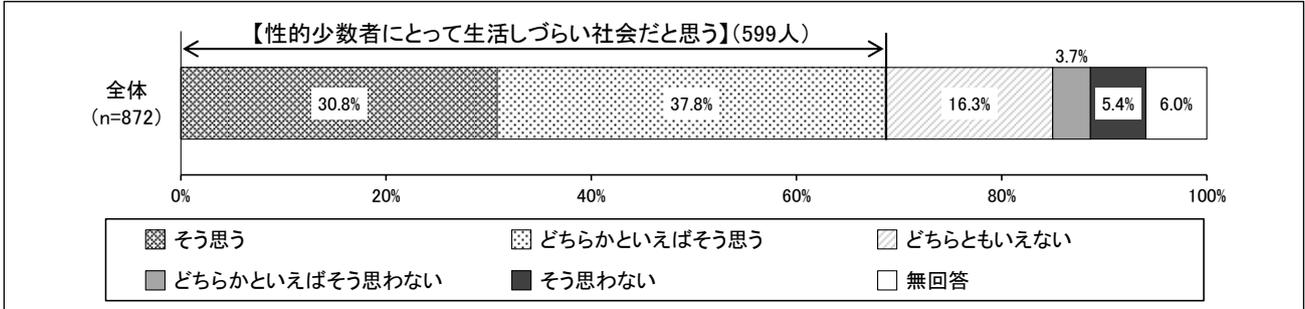
年代間での大きな違いは見られない。

6-3 現在、性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか

◇約7割が生活しづらい社会だと思っている

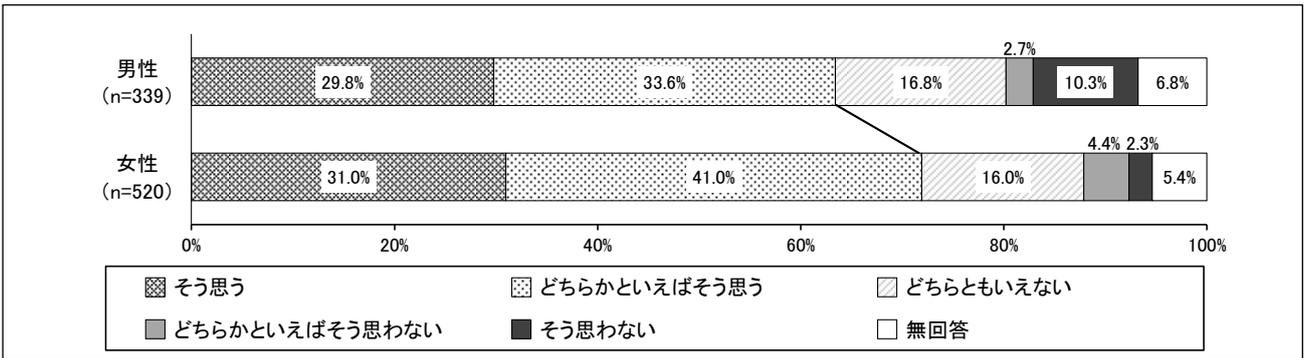
問26 現在、性的少数者(LGBTQ等)の方々にとって生活しづらい社会だと思いますか。(○は1つ)

<図表6-3-1 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか>(全体)



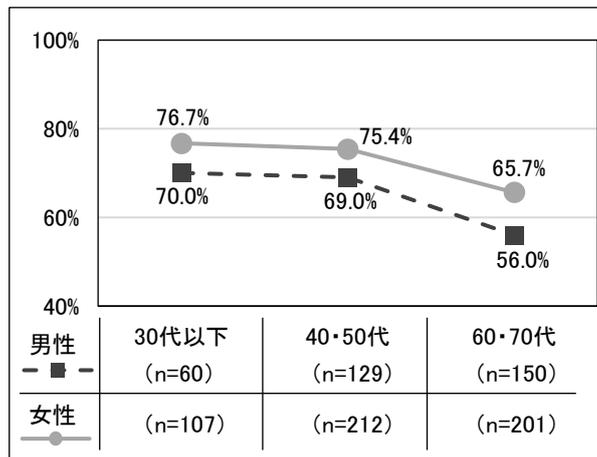
【性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う】(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の計:以下同じ)と回答した割合は約7割(68.6%)となっている。

<図表6-3-2 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか>(男女別)



【性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う】と回答した割合は、女性が男性より多い(女性:72.0%、男性:63.4%)。

<図表6-3-3 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか>(年代別)

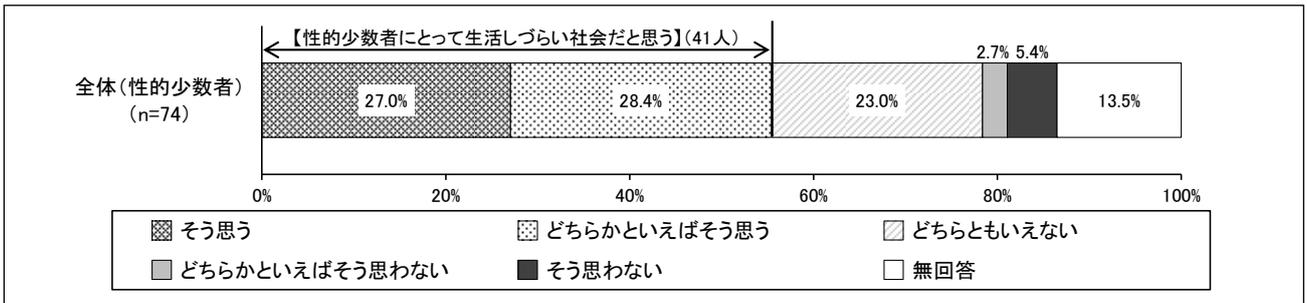


【性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う】と回答した割合は、若い年代ほど高くなっている。

※本調査回答における性的少数者(74人)は、下記のいずれかに当てはまる人とする。(以下同じ)

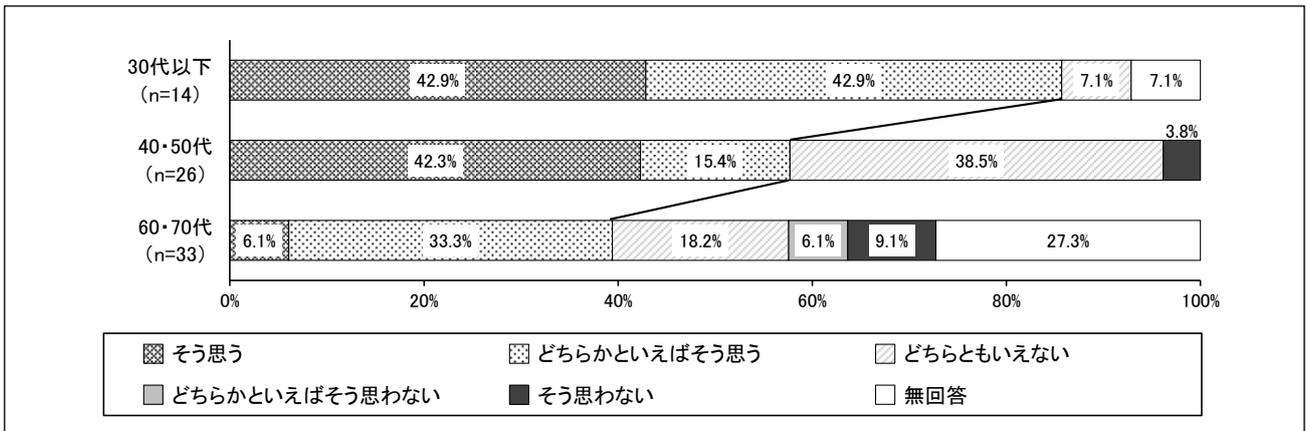
- ・戸籍の性別(問1)と性自認(問24)が一致しない人。
- ・性自認(問24)と性的指向(問25)が同性の人。
- ・問24で「どちらともある・どちらともない」、「わからない」、「決めたくない」のいずれかに当てはまる人。
- ・問25(性的指向)で「男性・女性(どちらにも恋愛感情を持つ)」、「わからない」、「決めたくない」のいずれかに当てはまる人。

＜図表6-3-4 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか＞(全体・要件該当者)



本調査回答における性的少数者のうち、【性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う】と回答した割合は約半数(55.4%)。※ただし、母数は少ない。

＜図表6-3-5 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思うか＞(年代別)



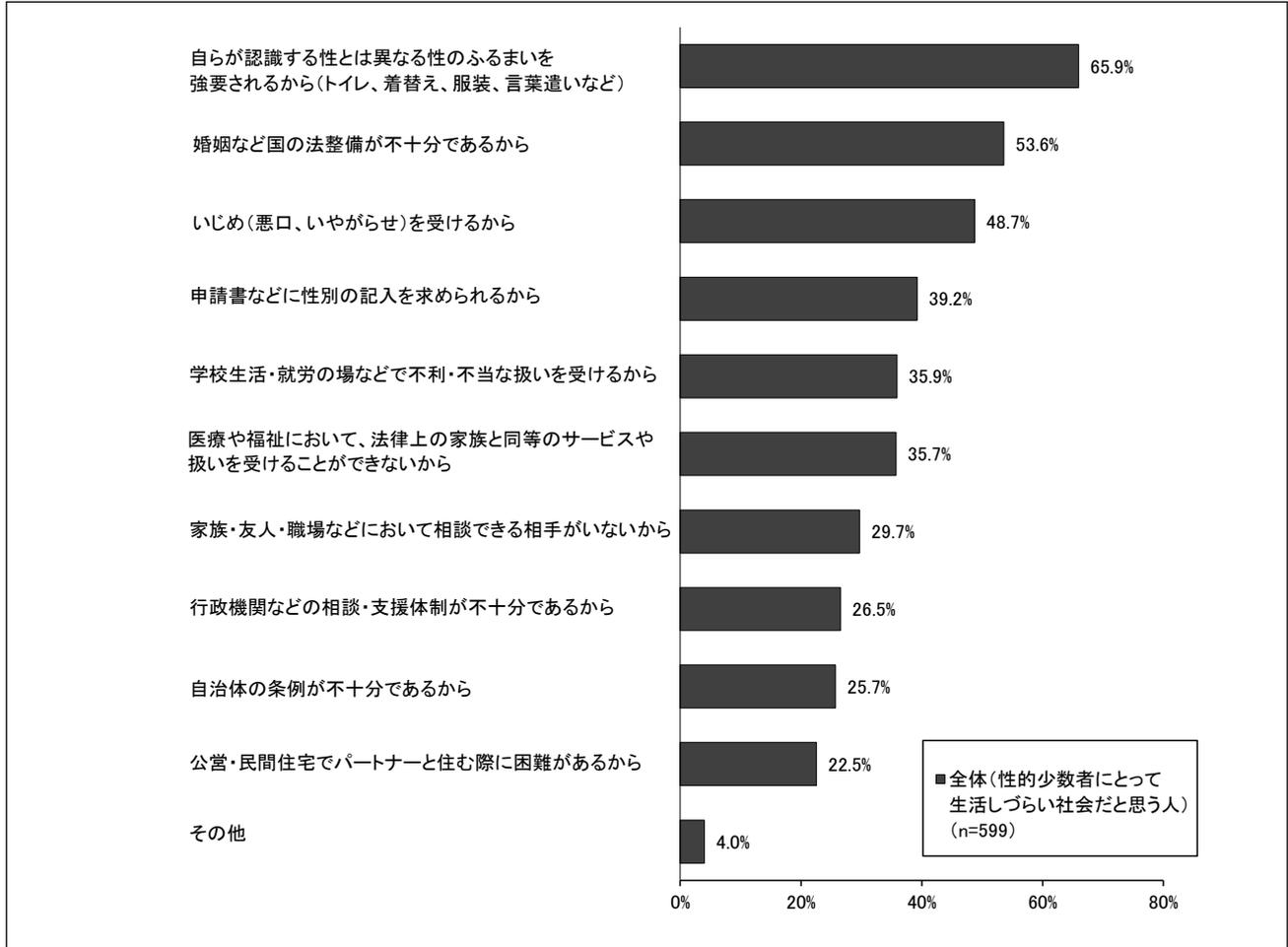
若い年代ほど【性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う】と回答した割合が高い。
※ただし、母数は少ない。

6-4 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う理由

◇「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されるから」が最も多く約7割

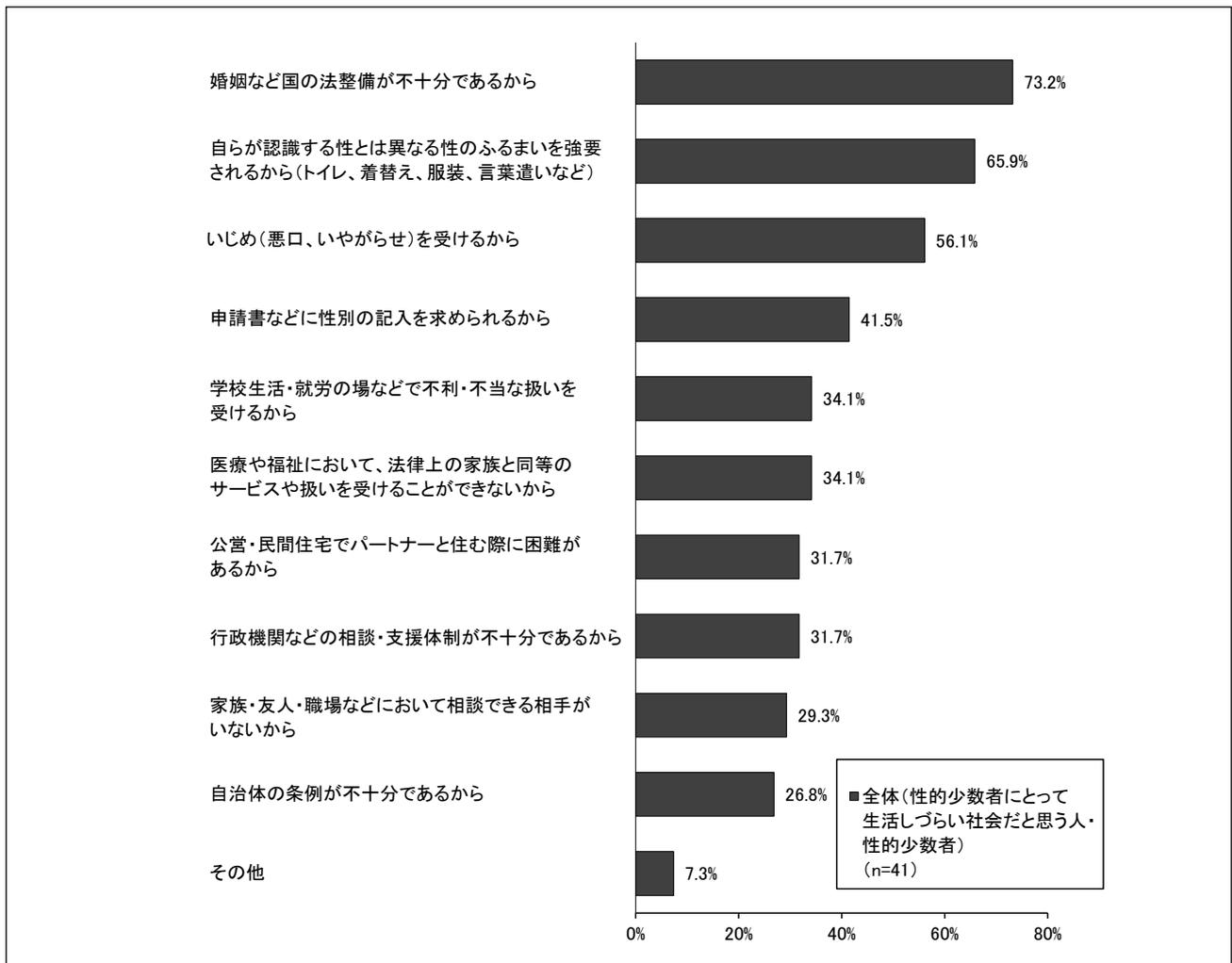
問27 問26で「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた方におたずねします。
 そのように思う理由は何ですか。(〇はいくつでも)

<図表6-4-1 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う理由>(全体・要件該当者)



「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されるから(トイレ、着替え、服装、言葉遣いなど)」と回答した割合が約7割(65.9%)で最も高い。次いで「婚姻など国の法整備が不十分であるから」が約半数(53.6%)となっている。

＜図表6-4-2 性的少数者(LGBTQ等)にとって生活しづらい社会だと思う理由＞(全体・要件該当者)



本調査回答における性的少数者のうち、「婚姻など国の法整備が不十分であるから」と回答した割合が約7割(73.2%)で最も高く、全体と順位が逆転している。次いで「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されるから(トイレ、着替え、服装、言葉遣いなど)」(65.9%)、「いじめ(悪口、いやがらせ)を受けるから」(56.1%)となっている。※ただし、母数は少ない。

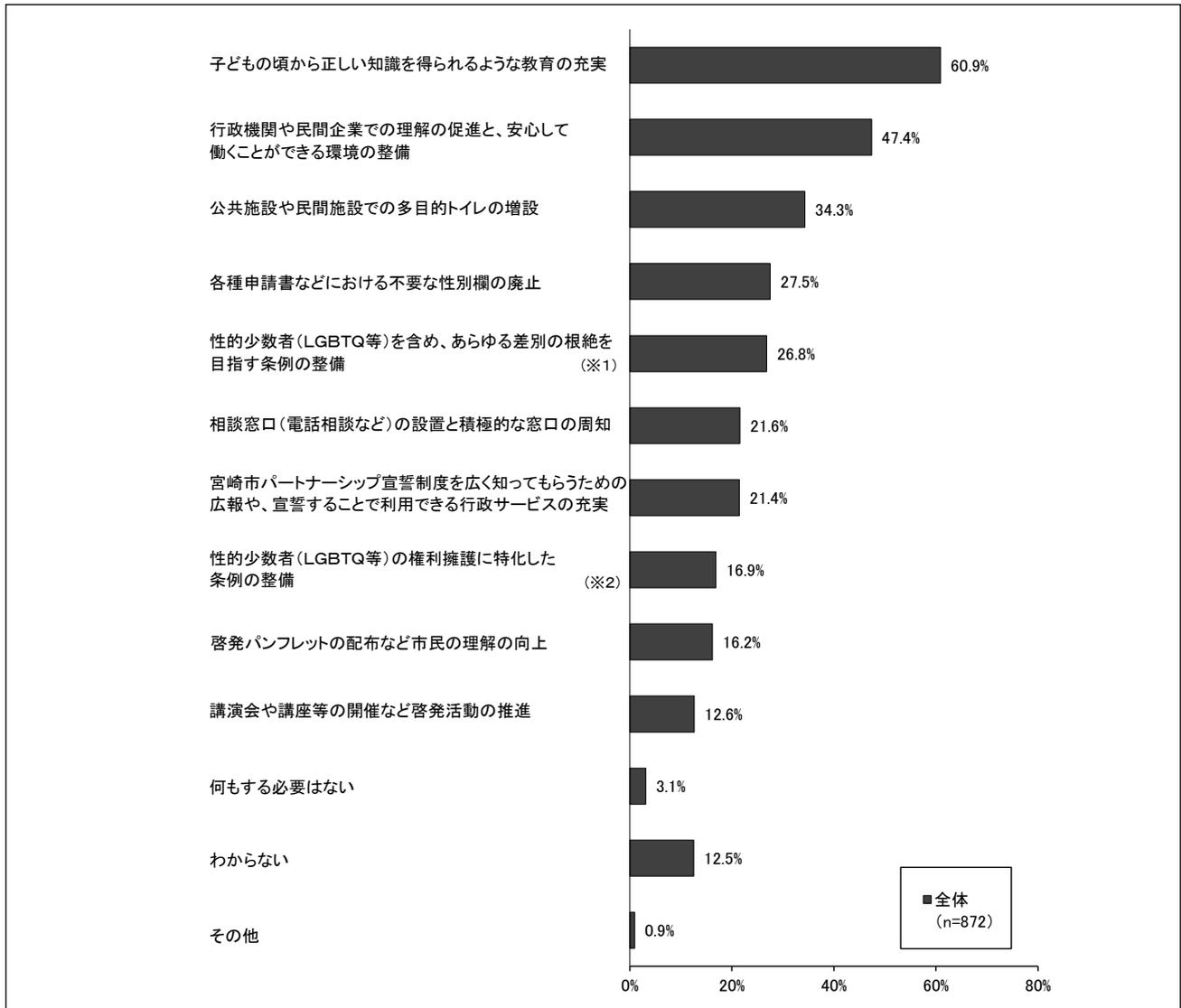
6-5 性的少数者(LGBTQ等)が生活しやすくなるために行政がすべきこと

◇「子どもの頃から正しい知識を得られるような教育の充実」が最多で約6割

◇「性的少数者に特化した条例の整備」より、「性的少数者を含め、あらゆる差別の根絶を目指す条例の整備」の割合が高い

問28 性的少数者(LGBTQ等)に関する偏見がなくなり、性的少数者(LGBTQ等)の方が生活しやすくなるためには、行政はどうすべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

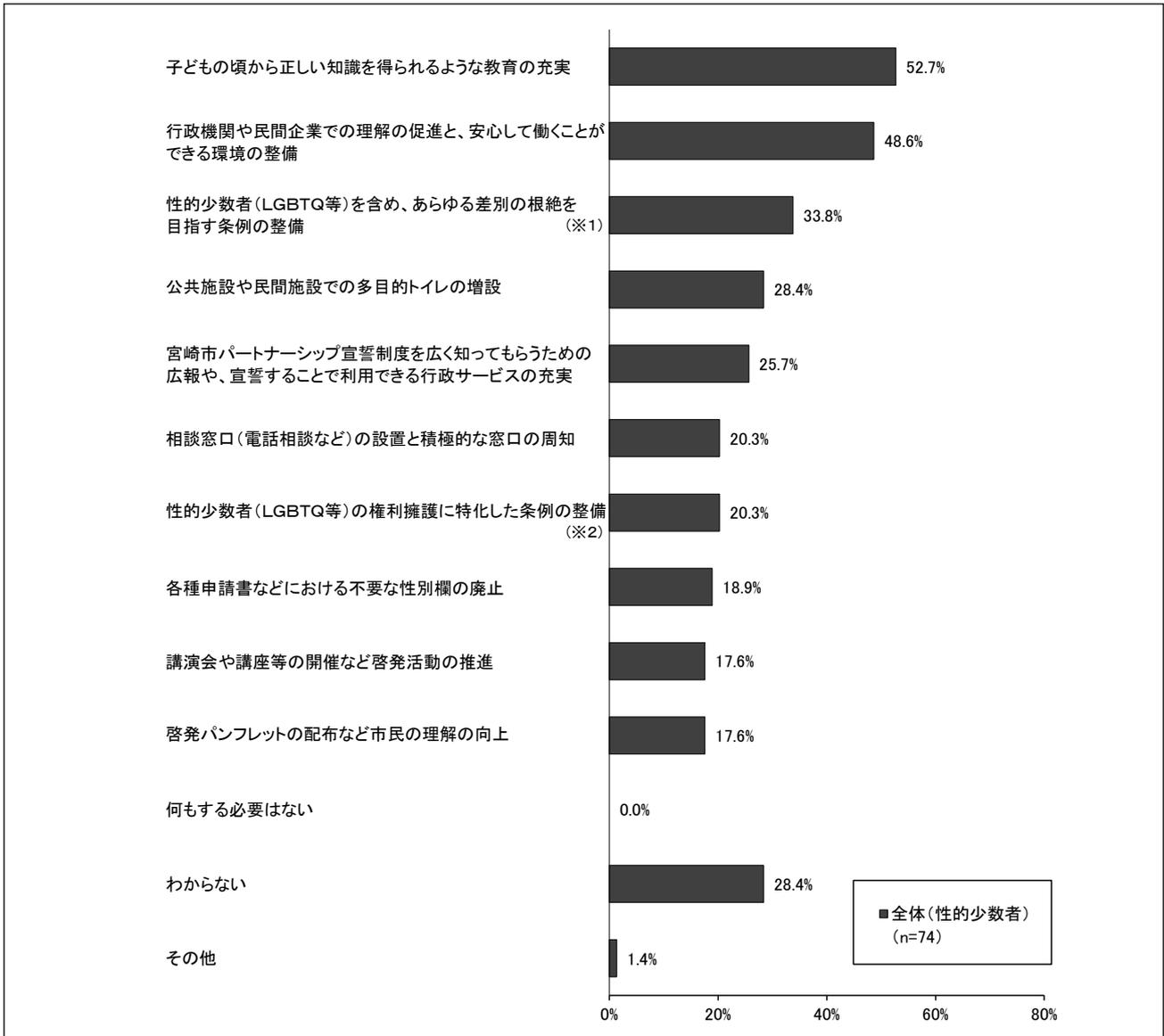
<図表6-5-1 性的少数者(LGBTQ等)が生活しやすくなるために行政がすべきこと>(全体)



「子どもの頃から正しい知識を得られるような教育の充実」が約6割(60.9%)と最も高い。次いで「行政機関や民間企業での理解の促進と、安心して働くことができる環境の整備」(47.4%)、「公共施設や民間施設での多目的トイレの増設」(34.3%)となっている。

条例の整備については、「性的少数者(LGBTQ等)を含め、あらゆる差別の根絶を目指す条例の整備」(※1)の割合が「性的少数者(LGBTQ等)の権利擁護に特化した条例の整備」(※2)を上回っている。

<図表6-5-2 性的少数者(LGBTQ等)が生活しやすくなるために行政がすべきこと>(全体・要件該当者)



本調査回答における性的少数者で見ると、回答の多い2項目は、全体と同じ傾向となっている。

また、条例の整備についても、「性的少数者(LGBTQ等)を含め、あらゆる差別の根絶を目指す条例の整備」(※1)の割合が「性的少数者(LGBTQ等)の権利擁護に特化した条例の整備」(※2)を上回っており、全体と同じ傾向となっている。

6-6 自由記述の内容

問29 「多様な性を尊重する社会づくり」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.77、78に掲載

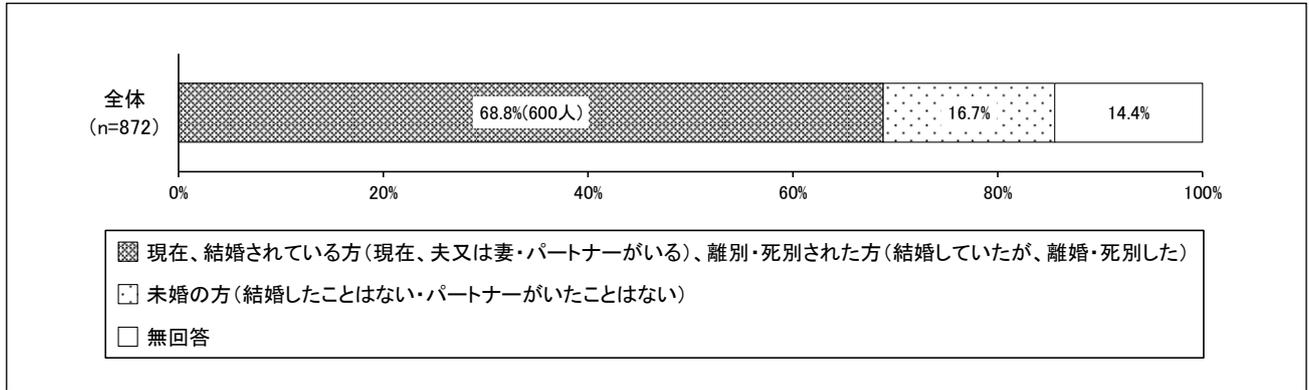
7. 配偶者などからの暴力(DV)について

7-1 結婚の状況

◇約7割が「現在結婚している、または離別・死別した」、約2割が「未婚」

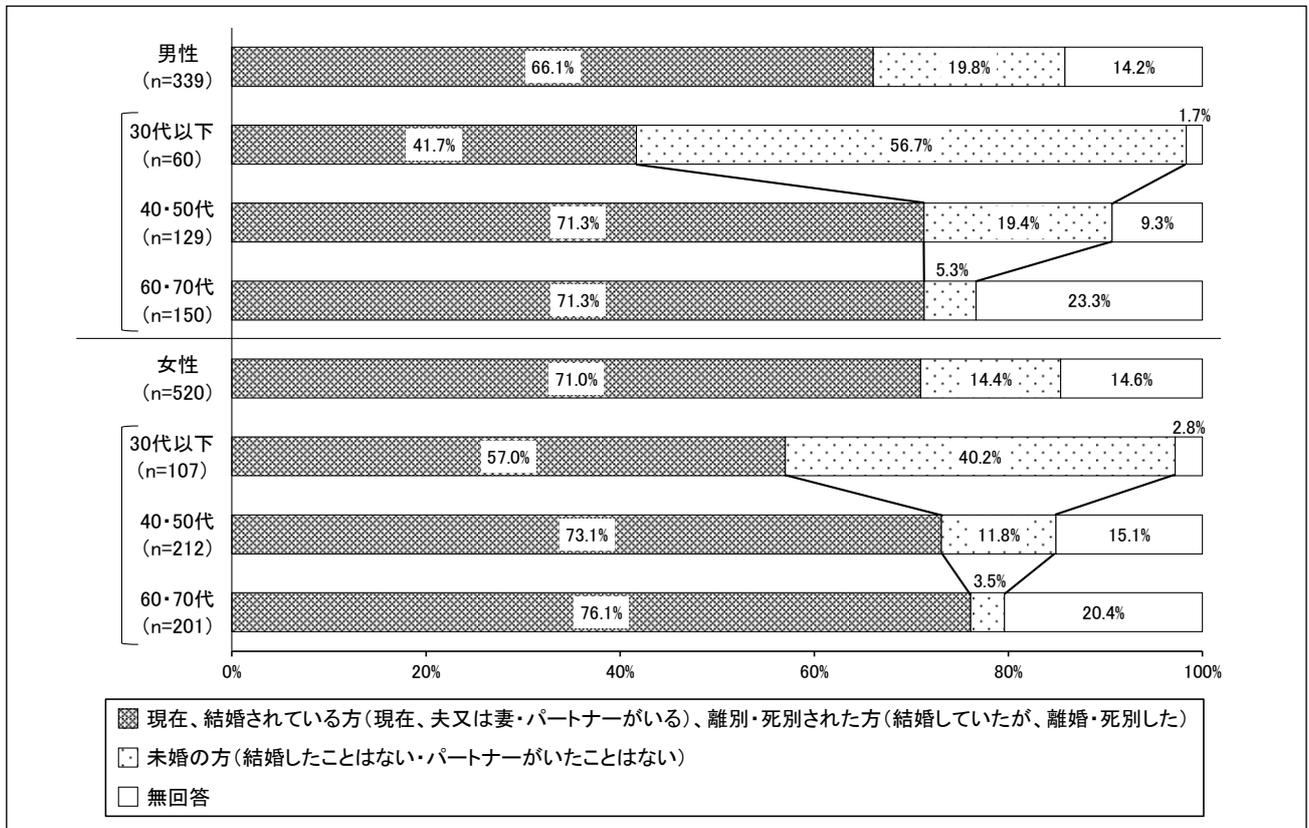
問30 あなたは現在、どちらにあてはまりますか。(○は1つ)

<図表7-1-1 結婚の状況>(全体)



「現在結婚している、または離別・死別した」と回答した割合が約7割(68.8%)、「未婚」と回答した割合が約2割(16.7%)となっている。

<図表7-1-2 結婚の状況>(男女別、年代別)



「現在結婚している、または離別・死別した」と回答した割合は、男性が66.1%、女性が71.0%となっており、男女とも40代以上で約7割となっている。

7-2 配偶者などから暴力等を受けた経験

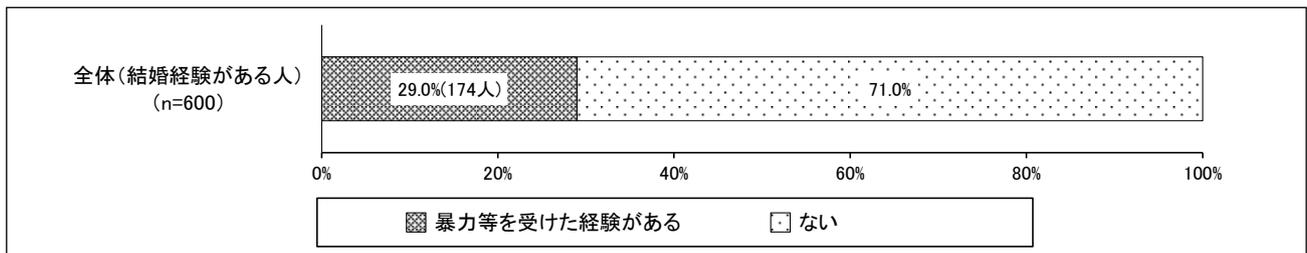
◇約3割が「暴力等を受けた経験がある」

◇女性は約3人に1人、男性は約5人に1人が暴力等を受けた経験あり

◇約7割が「心理的攻撃」、約5割が「身体的暴行」

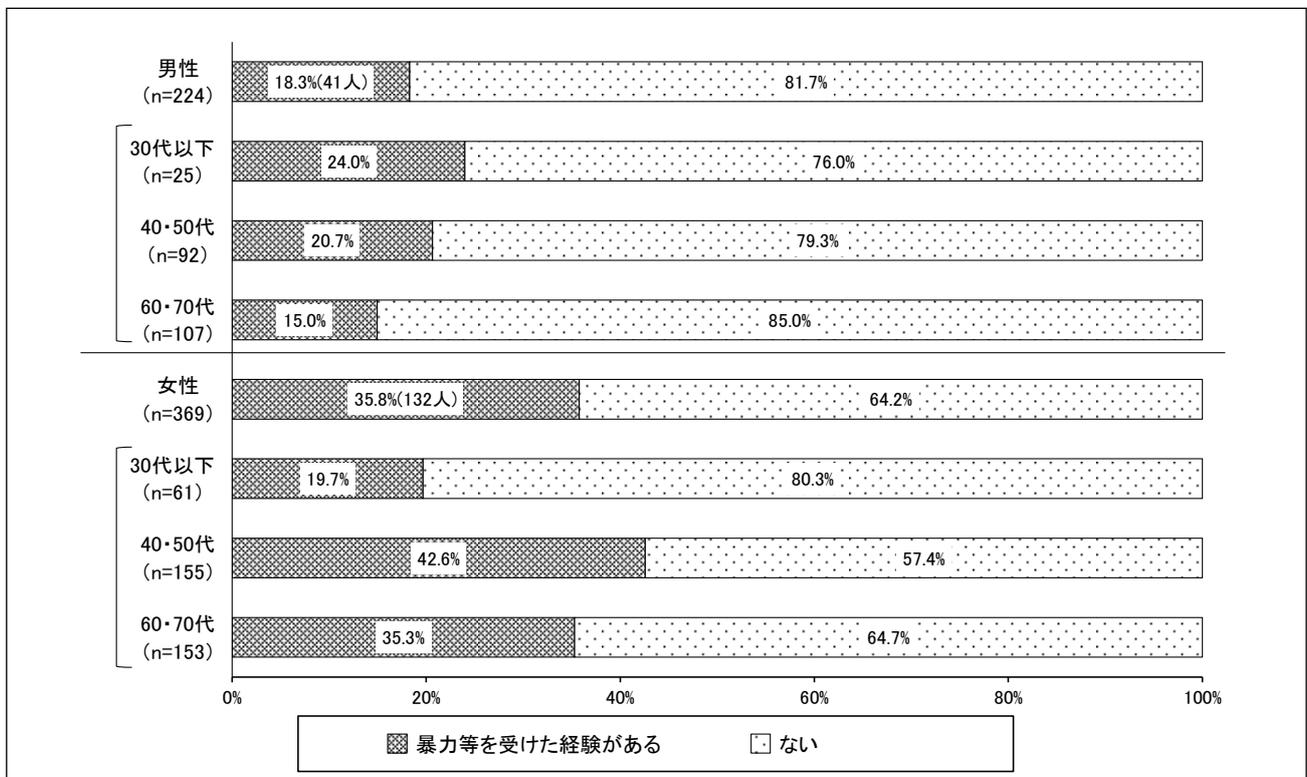
問31 あなたはこれまでに、配偶者などから次のA～Dのような暴力等を受けたことがありますか。
A～Dのそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)
なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者(離別・死別した相手、事実婚・同性同士のパートナー関係を解消した相手)も含まれます。(以下、同様)

<図表7-2-1 配偶者などから暴力等を受けた経験>(全体・要件該当者)



【暴力等を受けた経験がある】(「何度もあった」と「1、2度あった」の計:以下同じ)と回答した割合は、約3割(29.0%)となっている。

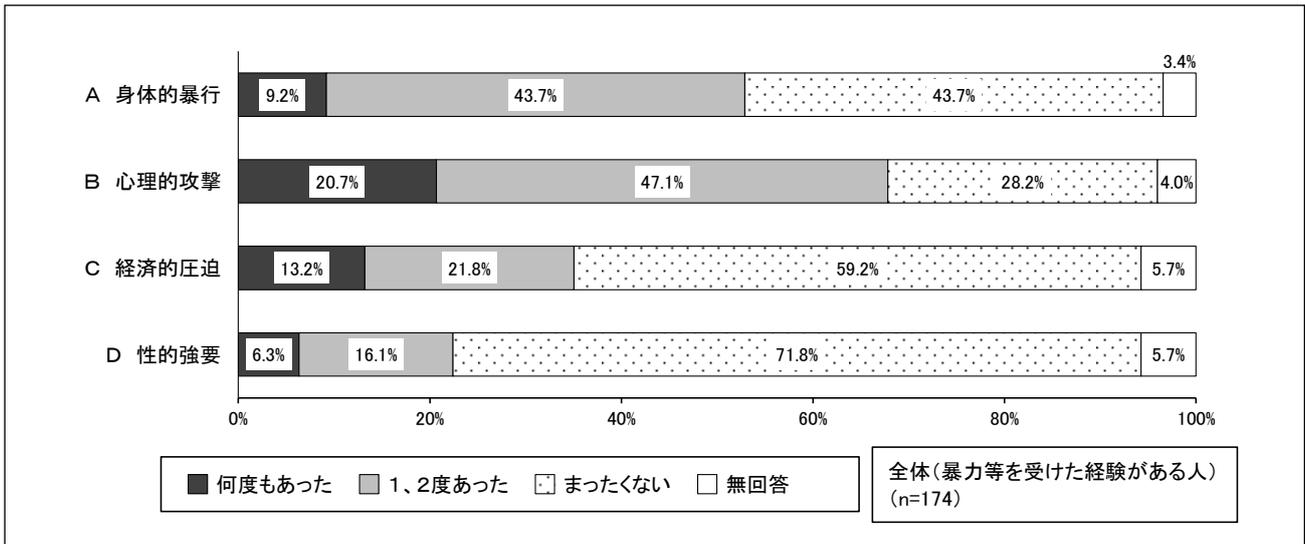
<図表7-2-2 配偶者などから暴力等を受けた経験>(男女別、年代別)



【暴力等を受けた経験がある】と回答した割合は、女性は約3人に1人(35.8%)、男性は約5人に1人(18.3%)である。年代別では、母数が少なく、また各年代の母数に大きな差があり、単純に比較することが難しい。

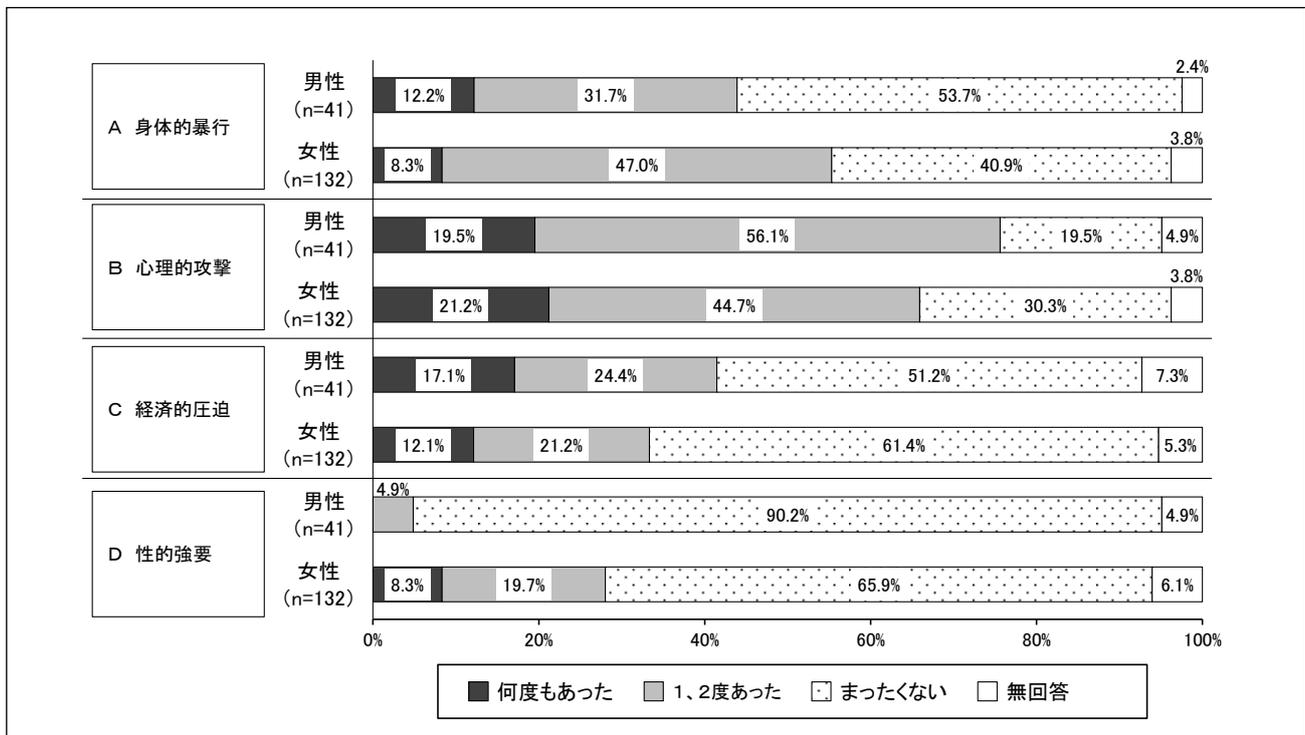
○暴力等の内容

<図表7-2-3 受けた暴力等の内容> (全体・要件該当者)



受けた暴力等の内容は、「心理的攻撃」と回答した割合が約7割(67.8%)、「身体的暴行」と回答した割合が約半数(52.9%)となっている。

<図表7-2-4 受けた暴力等の内容> (男女別)



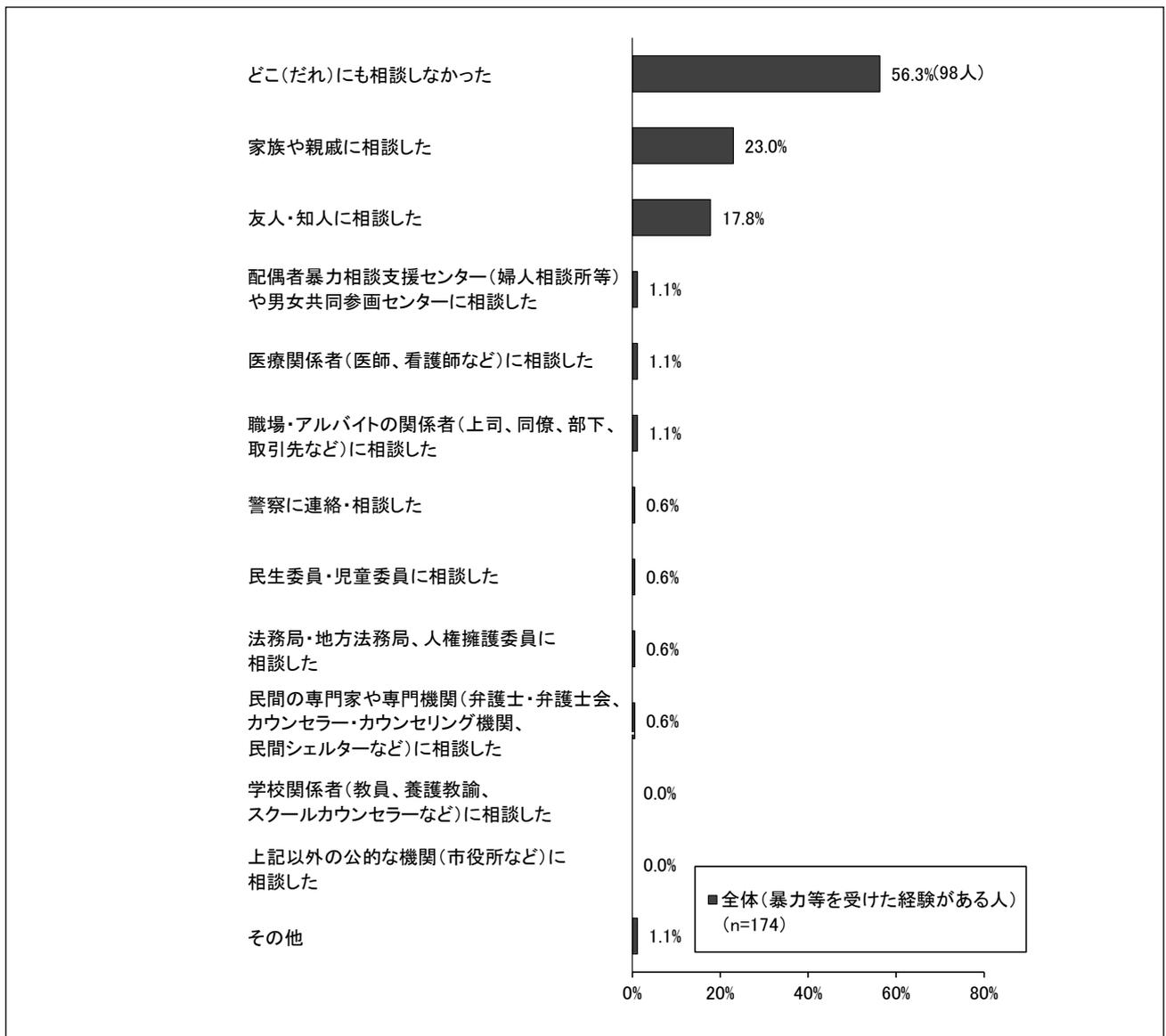
男女ともに受けた暴力等の内容は、「心理的攻撃」が最も高い(男性:75.6%、女性:65.9%)。また、女性は「身体的暴行」が約半数(55.3%)となっている。

7-3 配偶者などから暴力等を受けたときの相談の有無、相談先

- ◇約半数が相談していない
- ◇相談先は「家族や親戚」、「友人・知人」が最も多く、約2割
- ◇「公的機関」や「専門の相談員」などにはほとんど相談していない
- ◇男性は、女性より相談しない傾向
- ◇女性は男性よりも、「家族・親戚」や「友人・知人」に相談している傾向

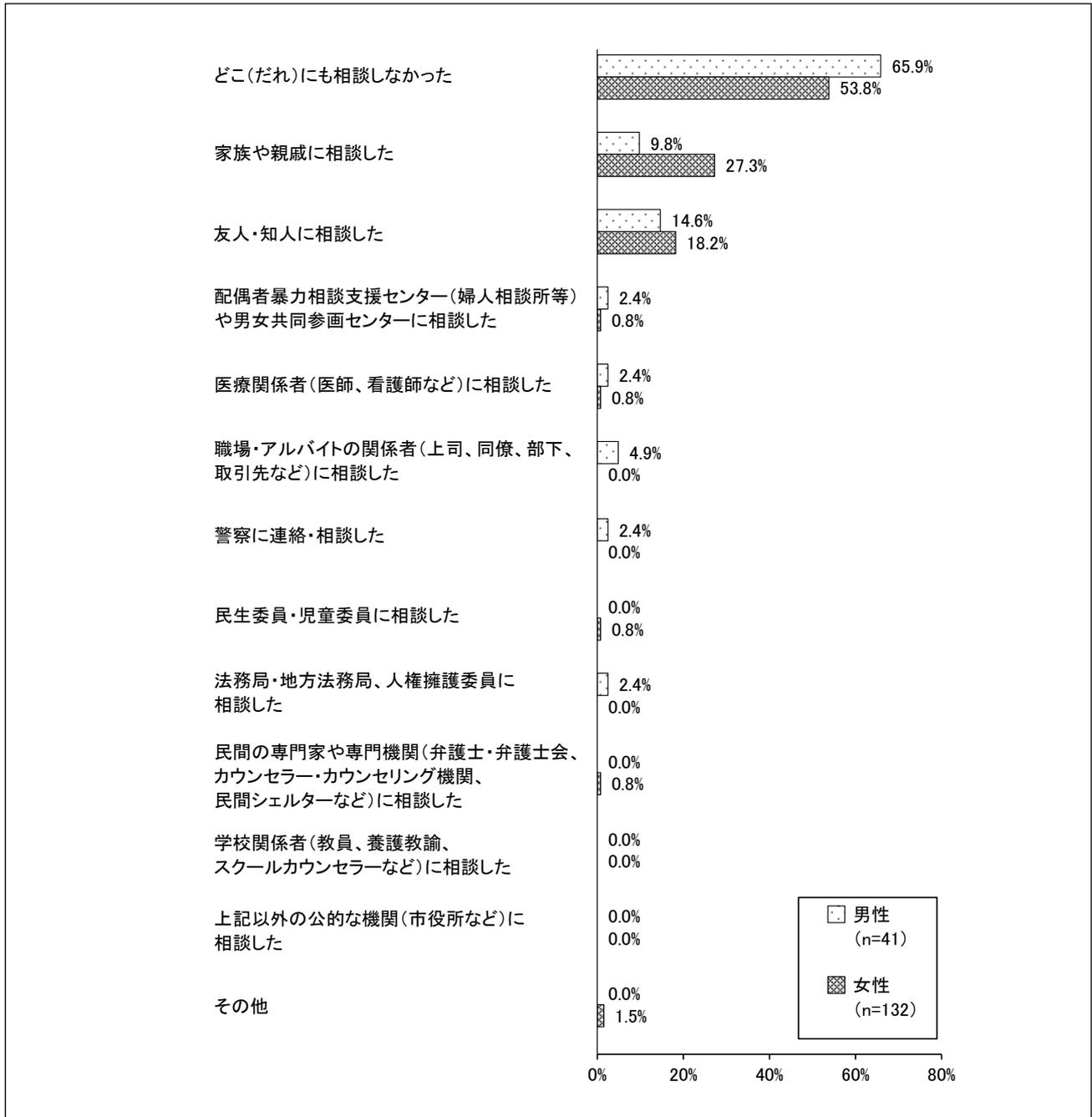
問32 あなたはこれまでに、配偶者などからの暴力(DV)を受けたとき、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

<図表7-3-1 配偶者などから暴力等を受けたときの相談の有無、相談先>
(全体・要件該当者)



「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が約半数(56.3%)で、最も高くなっている。その中で、相談先は「家族や親戚」、「友人・知人」がそれぞれ約2割となっており、「公的機関」、弁護士などの「専門機関等」に対しては、ほとんど相談していない。

<図表7-3-2 配偶者などから暴力等を受けたときの相談の有無、相談先> (男女別)



男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が最も高くなっている(男性:65.9%、女性:53.8%)。相談先は男女とも「家族や親戚」、「友人・知人」となっている。ただし、「家族や親戚」に相談する割合は、男女間に大きな差が見られる(男性:9.8%、女性:27.3%)。

男性は女性より相談しない傾向にあり、男性に比べて女性の方が「家族・親族」や「友人・知人」に相談している傾向にある。

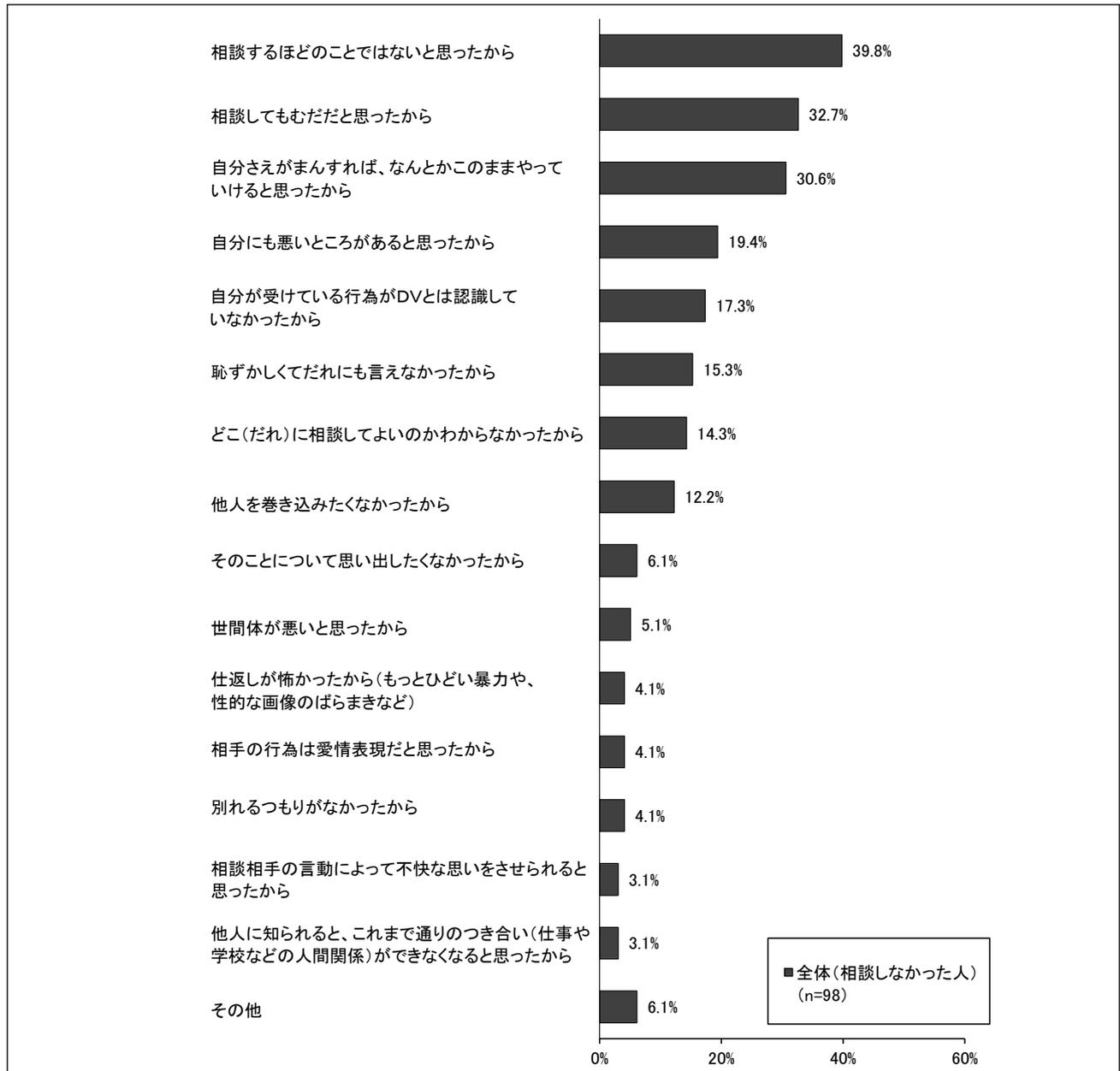
7-4 配偶者などから暴力等を受けたときに相談しなかった理由

◇約4割が「相談するほどのことではないと思ったから」と回答

◇約3割が「相談してもむだだと思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」と回答

問33 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

<図表7-4-1 配偶者などから暴力等を受けたときに相談しなかった理由> (全体・要件該当者)



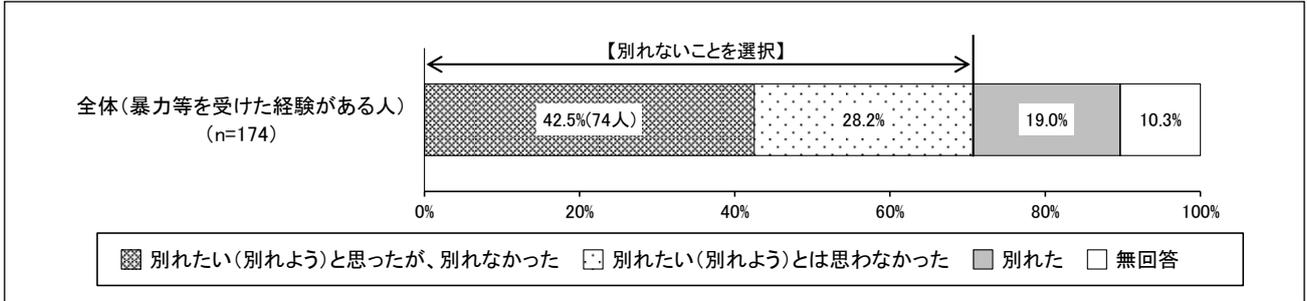
「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した割合が約4割(39.8%)で最も高い。次いで「相談してもむだだと思ったから」、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」と回答した割合が約3割となっている。

7-5 配偶者などから暴力等を受けたときの対応

◇約7割が別れないことを選択

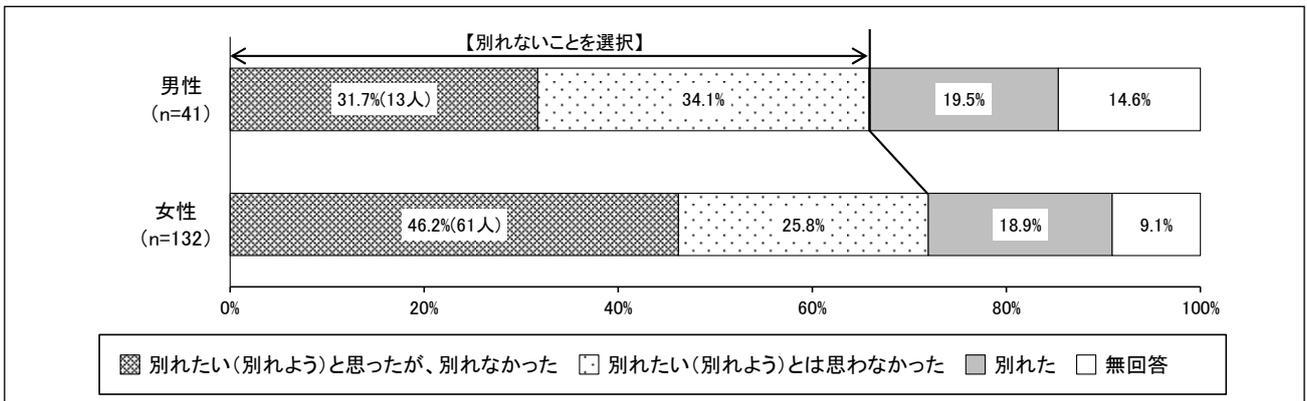
問34 あなたは、配偶者などからの暴力(DV)を受けたとき、どうしましたか。最もあてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

＜図表7-5-1 配偶者などから暴力等を受けたときの対応＞(全体・要件該当者)



【別れないことを選択】(「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と「別れたい(別れよう)とは思わなかった」の計:以下同じ)した割合は約7割(70.7%)となっている。

＜図表7-5-2 配偶者などから暴力等を受けたときの対応＞(男女別)



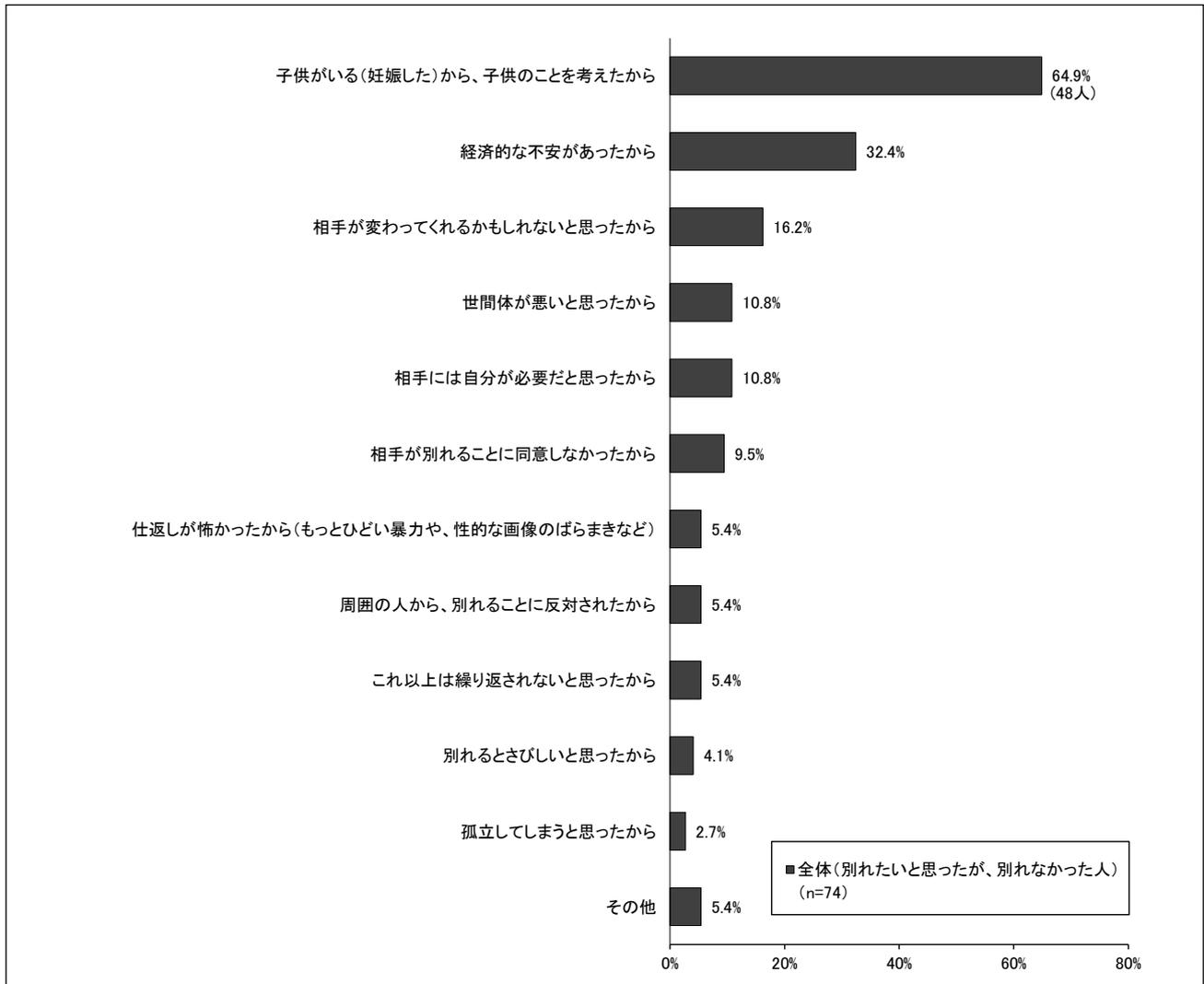
【別れないことを選択】した割合は、男性は65.8%、女性は72.0%となっている。

7-6 配偶者などと別れなかった理由

◇約6割が「子供がいる(妊娠した)から、子供のことを考えたから」と回答

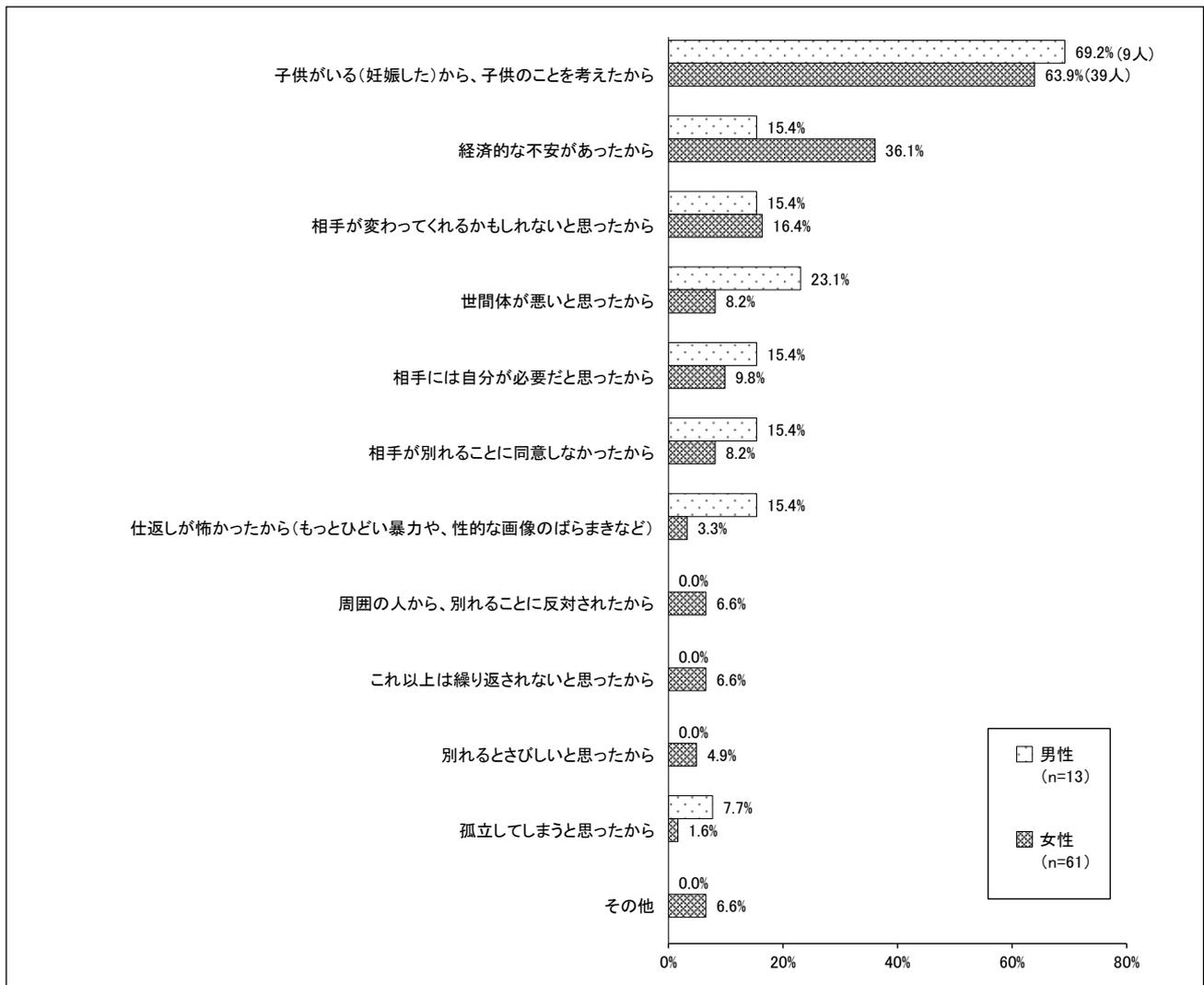
問35 あなたが、配偶者などと別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

<図表7-6-1 配偶者などと別れなかった理由> (全体・要件該当者)



「子供がいる(妊娠した)から、子供のことを考えたから」と回答した割合が約6割(64.9%)で最も高く、次いで「経済的な不安があったから」となっている。※ただし、母数は少ない。

<図表7-6-2 配偶者などと別れなかった理由>(男女別)



男女とも「子供がいる(妊娠した)から、子供のことを考えたから」と回答した割合が最も高くなっている(男性:69.2%、女性:63.9%)。次いで、男性は「世間体が悪いと思ったから」、女性は「経済的な不安があったから」となっている。
※ただし、母数は少ない。

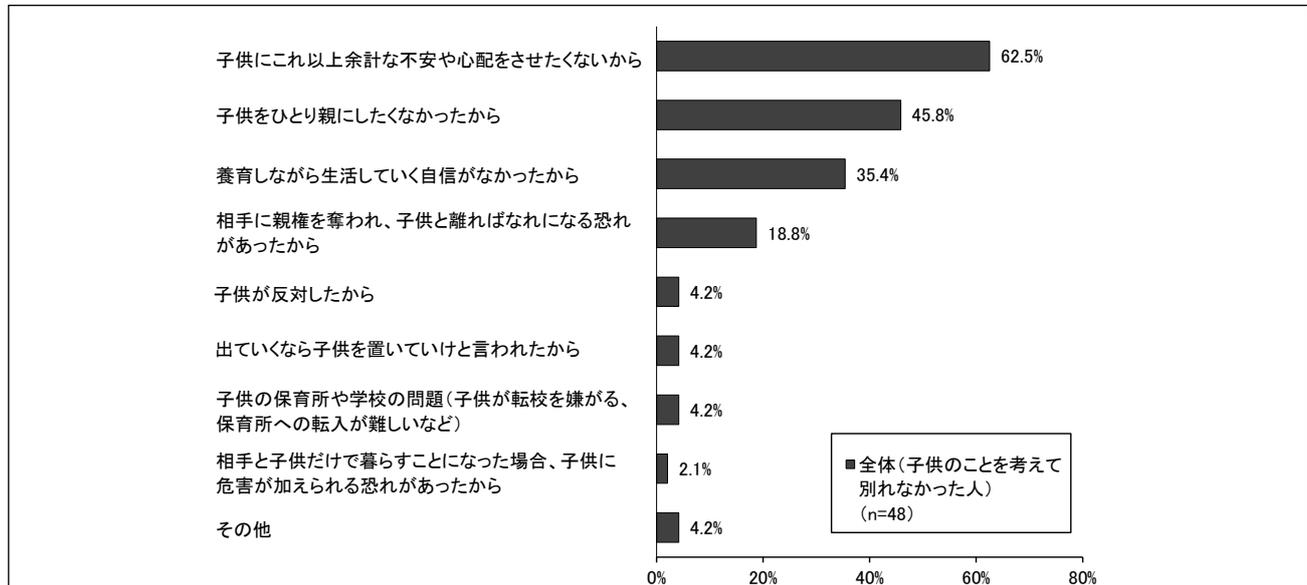
7-7 子供のことを考えて別れなかった理由

◇約6割が「子供にこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」と回答

◇女性は経済的不安を気にする傾向

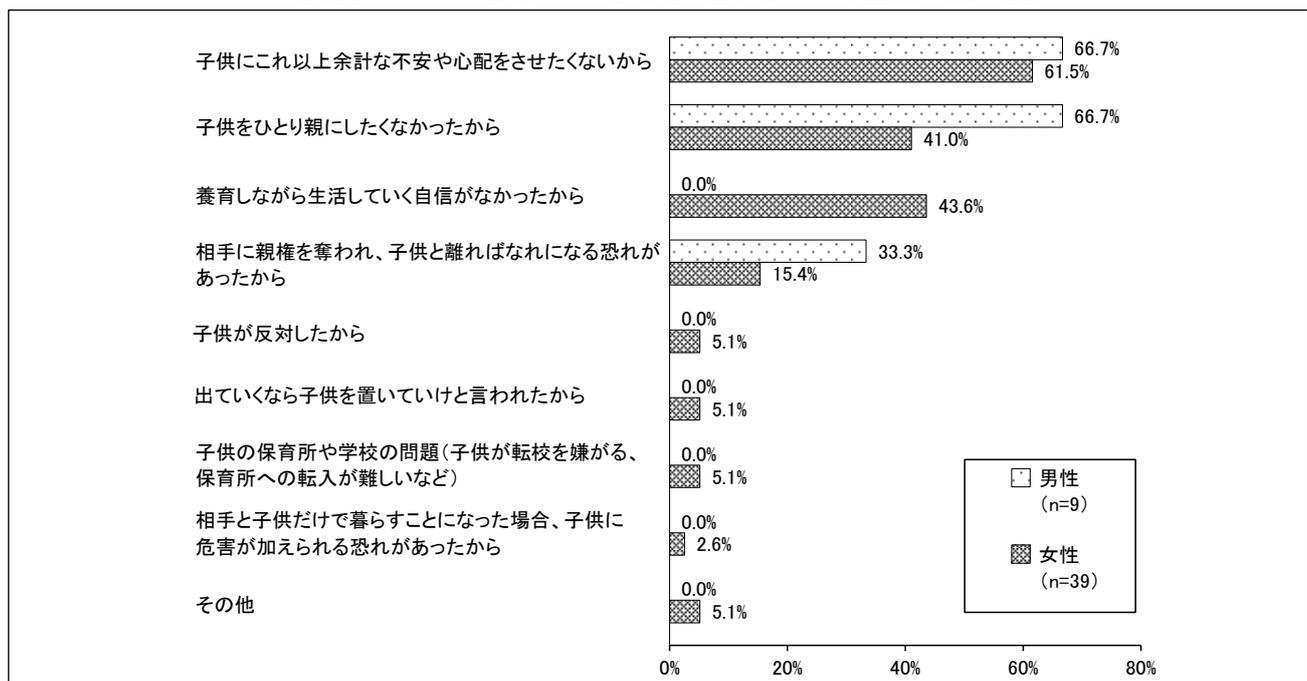
問36 あなたが、子供のことで配偶者などと別れなかった主な理由は何ですか。
あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

<図表7-7-1 子供のことを考えて別れなかった理由> (全体・要件該当者)



「子供にこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」と回答した割合が約6割(62.5%)で最も高くなっている。次いで「子供をひとり親にしたくなかったから」、「養育しながら生活していく自信がなかったから」となっている。

<図表7-7-2 子供のことを考えて別れなかった理由> (男女別)



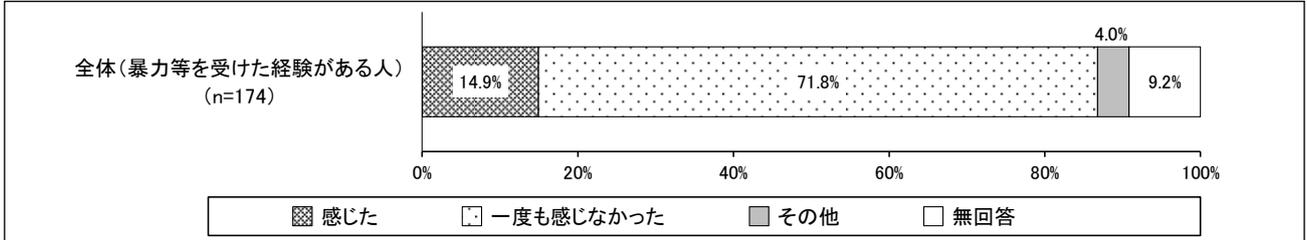
男女とも「子供にこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから」と回答した割合が最も高くなっている(男性:66.7%、女性:61.5%)。次いで、男性は「子供をひとり親にしたくなかったから」、女性は「養育しながら生活していく自信がなかったから」となっており、女性は経済的不安を気にする傾向にある。※ただし、母数は少ない。

7-8 配偶者などから暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験

◇暴力等を受けた経験がある人のうち、約7人に1人が「命の危険を感じた」と回答

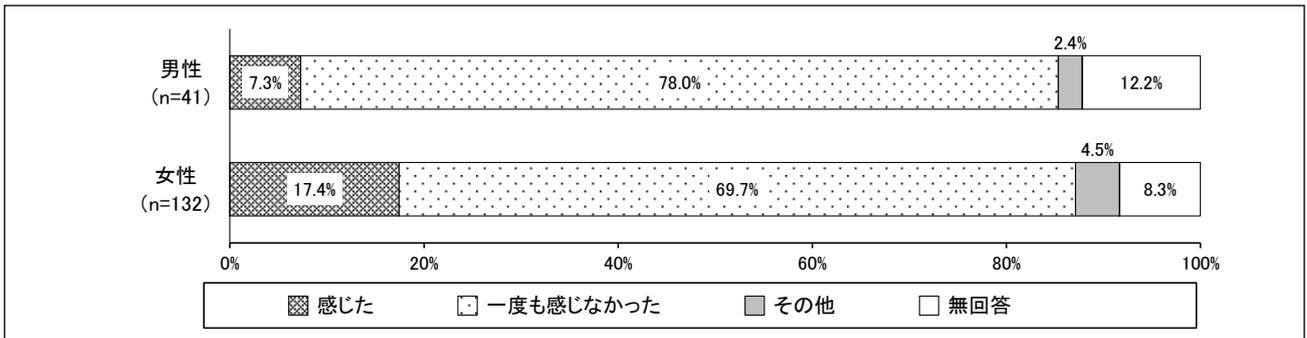
問37 あなたはこれまでに、配偶者などからの暴力(DV)を受けたとき、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

＜図表7-8-1 配偶者などから暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験＞(全体・要件該当者)



「命の危険を感じた」と回答した割合は、約7人に1人(14.9%)となっている。

＜図表7-8-2 配偶者などから暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験＞(男女別)



「命の危険を感じた」と回答した割合は、女性が男性を上回っている(女性:17.4%、男性:7.3%)。※ただし、母数は少ない。

7-9 自由記述の内容

問38 「配偶者などからの暴力(DV)」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.79に掲載

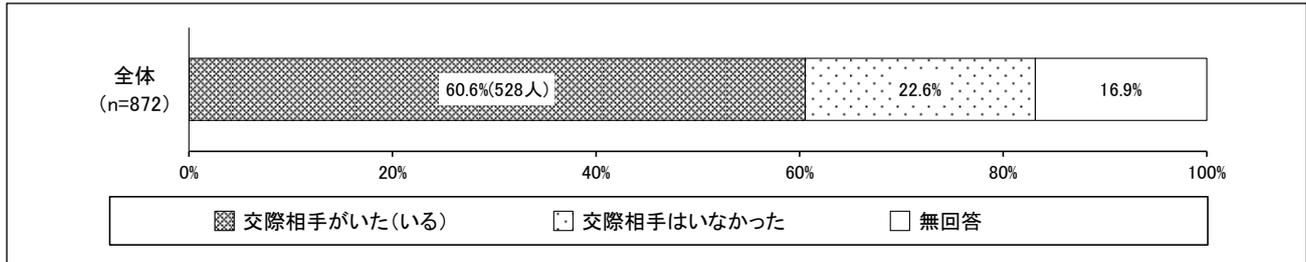
8. 交際中の二人の間で起こる暴力(デートDV)について

8-1 交際相手がいた経験

◇約6割が「交際相手がいた(いる)」と回答

問39 あなたには、これまでに交際相手(同性の交際相手を含みます)がいましたか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。
現在、結婚している方については、結婚前についてお答えください。(○は1つ)
なお、ここでいう「交際相手」には、婚姻届を出していない事実婚は含みません。(以下、同様)

<図表8-1 交際相手がいた経験>



「交際相手がいた(いる)」と回答した割合は約6割(60.6%)となっている。

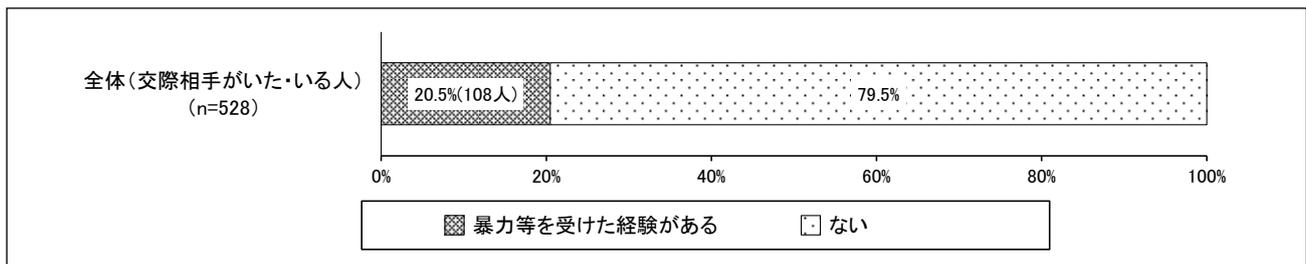
8-2 交際相手から暴力等を受けた経験

◇約2割が「交際相手から暴力等を受けた経験がある」と回答

◇約7割が「心理的攻撃」

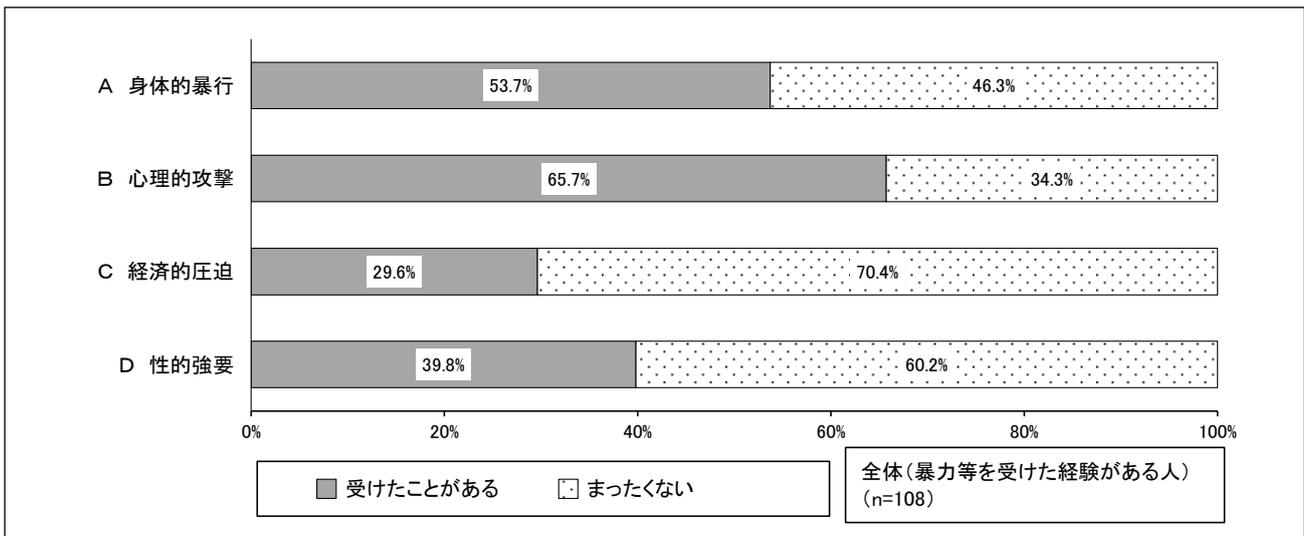
問40 あなたはこれまでに、交際相手から次のA~Dのような暴力等を受けたことがありますか。
A~Dのそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

<図表8-2-1 交際相手から暴力等を受けた経験>(全体・要件該当者)



「暴力等を受けた経験がある」と回答した割合は約2割(20.5%)となっている。

＜図表8-2-2 交際相手から受けた暴力等の内容＞（全体・要件該当者）

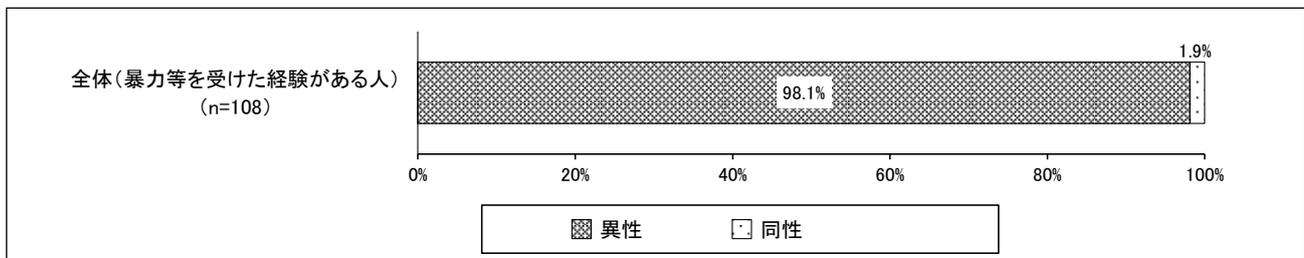


受けた暴力等の内容は、「心理的攻撃」と回答した割合が約7割(65.7%)で最も高く、次いで「身体的暴行」と回答した割合が約半数(53.7%)となっている。

8-3 暴力等をふるってきた交際相手の性別

問40-1 また、交際相手の性別はどちらでしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

＜図表8-3 暴力等をふるってきた交際相手の性別＞（全体・要件該当者）



暴力等をふるってきた交際相手の性別は、「異性」と回答した割合が98.1%となっている。

8-4 交際相手から暴力等を受けたときの相談の有無、相談先

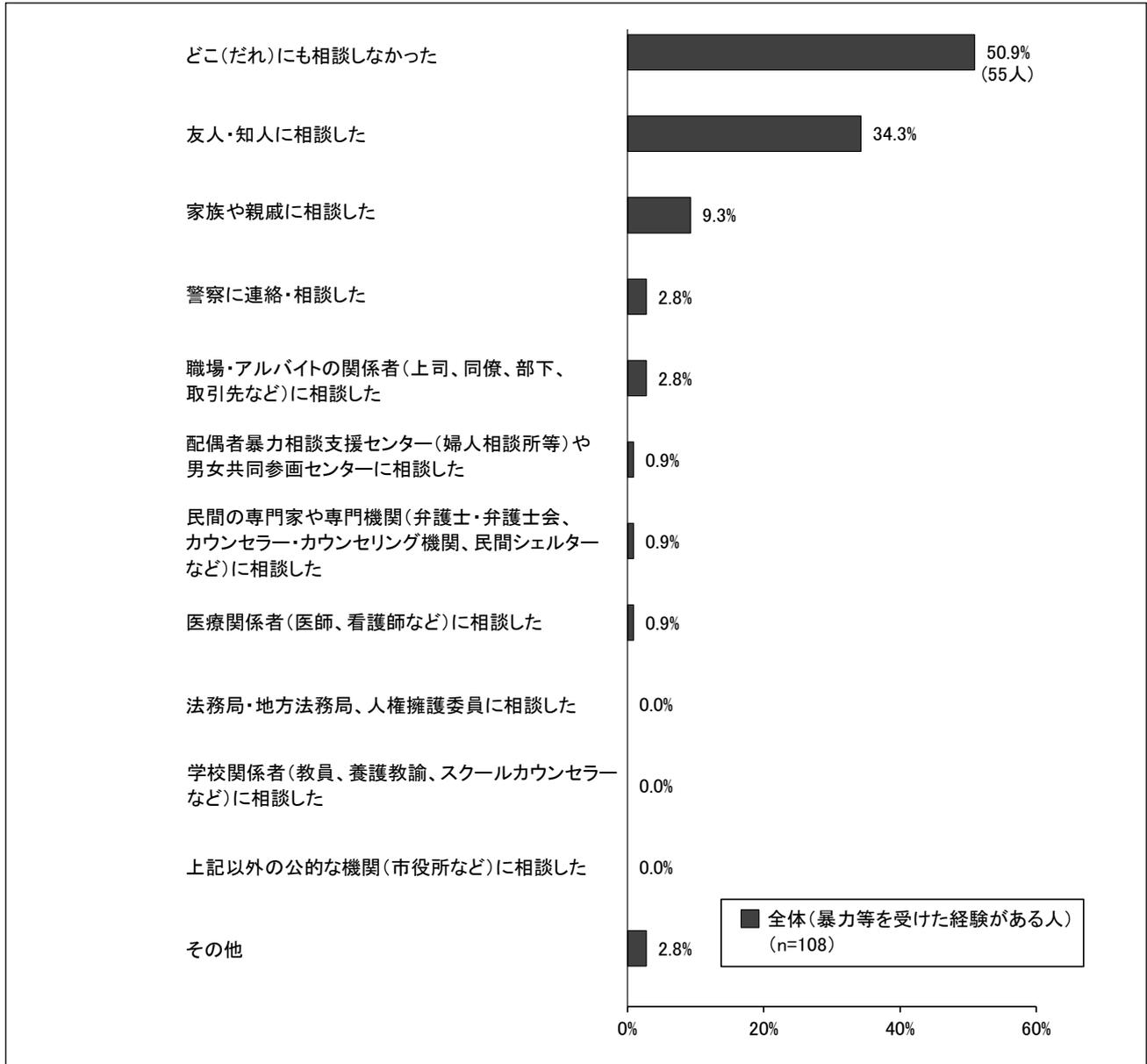
◇約半数が相談していない

◇約3人に1人が「友人・知人に相談した」と回答

◇「公的機関」や「専門の相談員」などにはほとんど相談していない

問41 あなたはこれまでに、交際相手から暴力(デートDV)を受けたとき、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

<図表8-4 交際相手から暴力等を受けたときの相談の有無、相談先>(全体・要件該当者)



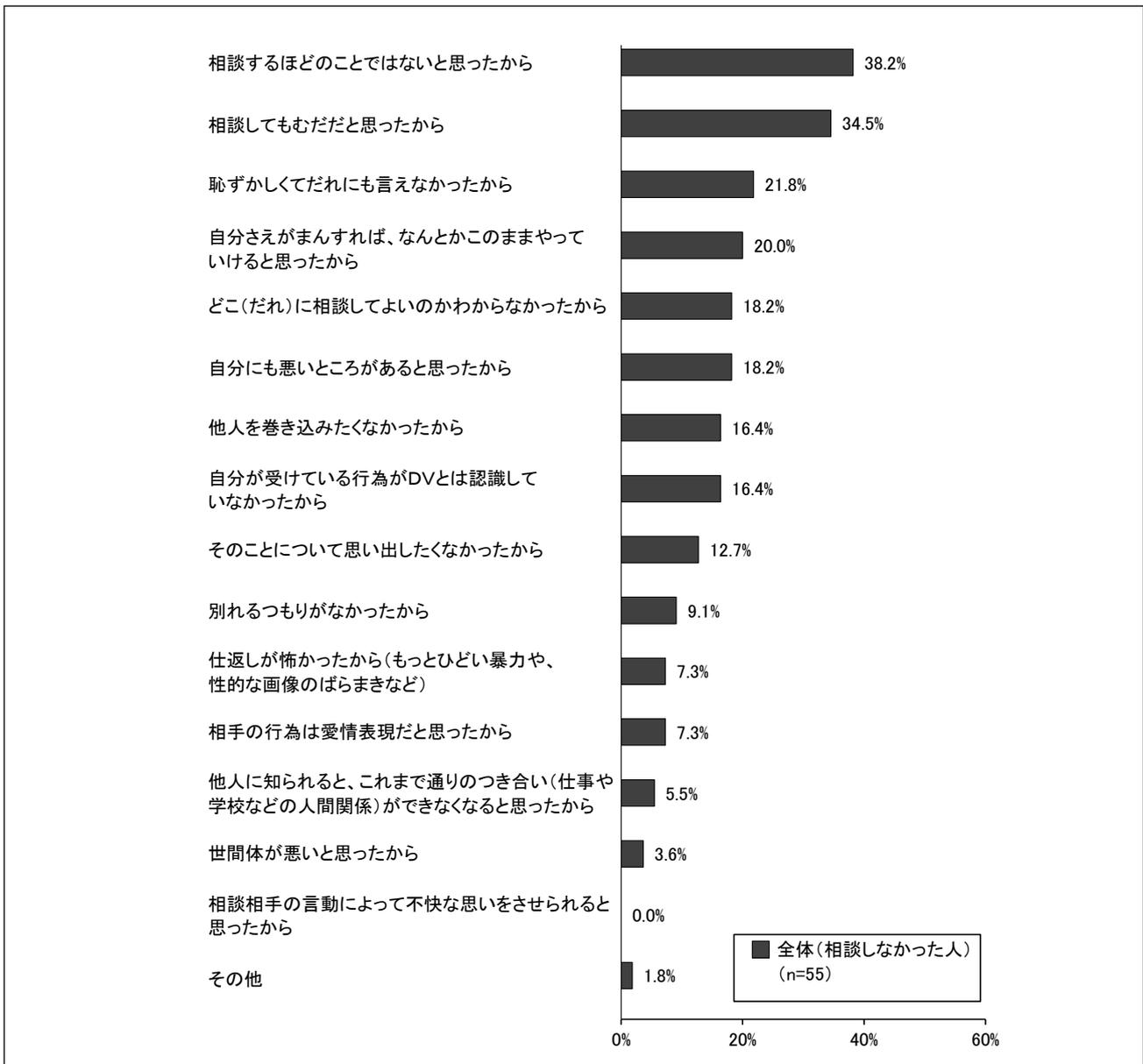
「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した割合が約半数(50.9%)で最も高くなっている。このような中で、相談先は「友人・知人」が約3人に1人(34.3%)であり、次いで「家族や親戚」となっている。「公的機関」、弁護士などの「専門機関等」に対しては、ほとんど相談していない状況になっている。

8-5 交際相手から暴力等を受けたときに相談しなかった理由

◇約4割が「相談するほどのことではないと思ったから」、約3割が「相談してもむだだと思ったから」と回答

問42 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

＜図表8-5 交際相手から暴力等を受けたときに相談しなかった理由＞(全体・要件該当者)



「相談するほどのことではないと思ったから」と回答した割合が約4割(38.2%)で最も高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」と回答した割合が約3割(34.5%)となっている。※ただし、母数は少ない。

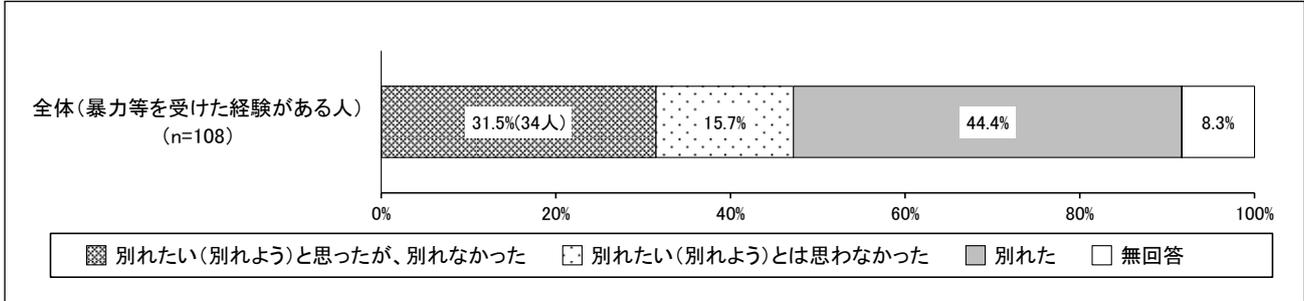
P.51の間33「配偶者などから暴力等を受けたときに相談しなかった理由」と比較すると、回答の多い2項目は一致している。

8-6 交際相手から暴力等を受けたときの対応

◇約半数が別れないことを選択

問43 あなたは、交際相手からの暴力(デートDV)を受けたとき、どうしましたか。
最もあてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

<図表8-6 交際相手から暴力等を受けたときの対応>(全体・要件該当者)



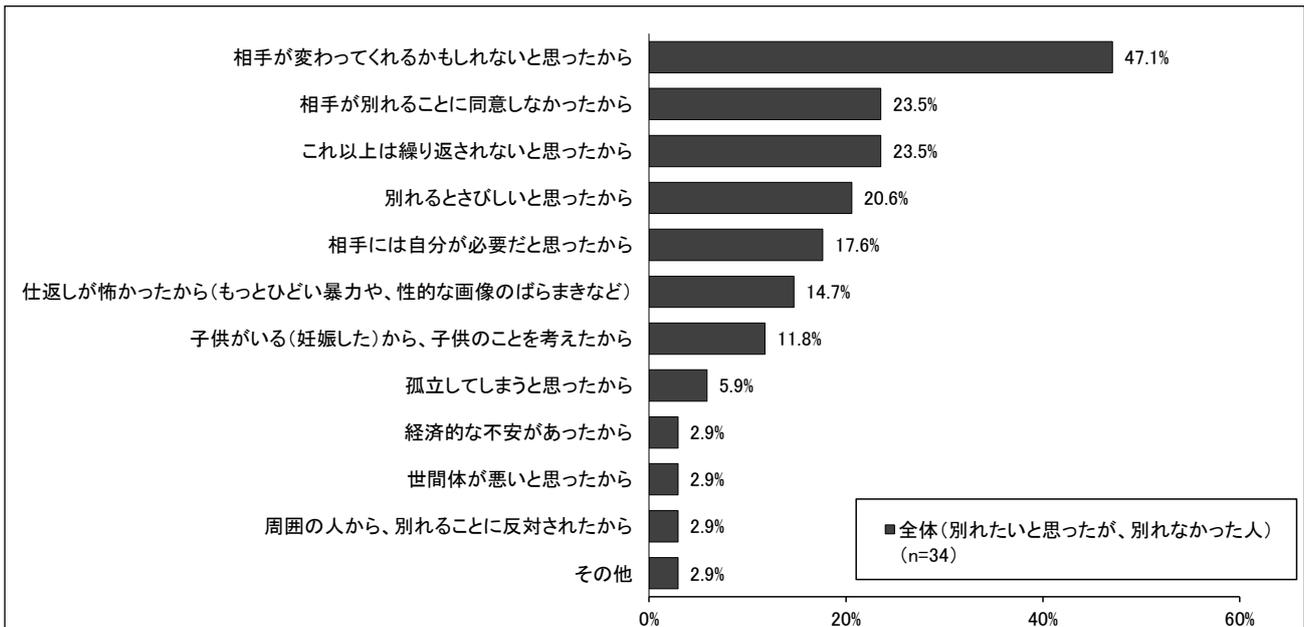
【別れないことを選択】(「別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった」と「別れたい(別れよう)とは思わなかった」の計)した割合は約半数(47.2%)となっている。

8-7 交際相手と別れなかった理由

◇約半数が「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」と回答

問44 あなたが、交際相手と別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

<図表8-7 交際相手と別れなかった理由>(全体・要件該当者)



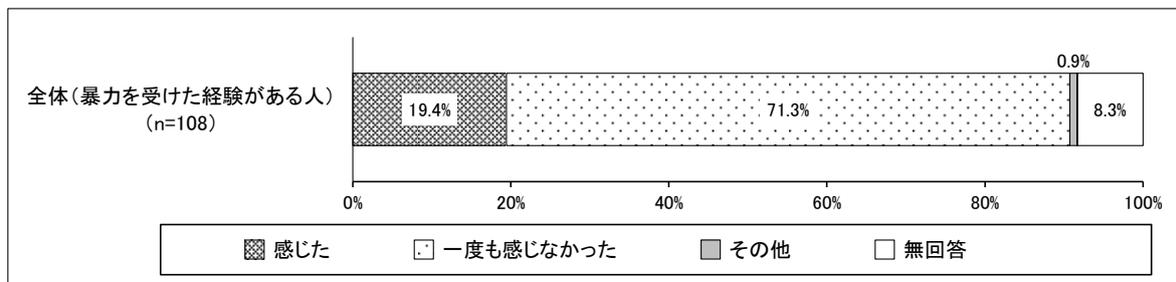
「相手が変わってくれるかもしれないと思ったから」と回答した割合が約半数(47.1%)で最も高くなっている。次いで「相手が別れることに同意しなかったから」、「これ以上は繰り返されないと考えたから」と回答した割合がそれぞれ約2割(ともに23.5%)となっている。※ただし、母数は少ない。

8-8 交際相手から暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験

◇暴力を受けた経験がある人のうち、約5人に1人が「命の危険を感じた経験がある」と回答

問45 あなたはこれまでに、交際相手からの暴力(デートDV)を受けたとき、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

<図表8-8 交際相手から暴力等を受けたときに命の危険を感じた経験>(全体・要件該当者)



「命の危険を感じた」と回答した割合は約5人に1人(19.4%)となっている。

8-9 自由記述の内容

問46 「交際中の二人の間で起こる暴力(デートDV)」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

・P.79に掲載

Ⅲ 自由回答

○主な意見を掲載

(1)男女共同参画社会に関する意識について ※問13

もっとわかりやすく伝えてほしい。
近年、女性の社会での平等が進んできたと思う。ただ、実際のところ、平等になったというよりも、女性が優遇されているまたは、男性が優遇されているのいずれかになっている気がする。また、家庭での男性の育児休暇や子育てに取り組めるような環境が社会的にまだまだ浸透していない。一般企業ではなおさらでは…。ここを改善しない限り、女性が子育てををするということで、子どもを理由に優遇されたり、職場で昇進がしづらかったりすると思う。
男女共同参画社会を初めて知ったので広める活動をした方がいいと思う。
男女年齢問わず、みんなが理解できるようになればいいと思います。
男性、女性と分ける考え方は古いものと、人それぞれが、理解すれば良いだけの事かと思えます。あまりこの事について深く考えたことがなかった。
人は自分の能力を発揮して、他人に認められ、自分に価値を感じ、自己肯定感が高まるものだと思います。それを阻害する壁を壊すという意味で男女共同参画社会は良い取り組みだと思いますが、無理に押し付けてさせるものではないと思います。それぞれが生きやすい社会を作る中の取り組みの1つで、現状を肯定する人も少なからずいると思いますので、その人たちが生きづらくならないように配慮して進めてもらいたいと思います。最近おおらかさが社会全体として減ってきているように感じます。
男女の区別というよりは、人それぞれの違いを尊重しあって 互いに敬意を払い合える社会が望ましいと思います。
男女共同参画社会という言葉は初めて目にしました。
多様性と言いながら、女性が社会進出すべきとか、専業主婦、性別役割分業の否定する風潮は、また別なのでは？女性が国会議員に何パーセントしかいないとかも、それが問題なのか？とも思います。男女1人ずつ各選挙ブロックから選べば世の中が改善されるのか？性的マイノリティの人はどうなるのか？と考えていくと、新しい制度は必要ない、寧ろ歪な社会を形成してしまうのではないかと思います。女性に参政権がないとか、被選挙権が無いというのなら、問題だと思いますが。
いろんな考え方があっていい時代だと思うが、みんなが男女平等がいいと思っていないということも尊重してもいいと思う。
出来ることをするだけでいいと思います。
目標を明確化して社会で共有しなければ、意識も高まらないと思う。
映画や飲食店、ホテルなどのレディースデーや女子会プランはどうなるのか？メンズデーとか男子会という言葉は聞いたことがない。一説には、平日昼間に客を呼び込む為のキャンペーンの一つで、平日にメンズデーを設けても、男性は仕事で来れないからで、休日にメンズデーを設定する必要もないらしい(わざわざ安くしなくても客は入る)。結局、平日昼間は男性仕事。女性は暇。という図式が出来ている。
男女平等というよりも役割分担、適材適所との考え方も必要。
共同参画社会になっていける仕組みが出来ていない。言葉だけ一人歩きしているような気がする。
娘夫婦も働いているので平等は特に大事だと思う。
昔に比べると男女とも共同参画の意識はかなり進んでいると思う。
男女問わず互いを尊重し合う気持ちが醸成される社会を目指すべきであり、やれ、それがメインストリームだからとか、常識だからとか、ましてや上から言われたからと言って、思考停止するのではなく、自ら考える姿勢を維持し続けることが必要だと考える。行政に携わる方々はもちろんのこと、市井の人々一人一人が己がこととして考えていく事が肝要だろう。
【問7】について、男性が優遇されること(業務・事項・場面)もあれば、女性が優遇されることもあり、一概には言えない。【問9】について、私の家庭では、結婚を機に妻が退職(その時代の慣例)し、出産・育児後専業主婦となり、夫が外で仕事をし、妻が家庭にいる状態になったが、各家庭の判断であるため、「賛成・反対」では答えられない。【問10】について、「自分らしく」育ててほしいが、ある程度好みがわかってくる「性」による育て方になると思う。
会社の体質が、なかなか男女共同参画に向かおうとしてない事をよく聞きます。暗黙に結婚したら退社と言うこともある様です。なかなか難しい問題です。
職場等に関係なく地域内で会話のできる自由な雰囲気づくりを行い、会う機会をお互いに、声掛けを行い、人間関係づくりを進めることが第一だと思います。

意外と女性の側に参画への意識、認識や参画することへの積極性がないのでは？例えば役職者への登用を進めでも断ったりとか。
あまりこだわらずに出来る事を出来る人がやる。女性が出すぎる。男性もやさしく見守る姿勢が必要かと思います。
上記表記の「男女共同参画社会」対する問題は小さい内から家庭教育・学校教育で子供の内から習得させる問題。特に意識する事じゃない。
男性の意識は少しずつ変わってきているように感じる。家事や育児により積極的になっていると実感する(幼稚園の参観日においてパパの参加率が3年間と比べて多いため)。ただ仕事や社会の環境が男性の変化する意識に対応しきれていないと思う。問11に関して特に⑦に共感している。
少子化の時代に対応し、人口減少の対策のためには若い人達は共働きが必要不可欠だと思うので、全ての人達が、男女の区別なく、協力しながら、幸福な生活を目指すべきだと思う。
事例を発表(パンフレットなど)してみたらどうだろうか。
職場の管理職の旦那さんの朝ご飯作らなくて大丈夫？という言葉がひっかかる。朝早い出勤で、私を気遣ってくださる言葉だとは思っているが、気遣う所そこ？と疑問に思う。
男性の育児休暇取得に障害が多いように思える。
親戚が集まる場など、女性が台所に立ち、男性は座りお酒を飲む風習はなかなかなくなる。男女平等とは思えないことの一つです。
世代交代が進めば、男女の役割意識や固定観念は薄れていく。これからは、労働時間の短縮など協力し合える体制作りが必要だと思う。
男女といっている時点で、もうジェンダーレスを無視しているように思える。
女性の友人達を見ていると、家事、育児、仕事と男性よりハードな生活をしている方が多いように思います。
「意識」というか、できる人ができる事をすれば良いだけの話だと思う。
男性が家事・育児に参加することや女性が社会で活躍すること。これが進められる世の中で、そうしない人達が責められることのないように、人に意図的に迷惑を掛けようとする以外、色々な生き方を尊重しあえる社会になると良いと思います。
日本は先進国の中でもかなり遅れをとっていると思います。進んでいないイメージがあります。
家庭でも、仕事でも、出来る方ができる事をやれば良いと思う。
家庭の状況や本人の性格・体質他色々な事柄が有るので、これが正しいと言うことは難しいと思われる。固定した考え方以外でも多様性のある考え方が、受け入れられる柔軟な社会になって欲しいと思う。
このようなアンケートの結果がいつ、どのように役立てられるのか いつも疑問に思いつつ、それでも時間を取り回答しています。今、子育てまっただ中の方たちはもっと大変だと思うので、どうかよりよくなる状況にぜひこの結果を役立ててほしいと思います。
発足してから相当な時間と経費がかかっていると思うが、余りにも成果が感じなさすぎる。
この言葉が存在する事がすでに世界の先進国の中で遅れてるんだなと思わざるをえない…。
男女の賃金格差の完全撤廃を実現して欲しい。「男だから」「男性しかこの仕事は…」的な差別をなくして欲しい。
均等法から37年、育休(出産年齢は低い)の改正にはめざましいものを感じます。賃金はあいかわらず変化なし。
問11の7番のように子育て期間については多様な働き方を、会社やまわりが制度として認め、男性が女性がではなく、子供を生み育てる事が会社の業績よりも何よりも優先される世の中になる事が大切。
同様の仕事をしていてもあきらかに女性の給料が低い。夫がいれば収入はそれほどなくても良い。子供がいれば転職も簡単ではないので、結果的に会社に安くいいように使われているように思う。
自分の親の世代は、まだまだ意識が低く、ステレオタイプな「嫁」「婿」を求めることに違和感を感じる。
まずは自分自身が柔軟にならなければと感じます。
世代間で持つ認識や感覚が違うので、まとめるというのは難しい気がする。ただ、男女それぞれが行きやすい場を作れば理想かと。こうでないといけないということ自体、価値観の押し付けではないでしょうか。がんばりすぎると心身がすり減ります。
社会全体の理解度を深める事。幼少期からの教育の必要性。
まだまだ意識が低いように思う。
男女共同参画に理解は出来ませんが、男性にしか出来ない事、女性にしか出来ない事は多々あります。そこを平等に！と言われると少し無理も出てくるのではないかと…と思います。
センターの具体的な活動がされているのか不明であり、昔よりも女性の活躍の場も多くなって来ている事もあるせいか、この間の「意識」だと持っていないです。男女共同参画という言葉もあまり聞かないです。

<p>私は初老で昔の考え方が強いのですが、男性が家事育児などをするのは賛成です。男だから女だからと特定した言動でなければいけないのも、ちょっと疑問に思います。それに若者は男女問わず、それぞれの分野を覚えて実践していくと、視野も広まったり、将来の可能性も広がるし、何より高齢化社会となっている今は、どちらが先に天国(?)に逝くかもしれないし、自分ひとりになっても生きていくためには、何でもできるようになっての方がよいと思うから。</p>
<p>男女共同参画も必要だが、いちばん大切な事は、子供達の心身の発達にとって最も大事な事を考えてほしい。</p>
<p>男女共同参画社会は理想的だと思いますが、漠然としてよくわからない事がいっぱいです。何をどうしたらいいのかわかりにくいです。</p>
<p>「べき」という考え方を見直してはと思う。</p>
<p>家事育児に関わらない男性は“半人前”くらいの意識が職場や社会に欲しいと思う。もちろん制度や公的バックアップが必要でしょうが…。</p>
<p>詳しく知らない。</p>
<p>以前より色々言われているが中々進まないと感じる。</p>
<p>女性が働いていても、家の中の事は女性がするものという意識は根強くある気がする。今の若い世代の意識はわからないけれど、社会全体の意識が変わるには、まだ時間がかかる気がする。</p>
<p>昔から「男女共同参画社会」という言葉は聞いていましたが、言葉だけが一人歩きしているみたいです。この事案は絶対に女性の意見を聞いた方が、良い案が出るのと思う事でも男性が決定している事が多いと常々思います。</p>
<p>これからは男女差別なく、よりよい社会になったらいいかな！と思います。</p>
<p>以前に比べれば男女平等が何事にも言えて来て良い時代になっていると思います。男と女は身体的な違いが色々あるので社会でも家庭でもお互いがコミュニケーションを取って相手を尊重する心があればもっともっと良くなると思います。</p>
<p>議論していくことは大切なことと思います。</p>
<p>今の世代の男性は家庭的で協力的な様に見受けられる。夫婦の影響、母親の教育もあり、男女区別なく育てている様に思うので不安はあまりない。</p>
<p>男女共同と言うなら、夫と同じぐらい働けるように。</p>

(2) 女性の活躍推進について ※問17

今の時代、男女とか関係ない。
子供を産んだら職がなくなる職場もあると思います。
いいと思う。
まだまだ職場や各種制度が十分な体制にない。
女性が社会で働くのはとてもいいことだと思うが、子供の行事ごとで休んだり、休みやすかったり。逆に男性は休みにくかったりするため、平等とは？と感ずることがある。
どんどん女性は活躍してほしい。
いいことだと思います。女性の方がいいと思うこともあります。
政治家に女性が少ないと言う意見があるが、選挙の結果なのだから…。
そもそも女性の活躍推進をしなければならぬような社会の在り方が残念です。もっと普通に男女関係なく個人の能力で評価される社会であるべきだと思います。
性別に関係なく、適材な方が活躍推進出来れば良いと思います。
能力を平等に評価点すれば良いだけ。
やる気や能力がある人は男女かまわず抜擢していいと思うが、女性活躍ありきで抜擢されると、本人もまわりもいい結果にならないケースが多い。
多くの女性が活躍できる環境が整ってほしい。
責任が重くなったり、やっかみが出るなどは男でもよく有る。女性の場合は古い考えの方からも有るので大変だろう。
能力のある女性は、今現在でも社会の中で活躍しています。ただ、お母さんの立場となった時に子育てとの両立が難しい社会ではあります。
女性が占める管理職等のポストの割合を法律で定める。達成した会社には減税する。
もっと理解をする事が必要である。(世相が)
誇りに思う。
能力があり、謙虚な人だったら昇進して欲しい。
女性が活躍出来ないのは男社会のせい…と言われるがそればかりでは無い様な気がしている。
イメージが変わらないかぎり×である。
男性の意識改革はもちろんのことだが、長年の男女差別の結果、立ち上がる意欲、能力を押し込まれている女性のなんと多いものか。
PTA活動など賃金が発生しない役割に素晴らしい活躍をされる方が多いのに、実際の社会の中でその力を発揮出来ずにいるのは宮崎にとってマイナスである。
その職に応じた知性、知能、品格、謙虚(もちろん男性も)が躍進(管理職)の資質であろうと考える。高慢にならぬこと。
是非積極的な推進を。
家庭と仕事の両立がうまく行けば問題はないと思う。
男女間の差別をなくして人間平等で活躍して欲しいと思う。
能力ある女性は昇進すべし。
物事に対しての考え方が多様化して良いと思う。
もっと打ち出してはどうだろうか。
女性は出産でどうしても休まなければならない、制度上育児休暇が取れても職場復帰が上手くいかない場合が多いのではないかと感じる。育児休暇の支援だけでなく、職場復帰に重点を置いた支援が必要に思う。
女性は出産や育児があるので男性と同じように働くことは難しいと思っています。出産で1度職場を離れることによってその部署も離れるので復帰後が不安。復帰しても育児があるので男性と同じようには仕事ができない。
そもそもこういう質問をする事が答えではないでしょうか。
働きたいと思っても、保育園がいっぱいであったり、子供が小さすぎてお金がかかってしまうなどの話をよく聞きます。
子どもができる仕事と家庭の両立が想像してた以上に難しい。働く職場も選ばなければならない。
男女平等に評価して、ふさわしい人がリーダーになれば良い。昇進したいのに諦める女性がいるのが問題なのであって、昇進したくない女性もいる。育児に専念したいという考え方も尊重されるべきだと思う。
防災で女性の力が必要と思う。自分ではできないが、賛成している。

「女が家事・育児をするもの」という意識が根付いていて難しいと思う。
根本的に男性が行ってきた仕事と同じことを女性が行わないと同等といえない考え方が間違っていると思う。体の仕組み、脳の仕組みも(心の性別の相異は別として)、物理的に医学的に異なっているのは事実であるから。その違いを認めることから始めるとよいのではないかと考える。
性別に関係なく、個人の能力が正しく評価されることが大切だと思います。
犠牲になるものが増えるイメージがどうしてもある。
女性をより多く社会活動に進出させたいのであれば、各分野でなにが妨げになっているのかを分野ごとに考える必要があるのではないのでしょうか。外で働くこと、会社で管理職になることをまとめて考えるのではなく、細かく分けてそれぞれの問題点を潰す必要があるのではないのでしょうか。
世間が思ってるほど女性はまだまだ仕事で昇進したいとか思っていないと思う。どちらかと言うと仕事に対して責任感が無いと思う。
女性の場合どうしても妊娠出産で仕事から離れざるを得ない期間が出来てしまう。昇進するために結婚や出産を選べない状態が晩婚化や少子化に繋がっているかと。休み期間の取得を容易にし、復職に関わる期間のフォロー体制、または自宅で出来る在宅勤務等の体制の整備を各事業所に普及できるようにしていただけると今より良くなるのでは…。全体的な意識改革は、もっと大人も子供も講習や広告で拡散していくべきだと思う。
男女平等で、とても良いと思います。子ども園の充実など社会として変わってきている部分はあると感じます。参観日などの園や学校の行事、体調での呼び出し等、対応が父親側にしても母親側にしても勤め先が柔軟だと良いのでしょうか。ただ、今の社会において、子どもの事を優先にすると、管理職以上の地位も難しいものがあるのではないのでしょうか？理解のある職場が増えていくと良いですね。
必ず“女性”と意識して昇進させるのではなく、本当に能力のある人を昇進させるべきで、女性をと躍起になって役職に就かせるとすること自体が平等ではないと思います。
このような問題を掲げる事がおかしい社会ですね。
知人のお母さんは子育て中、中学入試の子どもの勉強を見、赤ちゃんを育て、仕事に行き、睡眠時間1~2時間だそうです。こんな方々にヘルパーやシッターの支援がないものかと思います。
いつまでも悪しき習慣が残っているので、まだまだ期待できない。
社会全体が男女の区別なしに、人として仕事能力を評価するのがあたり前になるといいです。そうすれば古い観念はとり払われ女性も活躍してあたり前になるはずです。
長期間(10代~ 70代、80代、90代~)活躍を推進する。しなければいけないのはしんどいと思います。
年金制度の見直し。夫の扶養の範囲内、3号被保険者制度が女性の働くモチベーションを下げ、女性の労働するより家庭で子育てに従事せざるを得ない状況をつくっている。体力、資質からいって(事務、保育士、介護士、調理)など女性が就きやすい職種の賃金の低さも女性蔑視を感じる。とにかくモチベーションが上がらない。
男性以上に周りの理解・サポートが必要になる
上の考え方をかえないと無理ではないか。
能力や卓越したセンスを持った女性が活躍し、昇進していける組織の雰囲気的大事。
能力のある人には活躍の場があっている。
独身の頃の普通の生活、仕事、家事、趣味に妊娠、出産、看病、介護が加わって体調を崩して仕事を続けることが難しくなった経験があります。今考えても誰かに代わってもらえるものではありません。体力を削られて、自分が3人いれば…とっていました。活躍…したいですね。
その人の能力だけで達成できるものではないような…。周囲の理解、家族の理解、協力など、サポートあつての成立。サポートが少なくがんばっている方は、無理されているのかも。1番はその人らしく才能を男女問わず発揮できれば良い。
女性は社交的な面で多くのコミュニケーションを持ち、多くの情報や知識、知恵を持っているので、その点をうまく生かせる地位に多くの女性が立って欲しいと思います。
まわりのサポート、理解が望ましい。
少しずつではあるが推進されていると思うが、都市部と地方では差があると思う。
女性の総合職の従事が少ない傾向みたいなので、企業がどう育てていけば良いか、企業との接点が必要ではないか。
不平等(職場での待遇、家庭での役割の両方)を無くす事が不可欠だと思う。
もっと女性の意見を取り入れてほしいというよりも、男女関係なくその会社の中で興味を持つ仕事場への割り振りをすると、それぞれの才能が発揮出来、仕事に意欲が持てると思います。.

能力のある女性はたくさんいます。社会でも家庭でも女性への理解がもっと出来れば活躍できる女性は増えるはず と思います。
職場、家庭内の協力がが必要です。
男の方の意識改革が大事と思います。
女性が家庭を持つと仕事とのバランスが難しくなるとされる。政治が女性の働きやすい環境を提供することが大切 だ。保育所、老人介護所の充実。どの世代の人にもまわりを気にせずフランクに付き合える物の言える場所を市内あち こちに無料で設置し、交流出来る雰囲気作りが女性の自由度を押し上げてくれる気がします。
少子化対策の観点からも子育てと仕事の両立ができる環境を。

(3)ハラスメントについて ※問19

ハラスメントの具体的事例がほしい。
優しくすればいいと思うのは間違っている。逆にやさしくされるとこわい。
男性優位な環境だから起きてしまうと思う。
ハラスメントの意識がネジ曲がってしまっているのか、自分自身に都合の良い解釈をしている人が稀にいらっしゃいます。
部下や後輩を指導する立場からするとコミュニケーションに対してのハラスメントは扱いが難しいところがある。
なくなってもらいたいけど、現状はなくなっていないので、どんどん悩みを相談できる所が出来てほしい。
考え方の相違と考えるようにしていた。
企業は相談窓口を作っているけど、ちゃんと機能してない所が多い。
なくなしてほしい。ひとを傷つけることを何とも思っていないのか？されたり、言われた方は一生心に傷をせおうことになる。どうしたらなくなるか教えてほしい。したほうからあやまってほしいし、お互いが許しあうことが大事だと思う。
まあ…ガマンするしか…。
ハラスメントをなくすということは嫌な人をなくするということと等しいので無理だと思います。
ハラスメントは認定や判断が難しい場合がある。ただ、いまだかなり古い考え方が多いのも現実な感じがします。
冗談が冗談でなくなり息苦しい感じ。
加害者側は一生認識しないままなので困りますね。小学校から授業に入れるなどの工夫と、第三者からの告発の仕組みが欲しいですね
自分は受けた経験はないが世間の中では受けている人も居ると思うが、難しい。問題だと思う。
指導とハラスメントの境界が難しいです。
年上だろうと年下だろうと「さん」付けで呼ぶようにする。人間は平等であることを、言葉から始める必要がある。
やるべきではない。
人間として絶対に行ってはいけない。
男女平等で考えた事がない。
年齢的にハラスメントと感じなかっただけかもしれない。理不尽な事は経験しているがハラスメントとは感じなかった。
相手がハラスメントと思ったらそうなるので対応が難しい。消極的な接し方になっていく。
仕事が生んどくなる。
ハラスメントは決してあってはならない。
ハラスメントする側がそれを意識していない事が一番の問題であろう。
個人差もあるかと思いますが神経質にならない様に考えます。
この問題はきわめて微妙。ハラスメントが指導の一環なのか、本人の受け取り方次第で変ずる。
お互いに認め合うことにより衝突を避けられると考える。
ハラスメントの認定の難しさを感じることもある。
人に言ったら後でその人とあった時また思い出すので、いつか忘れてしまうまでガマンする。
上司が自分の利益になる人間だけを引っ張り上げる(好きなものだけ)。
仕事優先の職場であったため(上司の考えが)。
時代の変化についていけないので気を付ける様になっている。
ノルマの強制。
どこまでがハラスメントかがわからないのでジョークも考えないと危ない。
理解していない管理者及び関係者がまだ居られる。
誰がハラスメントと判断するか難しい。
相手の人格を尊重することや自分の言葉や行動を相手の身になって考える事が大事だと思う。
管理職クラス以上にハラスメント研修の義務化をすればいいのでは。またその時に労働基準法についてもしてほしい。
妊娠を報告すると解雇されました。子供がほしいと思う女性が少なくなっていると思います。
ずっと会社にいる人の中で、そもそもその言葉を知らないのでは無いだろうか？という方が一定数いらっしゃいます。
日頃の研修にも効果はあると思う。
ハラスメントは受け手の受け取り方で変わってくるため、難しい問題だと思う。
受けても言い出せない状況が多いと思う。

今の職では全く受けていませんが 結婚前、他地域で社員だった時、セクハラを受けていました。いろんなところに相談したけど結局クビになって心を病み、精神科に長期入院。まだまだ救いがないと思いました。
パワハラだ、セクハラだと訴えることで相手を苦しめる逆ハラもある。何もかもがハラスメントとなる時代で生きるのは大変だと思う。
会社のトップがハラスメントしたら(するような人なら)もう何もできない。辞めるしかないと思う。
社会生活の中で起こりうる事なので、我慢せずに相談できる環境をもっと作るべきだと思う。
ハラスメントはやっている人の考えが変わらない限りなくならないと思います。
何でもハラスメントにする傾向の世の中が心配。仕事をする以上、組織や上司に従うことは求められる。子どもの頃から親や教師、大人の言うことを聞くという姿勢が育てられていなければ、上司からの指導もハラスメント扱いされてしまいそう。
その人がハラスメントと思えばそうなる。
男性上司に妊娠中「まさか3人目ができるとは思わなかった。」と言われたことがあります。また別の男性上司に妊娠中、台風の中、私の休憩時間中に自宅の買い物をしてくるよう頼まれたことがあります。どちらの上司も子供がいる父親でした。男性は女性を家政婦のように思っているのか！自分も父親でありながらよく心ない言葉が言えたな。と今でも腹がたちます。
何故ハラスメントを受けるかその原因も様々だと思うので何とも言えない。
パワハラ、駄目ですよ。わかってます。だから、上司は大変です。上司は自己犠牲。声かけや注意喚起、指示の出し方1つ1つに気を遣います。
する側に自覚がないからしている場合と意識的にしている場合があるが、どちらもされる側にとってはきつい。第三者機関による調査等の介入がもっと可能であればもう少し改善可能では？
あからさまなハラスメントは許せない！ですが。逆に上司という立場になった人もたくさん気を遣わないといけなくなってきたらと思うのだとも感じます。
どこの職場でも嫌がらせやイジメをする人はいるので、周りがそれを見て無関心でないような環境を作ることが大切だと思います。
今の時代、何に対しても「ハラスメント」になってしまい大変だと思います。相手の取り方次第です。
職場で少し注意したい時(例:他の方に迷惑だから声小さくして…など)にも誰もはっきり言わなくなりました。怒られて伸びていった分もあると思うのですが…。
業務命令だからと仕事を増やされる。パソコンが得意ではないのにさせられる。日勤帯は日勤の仕事を一職員としてこなし、時間外や家に持ち帰り、自分仕事をしている。休みも殆ど持ち帰った仕事をしており休みではない。他の上司は日勤帯で行っている。
職場でハラスメントの研修あっても上司のパワハラを注意する人がいない。
ハラスメントを完全に無くす事は難しい。やっている本人が気付いていない。周りも麻痺してくる。
受けとる側がどう受けとるかがハラスメントと理解しています。相手がどう受けとるかと常に考えて発言することを要求されます。それが面倒になるとコミュニケーション不足となります。とても難しいです。
平成初期は当時セクハラという言葉を知らない時代には上司に触られたりした事はあったが、平成後期～令和になってからは会社もパワハラセクハラ教育もあり、相談窓口もあり、意識が変わった事を実感する。
人に対してハラスメントは絶対にやってはいけない行いだと思う。受けた人は、一生傷に残る。
今の多様な考え方に触れたことのない人に、何らかの働きかけが必要だと思う。知らなければできない。
ハラスメントの言葉も知らない時代は我慢のみ。昨今の飛び交う様々なハラスメント、過剰な反応とさえ感じる時もある。
ハラスメントというほどの受け止め方はないが、飲み会の場で近くに座ろうとする上司を避けるため、同僚の協力してもらったことが一度ある。仲の良い人との飲み会は賛成だが、職場などの飲み会参加を求めるのは不必要。トラブルの温床ではないかと思う。
受けた事がないが、ある方には大きな問題だと思う。
パワハラ自分の地位を利用しての圧力をかけてくる。相手の自覚がない事が多いように感じる。管理者の認識が上がることを期待したい。
男が速いとか強いとかの意識が根強く残っている。
非常に難しい問題だと思いますが少しずつ減っているのではないかと思う。受ける側ばかりが守られるのではなく、正しい判断が行われる事を期待します。
パワハラがイヤになって仕事をやめました。

受けた方が相談しても、後々職場での立場がつかなくなる率が高くなるのでは。そこをどう解決した方が良いか、考える必要が大ではないか。
ハラスメントかどうかの線引きが難しい気がする。
本人が自覚(気付かない、無意識)が無い人が多い。
相手によって線引きがことなるので難しい。
言葉の暴言はあると思う。
永遠にハラスメントはなくなるのじゃないでしょうか。残念です。
職場の経営者優先であり、どんな職場でも公的(労務者に対して)人としての扱い方を定期指導すべき。
今は声をあげられるが、昔は出来なかった。日常茶飯事だった。

(4)ワーク・ライフ・バランスについて ※問21

家庭を支えるには金が大切だから仕事を優先する。
自分の力量がない。
祖母がいます。うちから1時間強かかる所に住んでいます。そういう事をしている20代の事もわかってほしい。親より祖母の方が気になります。
実際、一般企業がどのような勤務形態をとっているのか、データや資料だけでなく実情を見てほしい。
コロナで経費削減で人員が欲しいのに入って来ないから、仕事に費やす時間が増やされる現実が嫌です。
できる限り仕事から家庭生活にシフトする形でのキャリア形成ができる仕事がないか探している。
子どもが小さいので、出張など泊まりがけの仕事は断っている。残業などもできる限り断っている。
子供が小さいうちは、家事・育児に多大な時間を使うので、フルタイムで仕事をしている場合、それ以外ほとんど無理。
単身赴任のため、仕事が優先となる。
家庭生活を優先することに遠慮する気持ちがあるため。
仕事は簡単に休めないなので、どうしても仕事優先になってしまう。
仕事の圧が強い。
仕事・家庭生活を優先したいが、賃金が低い為、副業をしないと生活出来ない。
母子家庭や父子家庭が多い中で、両親が揃っている家庭では様々な場面で協力を求められる。男女関の差に留まらない社会的問題が根本的にまず優先解決された上でバランスがとれると素晴らしいですね。
宮崎は全体的に考え方がまだまだ古い。しかし、収入面で不利なのも事実なので、ここの折り合いをつけれるようにするのが先。
単身赴任なので、どうしても仕事中心になってしまう。
仕事のポジションから仕事優先となってしまうかな。家庭生活も円満だとは思っている。
仕事については残業しないと量をハケない現実があり、全体的にはバランスがとれきれていない状況がある。
仕事を優先しないと給与収入が減る。仕事を優先しないと仕事でのストレスが増える＞個人の生活のレベルが下がる。
自分がしたいことをしている。
仕事を優先しないと収入が途切れれます。
収入が増えても税金が高過ぎ、物価上昇で仕事を優先せざるを得ない。税金を下げるか、週休三日制を導入すべき。
家庭生活を守る為に仕事があるので。最優先は仕事であるという考え方がしみついている。他者へは求めないが。
無職で地域との関係もなく個人生活を優先するしかない。
家計収入確保の主体がある為。
ワークライフバランスは頭では理解しているが、どうしても仕事を最優先としてしまう。
自分中心でなく、友人隣人に対する思いやりを大切にして生活することで融和が図れて、他人を大事にする気持ちが強まっていくのではないのでしょうか。そのように生きていきたいです。
会社における競争原理に呑みこまれて勝ち負けでしか物事を判断しないそういった世界から独立した家庭は勤め人のオアシスのような存在であり、大事な空間。どちらも大事。分かっているが仕事に一旦入るとそのメカニズムに圧倒されてしまう。仕事の仕組みを変えることも必要。
仕事と家庭生活に追われて、個人の生活(プライベート)を充実できていない。
今は仕事と家庭生活をともに優先していると思います。希望は「家庭生活」を優先したいです。土・日休みですが、祝日の休みもほしい。その休みさえあれば、「家庭生活」を優先しているの枠に入りたいと思います。
業務時間が8時間以上で週5となると仕事が多いため、個人の自己啓発に充てることは厳しい。疲弊しているため、自主的に活動できるほどの余裕がない。短時間勤務制度で人を増やして効率的な業務を遂行することで個人の仕事の質が上がるのではないかと思います。量ではなく質を重視していくことが仕事と家庭生活の両立に繋がると思う。
家庭を持ちたいが交際相手おらず、結局仕事漬けの日々になっている。
子供が小さく仕事や個人の生活に時間をかけられない。夫の仕事は不定休で働く時間も長かったり、出張で家に帰らなかつたりなので私が主になって家庭を見ないといけないため。
家庭生活を優先したいが母子家庭の為、自分の収入しかないなので、全て一人でこなす必要があるため、仕事も家庭も同じ位優先せざるを得ない。

仕事の面接に行っても子供が病氣した時はどうされますか？休まれると会社側は困ると言われ、やりたい仕事があってもあきらめてきました。子供がいる女性が働くという事に対して理解のある企業がとても少ないです。
家庭を優先すると仕事の時間や日数、休みの取りやすさで仕事を選ばなければならない。自分のしたい仕事は選べない。
仕事が忙しく他のことに充てる時間がない。
仕事を頑張りたいが、保育園の迎えの時間に間に合うため仕事を切り上げる必要がある。仕事も家庭も大事にしたいが、なかなかうまくいかない。
私生活を充実したものにするためには仕事も必要だから。
子育て、家事、介護が中心の生活ですが、自分の精神バランスを保つためにも、少しでも仕事をしたいと思っています。会社に勤めているときは、ワークライフバランスを保つのは至難の業でしたが、辞めてからは、仕事の比重が軽いため、どうにか保っています。
持病があり、今の生活で前より良いと思う。ですが、持病のため、人との関係は制限される。他の社会的に弱い立場の人はできない人が多いと思う。
コロナで人づきあいが減ったので自分の時間が増えた。うれしい。
個人個人で上手にできる人でないと無理。行政だけに頼るのも間違っているし、人が育っていないと、とても難しいと思う。
常勤フルタイムだと、残業もあり休日出勤もありとなるとそれ以外で使える時間に必然的に少なくなる。テレワークの普及等、働き方も多様になることを望んでいる。
子どもとの時間を優先することに決め、それまでのキャリアは出産の時に完全に退職した。
仕事柄サービス残業あたりまえ、年休は勝手に使われる。自由に取れない。20年以上そういう状況で働いてきたから。子育てはある程度理解されるようになってきたが、親の介護に対しては理解が追いついていない。自分を犠牲にして介護しなきゃいけない。
家庭生活を優先させたくても、仕事をしなければ家庭生活を保つ財源が得られない。財源として給与を得るためにはある程度仕事を優先せねばならないときもある。
自分は独身だから自由が多い。自分でコントロールしやすい。
子供が病氣や怪我をした場合、どうしても母親の方が仕事を休んだり早退したりしなければならない。もっと夫の職場でも融通がきけばいいと思う。例えば有給をいつでも使えたり、休んでも嫌な雰囲気にならないようにしてほしい。
パート勤務なので、まあまあバランスがとれていると思うが、あくまでも配偶者の協力があることだと思う。パート勤務だが、仕事を休みにくい、残業が多い状況にあり、配偶者の協力がなければ、今の仕事はできないと思う。
上司や職場の同僚は、独身者は仕事優先で長時間労働するのが当たり前と思っている風潮があり、私的な都合で定時退勤したり休んだりのはしづらい。
私は片親なので、仕事と家庭生活を絶対両立させる必要があるけど、現状はどちらかを優先するとどちらかがおざなりになってしまう。子供たちにも負担をかけてしまってる。地域にももう少し関わりを持ちたいが、時間が足りない。一人で育児をする環境は、社会的にはまだまだ足りていないと思う。
仕事を優先しているのは希望ではなくて責任があるから。何でも手に入れようとするからバランスが壊れる。
障害、病氣の子の親であるため、遠くにある支援学校への朝の送りや体調を崩した時の対応。月に数回のリハビリなどのために社会でしっかりと働きたくても働けない現実があります。
時間が足りない。
家庭での妻、母の役割が多すぎる。仕事との両立に苦慮している。親の介護も結局は女性に負担がくる。
今は両親の介護が大変で、仕事をする時間を確保できません。
働きたい人が十分に働いてもよいのではないのでしょうか。仕事が好きな人に仕事を少なくしろというのは間違いです。休みが多ければ幸福という考え方をやめて下さい。
行政やマスコミの言葉は明瞭だけど意味はとらえにくいとつくづく思います。「それを聞いたところでどうできるの？」とも思います。
家庭生活を優先すると正社員で長時間勤務や残業、責任の重い仕事は精神的にきつくなるので、短時間のパートしか出来ないため、収入はかなり少ないが仕方のない状況です。
私は仕事と家庭のバランスを保つ為、がんばりすぎ身心つかれ病氣を発症。産業医のドクターストップで退職しました。現在は家庭生活と病氣の寛解に向けての治療のみの生活の為、バランスが偏っています。
年齢、職業、家庭環境、健康状態、経済的なものささまざまなことがあると思う。一概には解決するものではない。

今は子供が成人したので仕事優先ですが、子供が成人するまでは母業が最優先でした。優先度は年齢により変化すると思います。
仕事もしっかりやりたいが家事負担が10:0なので、家庭生活の時間が必要。50代のためなかなか理解してもらうのが難しい。
仕事のことが家に帰っても頭から離れず切り替えが難しい。個人的な問題か…。
家族と家庭生活を優先したいと思うが、経済的な問題で仕事を学校関係をPTAの仕事を優先せざるをえない。
仕事の時間的拘束により、平日は時間がとれない。
パートナーの働き方が、自分に影響する。ずいぶん変わってきたが、家に全くいない人だったので、自分がやるしかなかった。バランスどころの話ではない。
実際の体験ですが、会社を説得して休暇と家事をするために4日連休を取らせてもらいました。言わなければ連休はとれません。リフレッシュ休暇も取れる状況ではありませんでした。
ライフスタイルに合わせて仕事をしている。ストレスを最小限にすることが今の自分に合った生活である。
「ワークライフバランス」という言葉を本当に理解している人がどれ程いるのでしょうか。最近良く聞くけれども企業(事業主)がどの程度、本人の意志を理解するのが課題ではないのでしょうか。希望言っただけじゃあ諦めてでは悲しすぎる。
裕福だから、仕事上偉いからでは幸せではないと感じます。やはり、家庭が一番で、安らげて、癒されて、ホッとできる場所、明日も頑張ろうという気持ちにさせてくれる場所を大切にしたいです。勿論きれいな事ばかりではすまされないのである程度の収入・仕事、働く事も大切だと思います。(心身共に健康であれば)
基本は家庭生活を優先したいと思っていたが、子供たちの学費などでパート勤めを始めた。その後成長し、時間にも余裕が出てきたので、自分の興味のあることをやっている。
仕事優先していると地域活動が負担になる。
仕事を優先しないと収入も安定しないし家庭も不安定になる。特に宮崎は低賃金。
様々な形の家庭があるわけだから、家族間のコミュニケーションが一番大切。納得できる形を探しながら、互いの信頼関係を築けるかどうかで解決できることは多いと思う。
責任ある立場にいる為、仕方がないと思っています。
割と最近言われた気がする。言葉の意味はわかるけど、自分に当てはめると、よく分からないというのが現実。
雇用されている立場上言えない事が多いのが現状。自分らしく生活できる職場、環境を高める。雇用している側への公的指導を強く要望する。
時間厳守の気持ちの強い日本人はバランスがなかなか難しいのでは。
時間に余裕がない。体力がない。
そこに住んでいるかぎり、その地域での自治体の活動はしなければならぬ。自治会の役員もその年だけ我慢すればいいこと。お互い様。輪番制なので。
正社員として仕事に従事するとそこだけの時間の制約を受けると思う。一番輝く人生を楽しめる時を仕事だけに費やすのは人としてもったいない。家庭も地域も個人もしっかりかかわりを持てる時に持ち色々な経験、体験がその人を豊かにし、日本社会を豊かにしていくと感じる。それを実現出来てこそ成熟した社会の姿だと考える。

(5)新型コロナウイルスの影響について ※問23

特別休暇等のサービスが充実してる。
給料が減って転職したけど、そこでうつになって元の職場に戻った。
マスク、手洗い、うがい消毒徹底。公園のトイレに消毒液、せっけん設置。
濃厚接触者や感染者が社内で確認された際に、一部差別的な扱いをする人が居たのが悲しかった。
これからはウィズコロナの精神で付き合う世の中になってほしいです。
学校が休校、学級閉鎖等になることにより、親の負担が増えた。
宮崎は他の県に比べて情報が乏しい。
テレワークでも 意外と業務に支障が出ないことがわかり より家庭生活との両立を図りやすくなった。
子供たちが協力・理解・判断する事が増え、我慢強くなった。男女関係なく互いを心配し思いやりの場面が増えたように思う。職場でも家庭でも単純に会話が減った…。
いままでの常識を見直すいい機会になったと思う。
業務は通常通り行いつつ、コロナ対策での業務負担が増加した。
感染対策の結果、家庭内への意識が強くなった。個人よりも家庭を優先するようになった。
リサイクル系の仕事で土曜日が残材が入らなくなった月があって困りました。
ひとり暮らしの方の話し相手が増えた。
行政もうわさに流されなくてももらいたい。
仕事がmax時より2割になった。
遠くに行くのが怖い。
社会活動に規制が多すぎるのでは？活動が制限され過ぎる。
行動範囲が狭くなった。
全く旅行に行けなくなった。楽しみが減った。
他の地域への移動が出来ず入手情報が極端に減った。
福祉職なのでいろいろと制限があった。
収入と仕事が減り、生活面がかなり苦しく感じます。
個人生活、仕事に使う「時間」はほぼ変わらないが、時間の「使い方」はコロナで変わった。家の中で過ごす事が増え、他人と接する機会が減ってしまった。
子供の卒業式、入学式、参観日など行事に親1人のみでの参加しかできなかった。
最初に非正規雇用の女性が影響を受けるのだと知りました。
医療関係の仕事のため、仕事内容も大変になったこともありますし、私生活にも会食制限などで友人と気軽に会えなくなったり、県外に出れなくなったりと影響が出てしまいました。
経済的にも厳しいですが、精神的にも落ちてしまうほど、社会への関わりの制限が大きいと感じています。
重度障害の母の介護(入院中)の事を外に常に出て、家事や基本的な掃除等知らない父を見て、県外の弟がいて今は協力があるが、男性も家の事はある程度覚えるべきと思った。
イベントや人付き合いが減り、孤独感が増している人が多いと思う反面、面倒な集まり等がなくなり楽になった点もある。
コロナで私は仕事が減り、収入が減ってしまったが、ありがたいことに夫がテレワークだったので生活できるだけの収入はあったし、急に学校が休みになったりしても対応できた。男が女がとこだわりはないが、共働きでよかったなと思った。
在宅勤務になり、子供と接する時間が増え私は良かったと思う。
家に夫がいる様になり、子どもの話を2人ですることが増えた。時間的な余裕ができた。子どもの帰宅や登校時にいるため夜勤の負担が減った。
仕事以外友人など人との関わりが減った。
正社員ではない夫はコロナで休んだら給料がでない。すごく困ります。
夫が在宅ワークになり、育児・家事に関わる時間が増えた。
出張や地域の集まりがなくなったため、人との繋がりが乏しくなった。しかし、飲み会が減り、家庭や体には良い点が多かった。
感染予防の為、地域や保護者の活動への参加を極力控えた。
教育現場関係者だが、オンラインとオフラインどちらも準備となるとさらに多忙となる。

何でもコロナのせいにははいけないと思いますが、確実に職種限られてきて就職しづらいです。
職場で個人の行動を抑え込むような発言があった。男女共同参画の原点は人権と思っている。人権侵害を多く感じた。
コロナ禍で周囲も私自身も収入が減り、ストレス解消の場も減り、皆の心余裕なく、イラだちが増えたように思います。トラブルもおこりやすいです。職場の人や友人たちとも以前より慎重に言葉を選び、自分自身も感情のコントロールに気をつけています。
子供が濃厚接触者になると登校停止なので母も出勤できない家庭がほとんどです。片親だと収入がなくなり苦労した方を多く知っています。
コロナ禍で男性が家に居る時間は増えたが、女性の家事の時間は減っていないと思う。むしろ増えている感じがする。
コロナの影響で家庭生活や仕事などに支障があり、ストレスがたまる生活が今も続いている。
学校の行事、保護者の集まるイベントが中止となり、情報提供や交流が大変減った。運動会も3年。
周りの人との関わりを減らすことになったと思う。今後似たようなことが起きたとき、どうすべきかを考えておく必要と後世に伝える必要を感じる。
当時、県外に住んでおり、自宅のある宮崎との往來を可能にする為、介護の就職が不可能であった。
感染症には男女、老若の関係性は無いだろう。
年金生活が苦しい。働きたいが仕事がないだろう。現在65才。
今年の秋で3年も孫の顔を見に行けていません。熊本ですが…。私達みたいにながまんしている人は沢山いると思います。早くおさまってほしいです。
労働時間が減ったので自宅にいる時間が増えたので体調がおかしくなった。
外食ができない。
コロナ禍の女性の自殺者の急増にはショックを受けた。今の日本社会の構造を如実に語っているのではないかな。
外部との接触を避け、家の中で家族だけの時間が長くなった。
個人的に自由が奪われた。
お年寄りの見守り(見廻り)をやっているがコロナ禍で訪問することが出来ず、軽度の認知症が入っている人たちの生活が心配だった。
10年前に熊本からみに転居してきてのですがコロナでなかなか熊本に帰れなく友人達や姉に会えない事が残念です。
行けてません。
小学校へ週1回よみ聞かせに仲間と行っていたが中止となり残念でならない。体験出来なかった生徒さん達がかわいそうだしそれを心から楽しみ生きがい大切な子供達との交流として積み重ねてきたのにそれだけが心のこりだ。1日も早く再開させて頂きたい。ハーモニカの仲間とフラダンス(私)で老人ホームボランティアも中止。それも再開を望みます。

(6)多様な性を尊重する社会づくりについて ※問29

アンケートに答える人って、少ないと思う。もつとちがう方向で行政は考えないと。この今は変わらない。
実際のLGBTの人々の意見を聞きどうすれば偏見が減るかを実践すればいいと思う。
受け入れられる社会が作られるかは重要ではなく排斥されない社会こそが重要かと存じます。受け入れられる事よりも除け者にしない事。そちらが成されるだけで、皆平穩に過ごせるのではないのでしょうか。
色々な方が楽しく生きられる世の中になってほしいです。法の整備を根本的にしてほしい。
以前に比べては性的少数者への理解は進んでいるとは思いますが。カミングアウトする有名人とかも見る事が多くなった気がします。性的少数者を差別する意識は自分にはないです。
マイノリティをマジョリティに無理に引き上げようとするのではなくて、マイノリティをマイノリティのまま尊重して社会に溶け込ませるべき。
正直、分からないことが多いです。
性別欄に「男女」以外の項目を設ける。求人情報から性別の要件を廃止。「くん」「ちゃん」など呼び方を止め、「さん」で呼ぶようにする。
条例より法律の整備の方が効果的ではないのか。高校の制服について男女区分ではなく自由選択できるとの新聞記事があったが、今後、社会(企業等)でも推進できるような環境の整備が必要。
多様な性は認知されつつあると感じるが。明るい感じの取り組みを希望する。
LGBTQの方々は自分自身の努力によって変えられるものではない。この人達が安心して明るく暮らせる社会であって欲しい。
しっかりとした性教育で、望まない妊娠を防ぎつつ、「らしさ」という言葉に縛られない生き方をできる社会が出来ればいいと思う。
受け入れる側にも配慮が必要なので、行政側が制度を整えるべきだと思います。
子供から年配の方まで多様な性を理解できる社会づくりが必要だと思う。
性別に限らず、すべての差別がなくなると良いです。
多くの人に理解してもらうために啓発活動を行うとして、講座や講演会は行かないと話を聞いてもらえないため、テレビやモールとか商業施設の中など自然と人の目に入るところで情報を発信していくほうがよいと思います。
そうは言っても、接し方や、少しの言動で傷つけてしまうのではと思うし、認めたいけど誰しも心の中に差別に値する心がひそんでいると思った。でも尊重したい。
あたり前の事として多くの人に理解させる事。特別ではないとの認識を深められる様な社会づくりが大切。
多様な性を尊重するではなく、今の日本には自分以外の全ての他者を尊重する社会づくりが必要だと思います。
相手が男性でも女性でも人を愛することに変わりはないと思います。小さい頃から学校でも、そのような考え方もっと子供たちに伝えてほしいと思います。
性別だけではなく、今の時代は全ての面において多種多様な人の集まりだと思う。いちいち条例とかにするのではなく、個々の意識を変えていければいいと思う。年配の人はそういう環境を受け入れるのに時間がかかると思うので、そういう人達を対象に理解して貰える対策を立ててほしい。
ニュースになったり、LGBTの日などが設けられたりして、段々と社会が変わっていている様には思っています。
基本的人権を学んでお互いを認めあえるようになることがいいと思う。
問28選択肢1の教育の場で子どもの頃から知ることができれば社会全体が色々な人がいるというのがあたり前になります。大人になって気づくのはなかなか難しい気がします。
多様性があたり前の社会になってほしい。
どちらにしても人に対する思いやりが必要ですね。
個々の認識を変えるところからは始める必要があり、なかなか大変。「人間」というくくりで考えられれば良いのだけど。
理解を深める。
身近なところで悩んでいる人に会ったことがない為。
多種多様にあらゆるところで理解してもらえ様な環境づくり。
宮崎市パートナーシップ宣誓制度を知りませんでした。どの程度市民に浸透しているのでしょうか。
身近に実際のところないし 普通に生活しているのでよくわからない。
性的少数者のついで知識が少ないことが偏見を生む要因ではないかと思う。人間は皆同じではないこと、色々な人が存在することを医学的科学的見地を踏まえて広く学べる機会を作ることが多様な性を尊重する社会の第1歩ではないか考える。
兎に角、相手を尊重する事。

教育現場で多様な性の問題を抱えた学生とその親達との間で教員として苦心していた十数年前の夫の状況を思い出すと、社会が凄く速く成長していると感じる。

男＋女が正しいと思いがち、人間＋人間がと思います。

自分の近くに性的少数者がいないので、良くわからないと言うのが本音です。問28の①をもっと進めていくべきかな？と思っています。

種々の場面でも女性蔑視する言葉や対応、言動があっても社会はそれを否定しない。それらを排除する強い行政の力が必要だと考える。日本特有の男は〇〇、女は〇〇の考えが強すぎる。

(7) 配偶者などからの暴力(DV)について ※問38

引き離そうとすると余計酷くなると思うので、法律で守ってやれる制度を設けるべき(性暴力にたいしても)。
暴力的になるのはやめてほしい。
20年前は女性から男性へのDVについての認識が世間的にもなかったから、どうしていいかわからなかった。
口喧嘩とDVの違い？
DV(あらゆる)に対する法律上の罰則、規制を強化すべき。
多少の暴力があるのがいいのか、全くないのがいいのか、私には最後までわからなかった(75才まで)。
暴力に対して抵抗が少ないのも、暴力を受けても我慢して依存してしまうのも、育った家庭環境の影響はとても大きいと思います。なので、これらの問題の解決・改善には、機能不全家族という家庭環境問題についても深く考え、対策を打つことが必要不可欠だと思います。
最初は相手が変わってくれるかも、さびしさもあり断念したが世間体もあった。でも相手も病気なので怖いので、必ず家族やそれ以外の強い存在に相談と早い強い決断が大事。長くなればなるほど気持ちが支配されていく気がする。
気軽にに行ける相談窓口を多く設けると良いと思う。
DVとはいえ大問題。困っている方々のために行政など窓口になる所がもっと利用できるように相談しやすい体制を整えてほしいです。一歩まちがえたら“死”にいたるケースもあるので。
夫婦ゲンカをよくするので、DVとケンカの境目がよく分からない。DVを受けた、まさにその時に逃げこめる施設の有無がわからない。あるのなら、利用のしかたをもっと周知するべき。配偶者と少し(物理的に)キヨリをとりたくても、行くあてがなく、結局、家に戻るしかない。
公的機関で加害者プログラムを実施して欲しい。
自分でなく、お腹の中の子供の命のことを少し考えるときがあった。
DVをする方も、私のようにDVをされた方も当時はなぜ、そうなるのかわからなかったです。パニック障害になり子育てに支障がおきて、周囲に助けられました。私自身が“支配され、支配する”という形の生き方をしていたのを後で気づきました。自分も他人も大切にする生き方をその時知りました。
本当に大変な人には安心できる逃げ場が必要。絶対的に守ってくれる制度が必要。
あまり意識したことがなかった。このアンケートで考えた。
封印した。
アルコールがはいった時とか。嫉妬もあります。
一時の感情のあらわれだと思った。
頭と身体などたたかれた。
ガマンする心を養ってほしい。

(8) 交際中の2人の間に起こる暴力(デートDV)について ※問46

パワーハラスメントといっしょでする人はするのかなと思います。そういう人を減らす環境整備、法律、意識改革など等、すぐには改善策は思いつかないですが、減ってほしい、なくなってほしい想いはみんなもっていると思います。
話が対立すると男女同じで暴力が出ることもある。
相手は利用しようと最初から考えてくると最近になってわかってきたので。
何故「デートDV」という呼称になったのかな、調べたけど分からなかった。
がんばって、すぐに警察に電話してほしいです。
友人との繋がりを深くしたり、身近な家族がちょっとした変化を見つけて声を掛けたり話を聞く環境を作ることが大切だと思います。

IV 調査票

令和4年度 宮崎市男女共同参画に関する市民意識調査のお願い

本調査については、市内にお住まいの18歳以上の方から無作為に抽出させていただいた市民の皆様をお願いしております。

日頃から、宮崎市政にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

宮崎市では、「宮崎市男女共同参画社会づくり推進条例」（平成18年1月1日施行）、および「第2次宮崎市男女共同参画基本計画（改訂版）」（平成31年度～令和5年度）に基づいて、男女共同参画社会づくりを進めております。

今回の調査は、令和5年度に「第3次宮崎市男女共同参画基本計画」を策定するにあたり、市民の皆様の男女共同参画に関するお考えや生活の実情などを把握し、計画の見直しに向けた基礎データの収集と分析を行うために実施するものです。

ご回答いただいた内容は、上記以外の目的には使用いたしません。また、無記名でご回答いただくため、回答者個人が特定されることもございませんので、率直なご意見をお聞かせください。調査結果は冊子にまとめるとともに、市ホームページで公表し、計画の策定に活用してまいります。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和4年6月
宮崎市長 清山 知憲

【返信にあたってのお願い】

アンケートの記入がお済みになりましたら、お手数ですが、記入漏れがないかご確認のうえ、同封の返信用封筒（切手不要）に本調査票を入れて、ご提出ください。

封筒に氏名は記入せずに投函してください。

【インターネットでの回答】

本調査は、インターネットからも回答できます。スマートフォンで右の

QRコードからアクセスし、アンケートフォームに回答を入力してください。

※回答は、郵送またはインターネットいずれか一方のみでお願いいたします。



QRコード

回答期限は、郵送・インターネットともに**令和4年7月19日（火）**まで。



©宮崎市

【本アンケートに関するお問合せ先】

宮崎市地域振興部 文化・市民活動課 市民活動・男女共同参画係

電話：0985-21-1835

【ご記入にあたってのお願い】

- 1 調査票は、封筒の宛名の方ご本人がご回答ください。
本人による回答が困難な場合は、ご本人の意向を確認のうえ、家族や代理の方が記入してください。
- 2 回答には、選択肢の番号に○を付けてお選びいただくものと、自由に記述いただくものがあります。なお、「その他」に該当する場合（ ）内には具体的な内容をご記入ください。
- 3 ○を付ける場合は、（○は1つ）、（○はいくつでも）等の設問ごとの案内に従ってお付けください。
- 4 設問によっては、一部の方だけに回答をお願いしているものがあります。
その場合は、説明文にそってお答えください。
- 5 答えたくない設問がある場合、無理に回答いただく必要はありません。

【男女共同参画社会とは？】

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のことです。

(男女共同参画基本法第2条)

1. あなた自身のことについておたずねします

問1 ご回答を統計的に分析するため、あなたの戸籍上の性別を教えてください。(○は1つ)

1. 男性
2. 女性
3. 答えたくない

問2 あなたの年齢は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 18歳～19歳
2. 20～29歳
3. 30～39歳
4. 40～49歳
5. 50～59歳
6. 60～69歳
7. 70歳以上

問3 あなたの職業は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------------|---------|
| 1. 勤め人(常勤) ※育休取得者等含む | → 問4へ |
| 2. 勤め人(役員) | } → 問5へ |
| 3. 勤め人(非常勤) ※パートタイム、アルバイト等 | |
| 4. 自営業(経営者、農林水産業、家業の手伝い等) | |
| 5. その他の仕事 | |
| 6. 学生 | |
| 7. 専業主婦、主夫 | |
| 8. 無職 | |

問4 問3で「勤め人(常勤) ※育休取得者等含む」と答えた方におたずねします。

あなたは、現在働いている会社などで昇進したいと思いますか。(○は1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問5 あなたは結婚していらっしゃいますか。(○は1つ)

1. 結婚している
2. 結婚していないがパートナー(同性のパートナーを含む)と暮らしている
3. 離別
4. 死別
5. 結婚したことはない
6. 答えたくない

問6 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。成人しているお子さんや別居しているお子さんも含めてお答えください。(○は1つ)

1. いる
2. いない
3. 答えたくない

2. 男女共同参画社会に関する意識について

問7 あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。「1」～「6」の中からあなたの気持ちに最も近い番号1つに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
A 家庭生活	1	2	3	4	5	6
B 職場	1	2	3	4	5	6
C 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
D 政治の場	1	2	3	4	5	6
E 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
F 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
G 自治会やPTAなどの地域活動の場	1	2	3	4	5	6
H 社会全体	1	2	3	4	5	6

問8 これらの言葉について、あなたは見たり聞いたりしたことがありますか。(○はそれぞれ1つずつ)

	見たり聞いたりしたことが	
	ある	ない
A 男女共同参画社会	1	2
B 女性活躍推進法	1	2
C ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	1	2
D 配偶者などからの暴力（DV）	1	2
E 交際中の二人の間で起こる暴力（デートDV）	1	2
F リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康/権利）	1	2
G 性的少数者（LGBTQ等）	1	2
H 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	1	2
I SDGs（持続可能な開発目標）	1	2
J ジェンダー・ギャップ指数	1	2

問9 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのようにお考えですか。
(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------|
| 1. 賛成 | → 問9-1へ |
| 2. どちらかといえば賛成 | |
| 3. どちらかといえば反対 | → 問9-2へ |
| 4. 反対 | |
| 5. わからない | → 問10へ |

問9-1 問9で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と答えた方におたずねします。

それはなぜですか。(○はいくつでも)

1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
2. 自分の両親も役割分担をしていたから
3. 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
4. 妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから
5. 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
6. 特にない
7. わからない
8. その他 ()

問9-2 問9で「どちらかといえば反対」、「反対」と答えた方におたずねします。

それはなぜですか。(○はいくつでも)

1. 男女平等に反すると思うから
2. 自分の両親も外で働いていたから
3. 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
4. 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから
5. 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから
6. 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
7. 特にない
8. わからない
9. その他 ()

問10 「男の子は、男の子らしく」、「女の子は、女の子らしく」育てるという考え方について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 同感する
2. どちらかといえば同感する
3. どちらかといえば同感しない
4. 同感しない
5. わからない

3. 女性の活躍推進について

問14 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
3. 子供ができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 子供ができても、ずっと職業を続ける方がよい
5. 子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
6. わからない
7. その他 ()

問15 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに妨げとなるものは何だと思えますか。(○はいくつでも)

1. 現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
2. 女性自身がリーダーになることを希望しないこと
3. 上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
4. 長時間労働の改善が十分ではないこと
5. 企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
6. 保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
7. 保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
8. 特にない
9. わからない
10. その他 ()

問16 あなたは、女性が管理職以上に昇進することについて、どのようなイメージを持っていますか。(○はいくつでも)

1. やりがいのある仕事ができる
2. 賃金が上がる
3. 能力が認められた結果である
4. 家族から評価される
5. 自分自身で決められる事柄が多くなる
6. やるべき仕事が増える
7. 責任が重くなる
8. やっかみが出て足を引っ張られる
9. 仕事と家庭の両立が困難になる
10. 特にない
11. わからない
12. その他 ()

問17 「女性の活躍推進」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

4. ハラスメントについて

問18 **お仕事をされている方(または以前されていた方)におたずねします。**あなたは、職場において、次にあげるようなハラスメントを受けたことがありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 受けたことがない → 問19へ
2. セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)
3. パワーハラスメント
(職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を利用した嫌がらせ)
4. マタニティハラスメント(妊娠・出産・育児に関する嫌がらせ)
5. ソジハラスメント(性自認や性的指向に関する嫌がらせ)
6. その他()

→ 問18-1へ

問18-1 **問18で「2」～「6」と答えた方におたずねします。**

あなたは、そのときどこ(だれ)かに相談しましたか。(○はいくつでも)

1. どこ(だれ)にも相談しなかった → 問18-2へ
2. 職場の相談窓口
3. 職場の人事担当部署
4. 職場の上司
5. 職場の同僚
6. 家族・親戚
7. 友人・知人
8. 宮崎市男女共同参画センター(パレット)
9. 宮崎県男女共同参画センター
10. 宮崎労働局雇用環境・均等室
11. その他()

→ 問19へ

問18-2 **問18-1で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。**

それはなぜですか。(○はいくつでも)

1. どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談するほどのことではないと思ったから
5. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
6. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7. 自分にも悪いところがあると思ったから
8. そのことについて思い出したくなかったから
9. 仕返しが怖かったから
10. 他人を巻き込みたくなかったから
11. その他()

問19 「ハラスメント」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

5. ワーク・ライフ・バランスに関する意識について

生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」の優先度についてお伺いします。

問20 あなたの「希望」に最も近い番号に○をつけてください。(○は1つ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. わからない

問20-1 あなたの「現実・現状」に最も近い番号に○をつけてください。(○は1つ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. わからない

問21 問20と問20-1の回答が異なる理由(ワーク・ライフ・バランスの希望と現実・現状に差がある理由)や、「ワーク・ライフ・バランス」についてご意見等ありましたらご記入ください。
※ワークライフバランスとは、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態のこと。

6. 新型コロナウイルスの影響について

問22 新型コロナウイルス感染拡大前と比べて、「仕事」、「家庭生活」、地域活動・学習・趣味・付き合いなどの「地域・個人の生活」に変化はありましたか。(〇はいくつでも)

1. 職に就いた
2. 職を失った
3. 収入が増えた
4. 収入が減った
5. 労働時間が増えた
6. 労働時間が減った
7. 仕事面での影響があった
8. 仕事面での影響はなかった
9. 家事・育児・介護に取り組む時間が増えた
10. 家事・育児・介護に取り組む時間が減った
11. 家庭生活への影響はなかった
12. 地域・個人の生活に取り組む時間が増えた
13. 地域・個人の生活に取り組む時間が減った
14. 地域・個人の生活への影響はなかった

問23 「新型コロナウイルスの影響」について、ご意見等ありましたらご記入ください。(コロナ禍で男女共同参画について気付いたこと等)

問28 性的少数者（LGBTQ等）に関する偏見がなくなり、性的少数者（LGBTQ等）の方が生活しやすくなるためには、行政はどうすべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 子どもの頃から正しい知識を得られるような教育の充実
2. 行政機関や民間企業での理解の促進と、安心して働くことができる環境の整備
3. 講演会や講座等の開催など啓発活動の推進
4. 啓発パンフレットの配布など市民の理解の向上
5. 公共施設や民間施設での多目的トイレの増設
6. 各種申請書などにおける不要な性別欄の廃止
7. 相談窓口（電話相談など）の設置と積極的な窓口の周知
8. 宮崎市パートナーシップ宣誓制度（※）を広く知ってもらうための広報や、宣誓することで利用できる行政サービスの充実
※「宮崎市パートナーシップ宣誓制度実施要綱」に基づき、パートナーシップの宣誓による宣誓書受領証の交付を通じ、性的少数者（LGBTQ等）の方々が抱える生きづらさの解消につなげるものです。
9. 性的少数者（LGBTQ等）の権利擁護に特化した条例の整備
10. 性的少数者（LGBTQ等）を含め、あらゆる差別の根絶を目指す条例の整備
11. 何もする必要はない
12. わからない
13. その他（)

問29 「多様な性を尊重する社会づくり」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

8. 配偶者などからの暴力（DV）について

問30 あなたは現在、どちらにあてはまりますか。（○は1つ）

※ここでの「結婚」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、同性同士のパートナー関係も含みます。

1. 現在、結婚されている方（現在、夫又は妻・パートナーがいる）、 → 問31へ
離別・死別された方（結婚していたが、離婚・死別した）
2. 未婚の方（結婚したことはない・パートナーがいたことはない） → 問39へ

問31 あなたはこれまでに、配偶者などから次のA～Dのような暴力等を受けたことがありますか。

A～Dのそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

なお、ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者（離別・死別した相手、事実婚・同性同士のパートナー関係を解消した相手）も含みます。（以下、同様）

	まったくない	1、2度あった	何度もあった
A 身体的暴行 （例：なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）	1	2	3
B 心理的攻撃 （例：人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）	1	2	3
C 経済的圧迫 （例：生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）	1	2	3
D 性的強要 （例：嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）	1	2	3

問31において、「1、2度あった」または「何度もあった」に1つでも○がある方は問32へ、1つも○がない方は問39へお進みください。

問32 あなたはこれまでに、配偶者などからの暴力（DV）を受けたとき、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

1. どこ（だれ）にも相談しなかった → 問33へ

2. 配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所等）や男女共同参画センターに相談した
3. 警察に連絡・相談した
4. 民生委員・児童委員に相談した
5. 法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した
6. 上記（2～5）以外の公的な機関（市役所など）に相談した
7. 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した
8. 医療関係者（医師、看護師など）に相談した
9. 学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）に相談した
10. 職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）に相談した
11. 家族や親戚に相談した
12. 友人・知人に相談した
13. その他（具体的に

→ 問34へ

問33 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

1. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談するほどのことではないと思ったから
5. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
6. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7. 自分にも悪いところがあると思ったから
8. そのことについて思い出したくなかったから
9. 仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）
10. 世間体が悪いと思ったから
11. 他人を巻き込みたくなかったから
12. 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
13. 自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
14. 相手の行為は愛情表現だと思ったから
15. 別れるつもりがなかったから
16. その他（具体的に

問34 あなたは、配偶者などからの暴力（DV）を受けたとき、どうしましたか。最もあてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

1. 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった → 問35へ

2. 別れたい（別れよう）とは思わなかった
3. 別れた

→ 問37へ

問35 あなたが、配偶者などと別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. 子供がいる(妊娠した)から、子供のことを考えたから → 問36へ
2. 仕返しが怖かったから(もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)
3. 経済的な不安があったから
4. 世間体が悪いと思ったから
5. 周囲の人から、別れることに反対されたから
6. 相手が別れることに同意しなかったから
7. 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから
8. これ以上は繰り返されないと考えたから
9. 相手には自分が必要だと思ったから
10. 別れるとさびしいと思ったから
11. 孤立してしまうと思ったから
12. その他(具体的に)

→ 問37へ

問36 あなたが、子供のことで配偶者などと別れなかった主な理由は何ですか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は3つまで)

1. 子供をひとり親にしたくなかったから
2. 子供にこれ以上余計な不安や心配をさせたくないから
3. 相手と子供だけで暮らすことになった場合、子供に危害が加えられる恐れがあったから
4. 子供が反対したから
5. 出ていくなら子供を置いていけと言われたから
6. 相手に親権を奪われ、子供と離ればなれになる恐れがあったから
7. 子供の保育所や学校の問題(子供が転校を嫌がる、保育所への転入が難しいなど)
8. 養育しながら生活していく自信がなかったから
9. その他(具体的に)

問37 あなたはこれまでに、配偶者などからの暴力(DV)を受けたとき、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。(○は1つ)

1. 感じた
2. 一度も感じなかった
3. その他(具体的に)

問38 「配偶者などからの暴力(DV)」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

9. 交際中の二人の間で起こる暴力（デートDV）について

問39 あなたには、これまでに交際相手（同性の交際相手を含みます）がいましたか。あてはまる番号1つに○をつけてください。現在、結婚している方については、結婚前についてお答えください。

（○は1つ）

なお、ここでいう「交際相手」には、婚姻届を出していない事実婚は含みません。（以下、同様）

1. 交際相手がいた（いる） → 問40へ
2. 交際相手はいなかった → **以上で調査は終了になります。**ご協力、ありがとうございました。

問40 あなたはこれまでに、交際相手から次のA～Dのような暴力等を受けたことがありますか。

A～Dのそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。（○はそれぞれいくつでも）

	まったく ない	10歳代 にあった	20歳代 にあった	30歳代 以上 にあった
A 身体的暴行 (例：なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)	1	2	3	4
B 心理的攻撃 (例：人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫)	1	2	3	4
C 経済的圧迫 (例：生活費を渡さない、給料や貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど)	1	2	3	4
D 性的強要 (例：嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)	1	2	3	4

問40において、「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「30歳代以上にあった」に1つでも○がある方は問40-1へ、

全て「まったくない」に○がある方は以上で調査は終了になります。

ご協力、誠にありがとうございました。

問40-1 また、交際相手の性別はどちらでしたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

1. 異性
2. 同性

問41 あなたはこれまでに、交際相手から暴力（デートDV）を受けたとき、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

1. どこ（だれ）にも相談しなかった → 問42へ
2. 配偶者暴力相談支援センター（婦人相談所等）や男女共同参画センターに相談した
3. 警察に連絡・相談した
4. 法務局・地方法務局、人権擁護委員に相談した
5. 上記（2～4）以外の公的な機関（市役所など）に相談した
6. 民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関、民間シェルターなど）に相談した
7. 医療関係者（医師、看護師など）に相談した
8. 学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）に相談した
9. 職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）に相談した
10. 家族や親戚に相談した
11. 友人・知人に相談した
12. その他（具体的に

→ 問43へ

問42 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)

1. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談するほどのことではないと思ったから
5. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
6. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
7. 自分にも悪いところがあると思ったから
8. そのことについて思い出したくなかったから
9. 仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）
10. 世間体が悪いと思ったから
11. 他人を巻き込みたくなかったから
12. 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
13. 自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
14. 相手の行為は愛情表現だと思ったから
15. 別れるつもりがなかったから
16. その他（具体的に

問43 あなたは、交際相手からの暴力（デートDV）を受けたとき、どうしましたか。最もあてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

1. 別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった → 問44へ
2. 別れたい（別れよう）とは思わなかった
3. 別れた

→ 問45へ

問44 あなたが、交際相手と別れなかった理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

1. 仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）
2. 経済的な不安があったから
3. 世間体が悪いと思ったから
4. 周囲の人から、別れることに反対されたから
5. 相手が別れることに同意しなかったから
6. 相手が変わってくれるかもしれないと思ったから
7. これ以上は繰り返されないと考えたから
8. 相手には自分が必要だと思ったから
9. 別れるとさびしいと思ったから
10. 孤立してしまうと思ったから
11. 子供がいる（妊娠した）から、子供のことを考えたから
12. その他（具体的に

)

問45 あなたはこれまでに、交際相手からの暴力（デートDV）を受けたとき、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

1. 感じた
2. 一度も感じなかった
3. その他（具体的に

)

問46 「交際中の二人の間で起こる暴力（デートDV）」について、ご意見等ありましたらご記入ください。

以上で調査は終了になります。ご協力、誠にありがとうございました。

ご記入漏れがないか、もう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手不要）にて

令和4年7月19日（火） までにご投函ください。



©宮崎市

【本アンケートに関するお問合せ先】

宮崎市地域振興部 文化・市民活動課 市民活動・男女共同参画係
電話：0985-21-1835

